

時70
00 41.

文學博士服部宇之吉撰

清國通考 第一篇

東京

三省堂書店發行

清國通考例言

一 本書ハ、清國官制學術風俗人情等ノ諸方面ニ涉リテ記述シ、上ハ朝廷ノ大事ヨリ、下ハ市井ノ瑣事ニ至ルマデ、苟モ以テ清國ノ寔情ヲ知ルニ資スルニ足ルモノハ、勉メテ之ヲ網羅センコトヲ期ス。但シ清國ノ寔情ヲ所有方面ヨリ記述センコトハ、各種専門學者ノ考究ニ待タザルベカラズ。著者ハ今本書記述ノ事項ヲ專ラ上記ノ諸件ニ限り、其他ノ事項ハ之ヲ他ノ専門學者ニ讓ル。

一 本書ノ記述ハ、其事項ノ性質ニ從リ、或ハ議論ヲ主トシ、或ハ歴史の沿革ニ重キヲ置ク等、自ラ一樣ナラザルベシ。譬ヘバ、官制ノ如キハ故ヲ溫ネズシテ今ヲ知ラン

トスルコト難キヲ以テ、勢ヒ沿革ヲ考究セザルベカラズ、而シテ風俗人情等ニ至リテハ、從來内外國人ノ記述ニ係ルモノ少カラザレド、往々正鵠ヲ得ザルモノアレバ、此等ハ勢ヒ其見解ノ正否ヲ論ジ、以テ著者ノ見解ヲ明カニセザルヲ得ザルガ如シ、讀者幸ニ體裁ノ純ナラザルヲ咎ムル勿レ。

一 本書記述ノ順序ハ、必ズシモ系統的ナラズト雖モ、仍ホ勉メテ類ヲ以テ相接シ、甚ダシキ不倫ナランコトヲ期ス。全部結了ノ上、更ニ修正ヲ加ヘテ體系ヲ備ヘシムベシ。

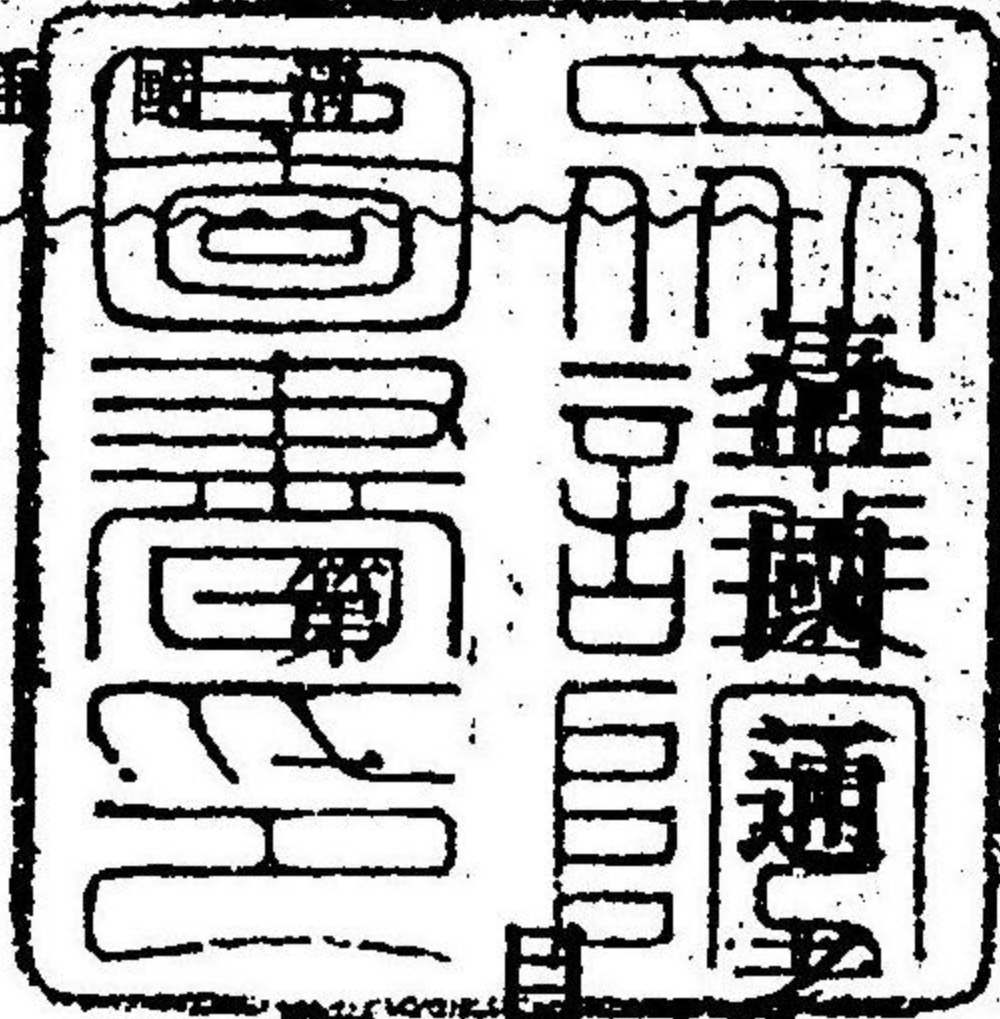
一 清國ノ事情ヲ知ラントスル者、多クハ最モ其行政組織ヲ解スルニ苦シムモノ、如シ。是以テ本書第一篇ニ

於テ、先ヅ行政最高府タル軍機處ノ組織職務等ヲ説ク、而シテ之ヲ説クニ就テ、勢ヒ内閣及翰林院並ニ給事中ノ事ヲ併セ説カザルベカラズ、又翰林院ヲ説クニ付テ、科擧ニ論及スルヲ便ト思ヘリ。因テ今此等五項ヲ合シ、更ニ科場餘聞ノ一項ヲ加ヘテ一篇トナス。第二篇ニハ、仍ホ中央及地方ノ行政ノ事ヲ記述スベシ。

一 本書ハ、約二ヶ月ニ一篇ヲ出ダシ、六篇ヲ以テ一先ヅ終リヲ告ゲン預定ナリ。但シ材料ノ多少ニヨリ或ハ伸縮スルコトアルベシ。

明治三十七年十一月北京大學堂ニ於テ

著者識ス



第一篇

次

軍機處

由來、職務、
設官

附上諭等發表ノ手續

第二

內閣

沿革、職務、
設官

第三

六科給事中

沿革職務

第四

翰林院

沿革、職務、
設官

附詹事府

第五

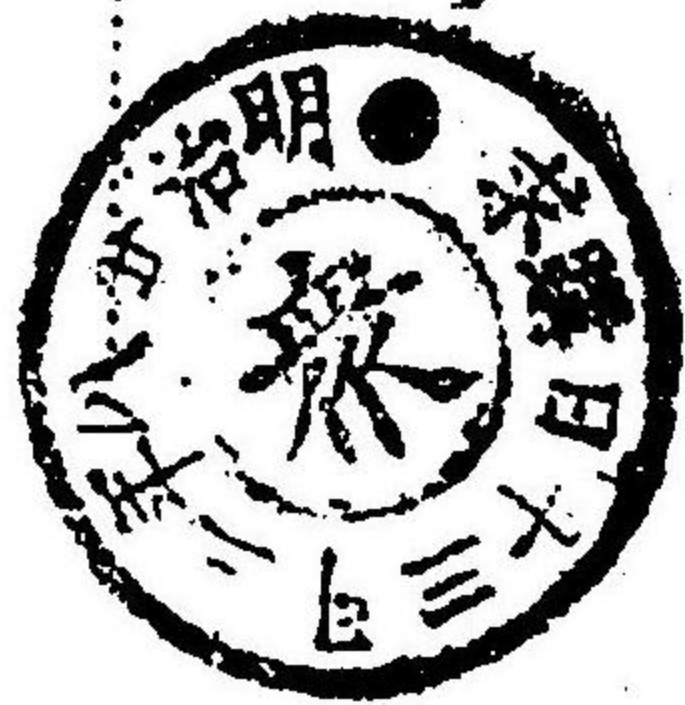
學校ト科擧

(但シ武科擧
ヲ除ク)

七六

國子監、府州縣學等

目次



學政使ト考試
 府州縣學學生及府州縣學教官
 歲考及科考
 貢生及監生
 國子監
 貢生等ノ特權
 鄉會試等ノ職官
 鄉試
 會試及殿試並ニ傳臚
 新進士

第六 科場餘聞……………一四六

目次畢

清國通考第一篇

文學博士 服部宇之吉撰

第一 軍機處

軍機處ハ清國最高ノ行政機關ニシテ、先ヅ我邦ノ内閣ニ當ルモノナリ。但シ其組織權限等ハ我邦ノ内閣ト同ジカラズ、且兼ネテ最高顧問府ノ性質アリ。今其組織權限等ヲ説カントスルニハ、先ヅ其設立ノ由來ヲ知ラザルベカラズ。而シテ其由來ヲ知ラントスルニハ、勢前代ノ制度ニ溯リテ考究セザルベカラズ。

明ノ太祖ハ前代ノ制ニ因リ、中央政府ニ中書省ヲ設ケ、其長

官左右丞相ヲシテ天下ノ事ニ任ゼシメ、而シテ丞相ノ下ニ平章政事、左右丞、參知政事ヲ置キ、衆職ヲ統ベシメ、其屬僚トシテ左右司郎中、員外郎等ヲ置キ、各分レテ諸司ニ屬シ、事務ニ任ゼシメタリ。洪武元年八月、吏、戶、禮、兵、刑、工ノ六部ヲ設ケ、各部ニ尙書、侍郎等ノ官ヲ設ケ、皆ナ中書省ニ屬セシム。其後少シク中書省官制ヲ更改セルモ、大體ニ於テハ前記ノ如シ。然ルニ洪武十三年正月、丞相胡惟庸罪アリテ誅セラレ、及ビ太祖古ニ鑑ミ、今ニ徵シ、深ク大臣專權ノ弊ニ懲リ、政權ヲ臣下ニ假スノ害ヲ感ジタレバ、政權ハ悉ク之ヲ己ニ收ムルニ決シ、遂ニ中書省ヲ廢シ、丞相等ノ官ヲ廢シ、其事ハ之ヲ六部等ニ分屬セシメ、六部尙書等ヲシテ各分チテ天下ノ事ニ任ゼシムルコト、ナシタリ。是ヨリ以後、政權一ニ天子ニ

歸シ、復一人ニテ政權ヲ綜ブル大臣無シ。洪武二十八年、羣臣ニ諭シ、以後嗣ギテ君タル者再ビ丞相ヲ置ク勿レ、若シ臣下ニシテ丞相ヲ置クノ議ヲ上ル者アラバ、之ヲ極刑ニ處スベシト云ヘリ。

是ヨリ先、洪武十五年、宋制ニ倣ヒテ華蓋殿、武英殿、文淵閣及東閣ニ各大學士ヲ置キ、顧問ニ備フルコト、ナシ、又別ニ文華殿大學士ヲ置キ、太子輔導ノ任ニ當ラシメタリ。此等三殿二閣ハ皆ナ宮中ニ在リテ、大學士ハ此ニ入直シテ顧問ニ備ハル。之ヲ閣臣又ハ閣老ト云ヘリ。而シテ大學士ハ秩均シク正五品ニシテ、位既ニ卑ク、且專ラ文學ヲ以テ顧問ニ備ハルノミニテ、政務ヲ與カリ聞クコト無カリキ。太祖ハ萬機ヲ親ラ裁決シ、時トシテ翰林及春坊ノ官ニ命ジテ、諸司ノ奏啓ヲ

考駁セシメタルコトアリシモ、閣臣ニハ一モ政務ニ預ラシメザリキ。然ルニ天子親ク萬機ヲ視ルコトハ、勢甚ダ難キヨリ、永樂帝ハ其親信スルトコロノ者ヲシテ、文淵閣ニ入直セシメテ機務ニ參預セシメタリ。但シ其職務ハ、各部ヨリ上奏スル事項ニ對スル批答及上諭ニ關シテ、顧問ニ備ハリ意見ヲ奏スルニ止マリ、未ダ批答、上諭等ヲ擬撰スルコト無カリキ。即チ批答及上諭ハ、閣臣ノ意見ヲ聞カレタル上ニテ、帝親ラ之ヲ決シテ、關係ノ大臣ヲ召シテ旨ヲ傳へ、御前ニテ之ヲ筆記セシメタリ。其後遂ニ閣臣ヲシテ批答及上諭ヲ擬撰セシムルコト、ナリ。又永樂帝ガ閣臣ヲシテ機務ニ參預セシメラレシ當時ヨリ、初メテ內閣ノ名アリ。仁宗ノ時、楊士奇等仁宗ガ太子タリシ時ニ其經師タリシ關係ヨリ、甚ダ重用セ

ラレ、宣宗ノ時ニ至リテハ、機務ハ大小ト無ク一ニ之ヲ楊士奇等ニ諮詢シ、其意見ニヨリテ可否ヲ決セラレシヨリ、內閣ノ勢權日ニ盛ニシテ、六部尙書ハ均シク其意ヲ奉承スルニ至リ、且前記ノ如ク、內閣ハ遂ニ批答及上諭ヲ擬撰スルニ至リシヨリ、其權勢更ニ重ク、嘉靖以後ハ、朝廷ノ席次モ尙書ノ上ニ列スルニ至レリ。

清朝モ國初ハ明ノ制ヲ受ケ、機務ノ出納ハ一ニ內閣ノ手ヲ經タリ。但シ軍機其他天子ヨリ特ニ命ゼラレシ事項ハ、議政王大臣ニ於テ之ヲ審議スルノ例ナリキ。然ルニ雍正七年準噶爾征討ノ事アリ。兵ヲ西北兩路ニ用フルニ當リ、軍事ノ機密自ラ多カリシガ、當時內閣ハ太和門外ニアリ。宿直ノ屬官モ多ク、隨テ軍機漏泄ノ虞アルニヨリ、別ニ軍需房ヲ隆宗門

内ニ設ケ、親王大臣等ノ中ヨリ特命シテ、其事機ヲ領セシメ、且内閣中書ノ謹直ナル者ヲ選ンデ此ニ宿直セシメテ、機密文書ノ繕寫ニ從事セシメタリ。是實ニ軍機處ノ濫觴ナリ。雍正帝崩ジ乾隆帝立チ、軍需房ヲ改メテ總理處ト稱シ、其事ヲ領スル親王大臣等ヲ總理王大臣ト稱セリ。乾隆三年又改メテ軍機處ト稱シ、其大臣ヲ軍機大臣ト云ヒ、尙書侍郎ノ中龍眷尤異ノ者ヲ以テ之ニ任ジタリ。

是ニ由テ之ヲ觀ルニ、軍機處ハ本ト軍事ノ機密ヲ掌ルガ爲ニ設ケタル内閣分局ニシテ、一般ノ政務ニ預ルモノニアラズ。是軍機處ノ名アル所以ナリ。然ルニ其後漸ク一切ノ政務悉ク軍機處ニ歸スルニ至リ、軍機處ハ行政最高府トナレリ。蓋シ當初軍機大臣ニ任ゼラレシ者ハ、皆ナ天子ガ最モ親信

スルトコロノ人ニシテ、且軍機ヲ掌ルノ故ヲ以テ、日夜天子ト接近スルヲ以テ、自然ニ内閣ノ權ヲ奪ヒ、政務一二軍機大臣ニ歸スルニ至リシナリ。此ニ於テ内閣ハ、復批答上諭ヲ擬撰スルコト無ク、其事ハ皆ナ軍機處ニ移リ、内閣ハ僅ニ批答上諭ノ下リシモノヲ受ケテ、之ヲ公布スルノ職ヲ取ルモノトナレリ。抑モ支那ニテハ、中外ノ章奏ニ對スル批答及上諭ハ、政務ノ機密トシテ天子ノ親裁ニ出ツベキモノトス。故ニ歴代開國ノ名君及中興ノ明主ハ、此機務ハ決シテ臣下ノ手ヲ假ラズ、必ズ親ラ之ヲ裁決シタリ。清朝ノ初メ、順治帝康熙帝ナドハ、每朝或ハ自ラ内閣ニ出御シ或ハ閣臣ヲ召見シ、批答上諭ニ就テ、面タリ命ヲ閣臣ニ下シテ、之ヲ擬撰セシメタリ。政務一二軍機處ニ歸スルノ後モ亦然リ。天子ハ每朝朝政

ノ時ヲ以テ、必ズ軍機大臣ヲ召見シ、其上奏ヲ聞カレ、又中外ノ章奏ニ對スル批答及上諭ハ、面タリ旨ヲ軍機大臣ニ傳ヘラル、モノトス。是邸抄ニ、毎日必ズ召見軍機ノ一條アル所以ナリ。明ノ時、内閣ガ批答及上諭ヲ擬撰シテ、御覽ニ呈シ裁決ヲ得テ、之ヲ公ニスルヤウナリシ以來ハ、天子ハ必ズシモ閣臣ヲ召見セズ、深ク宮中ニ在リテ、宦官ヲシテ旨ヲ閣臣ニ傳ヘシメシヨリ、遂ニ宦官跋扈ノ弊ヲ馴致シテ、宦官ノ權勢ハ内閣ヲ凌ギ、政務ハ宮寺ニ左右サル、ニ至レリ。順治帝ハ深ク此弊ニ懲リ、順治十年六月、特ニ上諭ヲ發シ、宦官ハ一切政務ニ干預スルコトヲ禁ジ、且妄リニ外人ト交ハルコトヲ禁ジタリ。但シ前代ト雖モ、始メヨリ宦官ノ政務ニ干預スルヲ許シタルニアラズ、惟ダ天子深宮ノ内ニ在リテ、閣臣ヲ見

ズ、宦官ヲシテ旨ヲ傳ヘシメシヨリ、宮寺政務ニ干ルノ弊ヲ成シタルモノナリ。然レバ此弊ヲ去ラントスルニハ、天子ト大臣ト常ニ相見テ、宦官ノ其間ニ介スルノ機ヲ與ヘザルコトニ注意セザルベカラズ。是清朝ニテハ、今ニ至ルマデ、仍ホ天子ハ、毎日期ニ臨ミ、軍機大臣ヲ召見スル所以ナリ。防弊ノ事亦勉メタリト云フベシ。軍機大臣ハ此ク一切ノ機務ニ參預スルヲ以テ、巡幸又ハ頤和園駐蹕ノコトアレバ、必ズ駕ニ扈從スベキモノトス。

軍機大臣ガ機務ニ參預ストハ、如何ナル職務ヲ執ルカト云フニ、中外諸臣工ノ章奏ニ對スル批答及上諭ニ關スルモノヲ以テ、其主要ノモノトス。今此ニ聊カ中外臣工ノ章奏ニ就テ説明スルトコロアラン。從前ハ章奏ニ專摺ト題本トノ別

アリ。題本トハ、緊急ナラザル事件ハ一年四回ニ分チ、類ヲ以テ各司ノ上奏ヲ取纏メテ、内閣ヨリ天子ニ上リシモノヲ云ヒ、專摺トハ、一事件ニ付キ專ラ其爲ニ上奏スルモノヲ云ヘリ。然ルニ近來ハ題本ヲ廢シ、總テ專摺ニ改メタリ。又題本ハ、外省ノ臣工ヨリ上ルモノハ、先ヅ之ヲ通政使司ニ届ケ、通政使司ヨリ之ヲ内閣ニ送リシガ、題本廢セラレシカバ、通政使司モ亦隨テ自然廢セラレタリ。專摺ニ封密ノモノト否トノ別アリ。封奏ハ必ズ秘密ヲ要スル奏事ニシテ、天子親ラ之ヲ開カル、モノトス。而シテ其奏事ニシテ採用セラレザルモノハ、該封奏ヲ其儘ニ御手許ニ留メラレ、軍機大臣ニモ示サレズ、之ヲ留中不發ト稱ス。凡ソ外省ノ總督巡撫布政使、按察使、學政使等ヨリ上ル章奏ハ、皆ナ該省ノ候補武職(候補守備候補)

等(千總)ヲシテ、驛傳ニ乘リ北京ニ携ヘ來ラシメ、之ヲ外奏事處ニ達ス。但シ事ニ從テ、上奏ト同時ニ其事ニ關係アル部(六部衙門)ニ照會ヲ要スルモノハ、別ニ該照會文書ヲ部ニ届ケ、又軍機ニ關スル上奏ハ、先ヅ之ヲ兵部ニ達シ該部ヨリ進達ス。外奏事處ハ章奏ヲ受クレバ、之ヲ内奏事處ニ送り、内奏事處ヨリ之ヲ天子ニ進呈ス。但シ京官ノ上奏ハ、必ズシモ外奏事處ヲ經由スルヲ要セズ。凡ソ上奏ハ必ズ三部ヲ具スベキモノトス。即チ正副及備各一部トス。奏事處ハ内務府(即チ我邦ノ宮内省)ノ管理ニ屬シ、内奏事處ハ太監即チ宦官ヲ以テ之ニ充ツ。天子ハ章奏ヲ覽テ、一一之ニ批答ヲ與ヘラル。其例規ニヨルノ報告類又ハ外省大官ノ着任及事務引繼ヲ終ヘシ屆書類等ニハ、知道了又ハ該部知道ノ批答ヲ與フ。例規ヲ引用シテ許

可ヲ請ヘル事項ニシテ、其請フガマ、ニ許可セラル、モノ
 ニハ、着照所請該部知道ノ批答ヲ與フ。但シ先ヅ其事ニ關係
 アル部ニ下シ審議セシメ、然ル後ニ方メテ許否ヲ決セラル
 ベキモノニハ、某部議奏ノ批答ヲ與ヘ、他日該部ヨリ議奏ス
 ルニ及ビ、其議ヲ納レラル、時ハ、依議ノ批答ヲ與フ。又上奏
 ニシテ、特ニ上諭ヲ發シテ之ヲ處置スルコトヲ要スルモノ
 ニハ、另有旨(別ノ意)ノ批答ヲ與ヘ、且同時ニ上諭ヲ發スルモ
 ノトス。凡ソ此等ノ批答ハ、天子親ラ硃筆ヲ以テ之ヲ書スル
 チ原則トナス。然レドモ一日數十百件ノ章奏ニ對シ、逐一之
 チ覽且批答ヲ書スルハ頗ル煩雜ノコトナレバ、實際ニ於テ
 ハ、軍機大臣ニ於テ預メ之ヲ通覽シ、每朝召見ノ時ニ、如何ナ
 ル批答ヲ與ヘラルベキカヲ、逐一口頭ニテ奏聞シ、天子ハ之

ニ從リテ批答ヲ與ヘラル、ヲ常トス。而シテ外省臣工ノ章
 奏ニハ、硃筆ヲ以テ任意ニ一二字ヲ書シ、左京衙門及京官ノ
 章奏ニハ、同ジク硃筆ヲ以テ記號ヲ附シ以テ批答トナス。該
 記號ハ、知道了以下各種ノ批答ニ付キ、各一定ノ形式アリ。此
 クシテ批答終ハレバ、該章奏ハ之ヲ軍機大臣ニ下ス。該大臣
 之ヲ受ケテ批本處ニ交附ス。批本處(宮中ニ在リ内閣中書ノ中ヨ
 入直セ)ハ天子ノ書カレシ文字及記號ニ從リ、硃筆ヲ以テ各
 章奏ニ批答ヲ書ス。此クシテ批答濟トナリシ章奏ハ、再ビ軍
 機大臣ヨリ之ヲ内閣ニ下ス。内閣ハ先ヅ之ヲ六科給事中ニ
 交附シテ、其違失無キヤ否ヤヲ考査セシメ、給事中以テ違失
 無シトセバ、即チ内閣ヨリ之ヲ發表ス。其發表ノ法ハ、最初章
 奏ハ凡テ三部ヲ具シ、其中ノ一部ハ、御覽ニ供シ批答ヲ加ヘ

ラレ、仍ホ別ニ二部ノ預備アルユエ、内閣ハ此二部ニ批答ヲ
 寫シ入レ、其一部ヲ當該官府ニ送ル。即チ外省ヨリノ章奏ハ、
 初メ之ヲ携ヘ來リシ該省ノ差官ニ交附シテ持チ返ラシメ、
 又在京衙門ノ章奏ハ、該衙門ヨリ派遣ノ筆帖式ニ交附ス。内
 閣ニハ、從前ハ滿票簽處及漢票簽處アリ。各中書舍人ヲ以テ
 之ニ充テ、專ラ批答ヲ寫スコトヲ掌レリ。但シ近來ハ滿文ヲ
 用ヒザルユエ、今ハ止ダ漢票簽中書舍人アリ。批答ニハ漢文
 ノミヲ用フ。又該部知道若シクハ某部議奏ノ批答ヲ與ヘラ
 レシ章奏ハ、一面該批答ヲ寫シタル原奏ノ副本ヲ當該官府
 ニ返ヘスト同時ニ、又一面ハ該原奏ト批答トヲ寫シテ、之ヲ
 關係ノ部衙門ニ送附スルモノトス。而シテ他日某部議奏ノ
 上ニ、依議ノ批答ヲ得レバ、該部ノ上奏ト之ニ對スル批答ト

ハ、内閣ヨリ之ヲ最初上奏シタル官府ニ送り、此ニ於テ該案
 方メテ結了ス。又另有旨ノ批答ヲ與ヘラル、時ハ、其旨ハ別
 ニ軍機大臣ニ命ジテ之ヲ擬撰セシメラル。封奏ノ採用セラ
 ル、モノモ亦然リ。

上諭ハ之ヲ分チテ二種トス。其一ハ巡幸上陵(東陵又ハ西陵ニ謂スルコト)蠲

(水旱等ノ災ヲ被リシ地ノ賑)賑(貧民及被災地ノ民)京官及外官ノ黜陟調

補並ニ其他凡テ中外ニ曉諭スベキ事項トス。此種ノ上諭ハ、

天子面タリ軍機大臣ニ旨ヲ授ケテ上諭ノ案文ヲ擬撰セシ
 メ、天子之ヲ可トセラルレバ、軍機大臣ハ再ビ之ヲ奉ジテ内
 閣ニ交附ス。内閣ハ先ヅ之ヲ六科給事中ニ授ケテ、其違失無
 キヤ之ヲ實行シテ事ニ害無キヤヲ考查セシム、給事中以テ
 違失無ク或ハ事ニ害無シトナセバ、内閣ヨリ之ヲ發表ス。其

發表ノ法ハ、官員ノ黜陟調補等僅ニ二三ノ衙ノミニ關スルモノハ、上諭ヲ謄寫シテ先ツ之ヲ各當該衙門ニ送附シ、獨賑等ノ如ク、其事ノ一省又ハ二三省ノミニ關スルモノハ、亦先ツ之ヲ各當該省ニ送附ス。而シテ事ノ一般ニ關スルモノハ、之ヲ悉ク各官衙ニ送附ス。此種ノ上諭ハ、總テ宮門抄又ハ邸抄ト稱シ、又京報等ニヨリ發表公布セラル。之ヲ明發上諭ト云フ、在京各衙門及堂官（即チ我邦ノ大臣次官ノ如キ者）ハ、毎日各其部下ノ小吏ヲ軍機處及內閣ニ派シ、上諭下レバ直ニ之ヲ寫シテ報知セシム。外省ノ督撫等モ、中央政府ノ機密ヲ探知スル爲ニ、其腹心ノ者ヲ北京ニ置キ、此者毎日上諭ヲ探訪シテ之ヲ外省ニ報ズ。故ニ各衙門等ノ官員ハ、上諭ノ內閣ヨリ發表セラル、前ニ、已ニ先ツ之ヲ知ルコトヲ得ルナリ。又官員ノ轉任昇

任等ハ、別ニ早ク之ヲ探知シテ、本人ニ報知スルコトヲ以テ業トナス者アリ。上諭ノ第二ハ、群臣ヲ誥誡シ兵略ヲ指授シ政事ヲ稽查シ、又刑罰ノ當ヲ得ザルヲ責問スル等ノ事項トス。此種ノ上諭モ軍機大臣旨ヲ承ケテ之ヲ擬撰シ、再ビ旨ヲ奉ジテ之ヲ關係官廳又ハ兵部ニ交附ス。但シ上諭ハ、之ヲ紙函ニ入レ、辨理軍機處ノ銀印ヲ鈐シ、以テ漏泄ヲ防グ。其外省ニ送附スベキモノハ之ヲ兵部ニ交附シ、兵部ハ所謂差官ヲ派シ驛傳ニヨリテ送ラシム。驛傳ニハ日行三百里ヨリ八百里ニ至ルノ別アリ、其遲速ハ皆ナ軍機處ヨリ之ヲ定メ、彼ノ函ノ表面ニ明記ス。日行三百里ノモノニハ馬上飛遞ト書シ、更ニ其以上ノ快速ヲ要スルモノニハ、日行幾百里ト明記ス。但シ近來ハ電報ニヨルモノ少カラズ。此法ニヨルモノヲ寄

信上諭ト云ヒ、關係ノ官府ノミニ下シ一般ニ公布スルコトナシ。各省督撫等ノ上奏ニ、何年何月何日奉軍機大臣廷寄(寄フ)ト云フモノ即チ是ナリ。軍機大臣ノ職ハ、上諭ヲ擬撰スル外ニ、禮部又ハ翰林院ナドヨリ擬撰セル祝文、冊文等ニシテ、天子ノ意ニ合ハザルモノヲ特ニ命ゼラレテ審議スルコトモアリ。又文武官ノ任命ニ就テハ、其例規ニヨルモノハ吏部ヨリ、其人名ヲ擬奏スルモ、我邦ノ勅任官ニ準ズベキ内外文武官ハ、特旨ヲ以テ任命セラル、モノユエ、其候補人名ハ軍機大臣ヨリ之ヲ擬奏シ、以テ裁決ヲ俟ツヲ常トス。又文武官ニシテ功勞アル者ハ、特ニ上諭ヲ以テ軍機處ニ下シ、其將來任用セラルベキ官職ヲ定メテ、其名ヲ記録セシメラル。之ヲ記名ト云フ。譬ヘバ記名提

督記名道臺ノ如キ是ナリ。他日官ニ缺員ヲ生ジタル場合ニハ、記名ノ種類ニヨリ任用セラル、モノトス。軍機大臣ノ掌ルトコロハ、上記ノ諸件ニ涉ルモ、其本務ハ上諭ヲ擬撰シ、且之ヲ奉ジテ下ニ下スニアルナリ。軍機大臣ハ專官無シ。各部ノ尙書、侍郎等ノ兼任トス。但シ近代侍郎ヨリ軍機ニ入リシ者無シ。軍機大臣又定員無シ。但シ近時五人ヲ超エシコト無シ。最近ノ例ヲ以テ云ヘバ、榮祿ガ軍機ノ首席タリシ時ハ、總員四人ナリシガ、慶親王軍機ニ入り首席トナリシ後、更ニ榮慶ヲ軍機ニ入ラシメタリ。故ニ現時ハ定員五人ナリ。

天子毎日早朝、殿ニ御シテ政ヲ聽ク。此時軍機大臣ハ皆ナ御前ニ伺候シ旨ヲ奉ズ。但シ御前ニ於テ奏上ナドヲ爲スハ、主

トシテ首席ノ大臣トス。其餘ハ通常其席ニ陪スルニ過ギズ。召見ノ時間ハ、大抵午前四時ヨリ六時ノ間トス。但シ戰時用兵ノ機密アラバ、夜間ト雖モ召見ノコトアルベキハ勿論ナリ。乾隆以前、軍機大臣中一人ノミ進見シテ、面タリ諭旨ヲ奉ジ退キテ之ヲ同僚ニ傳ヘ、衆議ニヨリ上諭ヲ擬撰シタリシガ、乾隆ノ時、傅文忠公恆ノ金川ヲ平ゲテ京ニ歸リ、軍機大臣ノ首領トナリシ時ニ、乞ヒテ軍機大臣一同進見ノ事ニ改メ、以後遂ニ恆例トナリ、今猶ホ然リ。

乾隆以前ハ、軍機大臣ノ首領面タリ諭旨ヲ奉ジ、退キテ軍機處ニ到リ、此所ニテ衆議ノ上ニ大臣親ラ筆ヲ執リテ上諭ヲ擬撰シタルガ、前ニ云ヘル傅文忠公ノ時ヨリ、始メテ滿文ダケハ、章京ヲシテ筆ヲ執リ稿ヲ起サシムルノ例ヲ開ケリ。章

京トハ、滿洲語ノ音譯ニシテ幫助ノ義ナリ。此例一タビ開ケテヨリ、遂ニ滿文ハ必ず章京ヲシテ擬撰セシムルコト、ナリヌ。漢文ダケハ當時猶ホ軍機大臣親ラ執筆シタルガ、此時同ジク軍機大臣タリシ汪文端公廷珍ハ、本ト文學ニ長ゼルヲ以テ、張廷玉ニ代ハリテ軍機ニ入り、上諭擬撰ノ事ヲ司ドリシモ、滿文ハ章京ノ手ニ成ルニ、漢文ハ猶ホ必ず己ノ手ニ出デシムルハ、一人權ヲ專ニスルノ嫌アリト思ヒ、遂ニ漢文モ亦章京ヲシテ擬撰セシムルコト、ナシタリ。是ヨリ上諭ヲ擬撰スルコトハ、終ニ全ク章京ノ專職トナリヌ。而シテ章京ハ、初メハ内閣中書舍人ヲ用ヒシガ、(軍機處本ト内閣ノ分)此モ漸ク範圍ヲ擴張シ、廣ク各部院ノ能事者ヲ撰ブコト、ナリ、其員數モ増加シ、今ハ六十八ヲ以テ定員トス。章京又之ヲ小

軍機ト云ヒ、以テ軍機大臣ヲ大軍機ト云フニ別ツ。軍機處ハ、他ノ衙門ノ如ク例規ノ事務アルニアラズ、且其掌ルトコロハ皆ナ機務ニ屬スルユエ、別ニ公署ヲ設ケズ、唯ダ宮中隆宗門内ニ宿直處アルノミ。

第二 内閣

軍機處ハ本ト内閣ヨリ分レテ、遂ニ全ク内閣ノ權ヲ奪ヒシコト、軍機處ノ條下ニ云ヘルガ如シ。而シテ内閣自身ハ本ト翰林ヨリ分レテ、遂ニ殆ド全ク翰林ノ權ヲ奪ヒシモノナリ。抑モ支那ノ政務ハ甚ダ煩縟ニシテ、天子ノ裁決ヲ仰グベキ事項甚ダ多シ。軍機處ノ條ニモ云ヘル如ク、例規ニヨルノ報告類マデモ、逐一天子親ラ之ヲ覽テ批答ヲ與フ、甚ダシキニ

至リテハ、總督巡撫其他特簡ノ地方文武官ノ着任及公用ニヨリ京師ニ來リシ場合ニ於ケル歸任等ノ事マデモ、之ヲ上奏シ天子之ニ批答シ、又地方ニテ殺人犯アレバ、其事情ト刑ノ適用トヲ具シテ之ヲ上奏シ裁可ヲ仰グ。此ク事務ノ煩縟ナル所以ハ、一ハ督撫等ノ官ハ皆ナ天子ニ直隸スルトコロノモノニシテ、命ヲ尙書ニ受クルコト無キユエ、事務細大トナク直ニ之ヲ天子ニ上奏シ、其承認或ハ裁可ヲ請フベキニヨル。然レバ一日萬機ノ語ハ、決シテ止ダニ形容ノ語ノミニアラザルナリ。一人ニシテ此ク煩縟ナル政務ヲ一々裁斷セシコトハ、氣力人ヲ兼ネ自信力ノ極メテ強キ者ニアラザルヨリハ、到底爲シ得ベカラズ。古ヨリ大臣專權ノ弊ニ懲リテ、政權ヲ已ニ收メ政務一ニ之ヲ已ニ決セントシタル天子少

カラザルモ、到底其煩ニ堪ヘザルヨリ、遂ニ大臣以外ニ親信ノ者ヲ延キテ顧問トナシ、其後遂ニ政權其手ニ歸スルニ至レリ。明ニ於ケル内閣モ亦此歴史ヲ繰リ返シタルニ過ギズ。明ノ太祖、大臣專權ノ弊ニ懲リ、政務ハ一ニ之ヲ親裁シ、中外ノ章奏ハ太祖自ラ覽テ之ヲ裁決シ、批答ハ凡テ大臣ヲ召シ面タリ旨ヲ傳ヘテ之ヲ筆セシメタリ。但シ疑義アルニ遇ヘバ、翰林、春坊ノ諸臣ヲ召シテ、古今ヲ參考シテ意見ヲ上ラシメ、然ル後ニ之ヲ決シタリ。當時殿閣大學士ノ官ヲ置ケルモ、其ハ文學ヲ以テ顧問ニ備ハルノミニテ、政務ニ於テハ一モ干預スルトコロ無カリキ。永樂帝ノ時ニ至リテ、翰林院ハ昔ハ内命即チ上諭ヲ擬撰スルコトヲ掌ルヲ以テ宮中ニ在リシヲ、已ニ宮外ニ移シタルユエ、翰林諸臣ニ政務ヲ諮ルハ頗

ル不便ナルニヨリ、翰林中ヨリ特ニ數人ヲ選ビテ宮中ナル文淵閣ニ入直セシメテ、機務ニ參預セシメタリ。即チ始メニ翰林侍讀解縉、同編修黃淮ヲ入閣セシメ、又侍讀胡廣、編修楊士奇、修撰楊榮、檢討金幼孜及胡儼ノ五人ヲモ同ジク入直セシメタリ。此時ヨリ内閣ノ稱生ズ。尋テ胡廣、楊榮等皆ナ大學士ニ進メラレ、仍ホ機務ニ參預セリ。大學士ノ機務ニ參預スルハ此ヲ始メトス。但シ大學士ト雖モ、内閣ニ入ラザル者即チ文淵閣入直ノ命ヲ蒙ラザル者ハ、仍ホ機務ニ預ルヲ得ザリキ。而シテ内閣大學士ハ、名ハ機務ニ參預スト云フト雖モ、其實ハ御前ニ出デ帝ノ諮詢ニ應ジ可否ヲ獻替スルニ止マリ、又中外ノ章奏ニ對スル批答ハ、天子自ラ旨ヲ大臣ニ傳ヘラレ、大學士ヲシテ之ヲ擬撰セシメタルコトナカリキ。且内

閣威權ヲ弄スルノ弊ヲ防ガン爲ニ、内閣ニ常務ヲ與ヘズ官屬ヲ置カズ、又内閣直ニ命ヲ諸司ニ下スヲ許サズ、諸司モ亦直接ニ内閣ニ政務ヲ白スコトヲ許サ、リキ。而シテ内閣大學士ハ秩正五品ニシテ、其位遙ニ尙書ノ下ニアリ。且原來翰林ノ資格ヲ以テ、選バレテ内閣ニ入り大學士ヲ兼ネシモノユエ、若シ翰林以外ノ官ニ轉ズルコトアラバ、内閣ニ入直スルノ資格ハ當然消滅スベキモノナリキ。

永樂帝崩ジ仁宗位ニ即クニ及ビ、楊士奇等ハ其皇太子タリシ時ノ經師タルノ關係ヨリ、寵眷尤モ厚ク、各其官ヲ進メ楊士奇ヲ禮部侍郎、楊榮ヲ太常卿、金幼孜ヲ戶部侍郎、黃淮ヲ通政使トナシ、仍ホ特命ヲ以テ殿閣大學士ヲ兼ネ、俱ニ文淵閣ニ入直シ機務ニ參預シタリ、此ニ於テ内閣大學士ハ、始メテ

外ニ在リテハ各部ノ事務ヲ掌リ、内ニ在リテハ政務ノ顧問ニ備ハルコト、ナリ、隨ヒテ大學士ノ職ハ、其人ニヨリテ漸ク重キヲ加ヘ權勢亦漸ク盛ナリキ。仁宗ハ在位一年ニシテ崩ジ宣宗立チ、楊士奇等益ス信任セラレ、皆ナ官ヲ進メテ尙書ニ陞リシモ、仍ホ特ニ大學士ヲ兼ネ文淵閣ニ入直シタレバ、大學士ハ益ス尊ク且權力アルモノトナリヌ。其後大學士ニシテ累進シテ太子少師或ハ太子少保ナド、ナリ、而シテ仍ホ大學士ヲ兼ネ内閣ニ入直シ機務ニ參預セルモノアリシユエ、大學士ノ地位實權益ス崇ク且重キヲ加ヘタリ。英宗ノ時ニ始メテ本官侍郎ヲ以テ内閣ニ入りシ者アリ。景帝ノ時ニハ本官左都御史ヲ以テ、又孝宗ノ時ニハ本官尙書ヲ以テ、各内閣ニ入りシ者アリ。人モ我モ以テ光榮トナセリ。是

ヨリ後ハ、遂ニ大學士ハ侍郎尙書ヨリ榮進スルコト、ナリ、嘉靖以後ハ、朝廷ノ席次ハ大學士却テ六部尙書ノ上ニ位スルニ至レリ。然レドモ大學士ノ品秩ハ、仍ホ依然トシテ正五品ニ止マレリ。一品又ハ二品ノ官ヨリ五品官ニ遷リテ、人我共ニ以テ榮トナセルハ、畢竟大學士ノ職尊貴ナルニヨリ、而シテ其秩卑キニ其職尊貴ナルハ、其實際ノ權勢ノ重大ナルニヨリシナリ。

今大學士ノ權勢ガ、此ク重大ナルニ至リシ次第ヲ考フルニ、前ニモ云ヒシガ如ク、永樂帝始メテ内閣大學士ヲシテ機務ニ參預セシメシモ、其實ハ諮詢ニ應ジテ意見ヲ上奏スルニ止マリ、未ダ嘗テ政權ヲ假サズ、且六部ナド、直接ニ交渉セシメザリキ。然ルニ宣宗ノ時ニ至リテ、内閣大學士楊士奇等

ハ、其仍ホ東宮タリシ時ノ舊臣タリシ關係ヲ以テ、深ク親信セラレ、政務ハ一ニ楊士奇等ニ下シテ之ヲ議セシメタリ。尙書夏原吉等モ、時々召サレテ政務ヲ諮詢セラレザルニハアラザレドモ、其ハ臨時ノコトニテ、到底大學士ガ日夜帝側ニ侍シ隨時意見ヲ上ルヲ得ルニ比スベクモアラズ。此ニ於テ内閣ノ權ハ日ニ漸ク重キヲ加ヘタリ。加之從來、天子ハ面タリ大學士ト商議シ、中外ノ章奏ニ對スル批答ヲ決シタル上ニテ、大臣ヲ召シテ天子自ラ其旨ヲ傳ヘラレシニ、宣宗ノ時ヨリ、始メテ章奏ヲ先ヅ内閣ニ下シ、大學士ヲシテ之ニ對スル批答ヲ擬撰シ、之ヲ小紙片ニ墨書シ章奏ニ貼附シテ上ラシメ、天子ハ之ニ從リ、章奏ニ硃筆ヲ以テ批答ヲ書スルノ例ヲ開ケリ。内閣ノ擬撰スルモノヲ稱シテ、條旨又ハ票擬又ハ

擬票旨ト云ヘリ。但シ國家ノ大事ニシテ疑義アルモノニ遇ヘバ、仍ホ天子ハ大臣ヲ召シテ、面タリ諮詢シ衆議ヲ聽テキ裁決セラレタリ。兎ニ角中外ノ章奏ニ對シ條旨ヲ上ルノ例ヲ開キシハ、内閣ニ政權ヲ與フルノ端ニシテ、是實ニ内閣ノ權勢ヲ重カラシメタル一大原因ナリトス。宣宗崩ジ英宗年僅ニ九歳ニシテ位ニ即キ、太皇太后親ラ政務ヲ裁決セラレタリ。然ルニ太后ハ婦人ノコト、テ從來ノ天子ノ如ク、閣臣及ビ大臣ト面タリ相見ルコトヲ好マズ、政務大小ト無ク一ニ内閣ヲシテ條旨ヲ上ラシメ、之ニ從リ裁決シタリ。又特ニ重要ノ事アル時ハ、宦官ヲシテ太后ノ旨ヲ啣ミテ内閣ニ至リ閣臣ニ諮リ、商議ノ結果閣臣ヲシテ上諭ヲ擬撰セシメタリ。此ニ於テ内閣ノ權更ニ一層ノ重キヲ加ヘ、六部尙

書ヲ壓シテ眞ノ宰相ノ地位ニ立ツニ至レリ。英宗復辟ノ後ニハ、政務ハ閣臣ヲ召見シテ之ト面議シ、然ル後ニ批答ヲ下スコト、ナシタルユエ、内閣ノ權稍ヤ輕キヲ加ヘタリ。孝宗ハ末年頗ル政權ヲ己ニ收攬シ、中外ノ章奏ニ對スル批答ハ、孝宗親ラ筆ヲ下セルモノ多カリシヲ以テ、内閣ノ權又一時益ス輕カリシモ、其後再ビ天子ハ閣臣ヲ召見セズ、專ラ内閣ヲシテ條旨ヲ上ラシメ、天子ハ深宮ノ内ニ在リテ之ニ從リテ裁決スルニ至リ、内閣ノ權再ビ重キヲ加ヘ、以テ明ノ終ニ至レリ。此クノ如ク大學士ガ宰相ノ實權アルヲ以テ、品秩ハ僅ニ五品ナルモ、侍郎尙書等ヨリ之ニ遷リテ人我以テ榮トナセルナリ。初メハ翰林ヨリ内閣ニ入りシ者、年久功多ナルニ及ビ、方メテ侍郎尙書等ニ榮進シタリシニ、今ハ正シク

其序ヲ顛倒スルニ至レルナリ。
 前記ノ如ク、内閣其初メハ、面タリ御前ニ於テ、政務ノ諮詢
 ニ應ズルヲ以テ職トシ、特命ニヨルニアラザレバ批答上諭
 ヲ擬撰スルコト無カリシニ、其後遂ニ批答上諭ヲ擬撰シ條
 旨ヲ上ルヲ以テ其本職トナスニ至リテ、其權甚ダ重クナリ
 キ。然ルニ内閣ノ權ヲ重カラシメタリシ事情ハ、又同時ニ其
 權ヲ他ニ奪ハル、ノ結果ヲ生ジタリ即チ宦官ガ漸ク内閣
 ノ權ヲ移シタルコト是ナリ。天子閣臣ヲ召見セス、深宮ノ
 内ニテ條旨ニヨリテ批答ヲ與ヘラル、場合ニ政務ニ通曉
 セザル天子ガ、内閣ノ擬撰シタル條旨ノ果シテ妥當ナリヤ
 否ヤヲ判斷センコトハ、時ニ或ハ難事タリ。此ニ於テ日夜其
 側ニ侍スル宦官ノ輩中ニ聰明ナル者アレバ、頗ル意見ヲ上

ルノ機會ヲ得ベシ。此例一タビ開カレバ、宦官ハ遂ニ政務ニ
 干預スルニ至ランコト亦容易ナリ。殊ニ英宗即位ノ初メ太
 皇太后ガ政ヲ視シ時、大事アル毎ニ、宦官太后ノ旨ヲ啣ミテ
 内閣ニ至リ上諭ナドノ擬撰ヲ命ジ、閣臣若シ之ニ對シ反對
 ノ意見ヲ有スル者アレバ、宦官之ト辯論往復シテ、遂ニ閣臣
 ヲ強ヒテ上諭ヲ擬撰セシメタルコト屢ナリキ。此クノ如ク
 シテ宦官頗ル政務ニ干預シ、内閣ノ上リシ條旨ハ宮中ニテ
 更改セラレ、批答下ルニ及ビテ、閣臣大ニ驚クコト少カラザ
 リキ。故ニ批答及上諭ヲ擬撰スル點ヨリ云ヘバ、政權ハ内閣
 ニアリシモ、其擬撰シタルモノニ從リ天子ガ硃筆ヲ以テ批
 答ヲ作ラル、ニ始メハ天子自ラ硃批ヲ作ラレシモ、後遂ニ
 宦官中ノ司禮監ヲシテ、硃批ヲ書セシムルコト、ナリシカ

ハ内閣ノ擬撰セルモノハ宦官ノ意見ニヨリテ更改取捨セラレ、最終決定ノ實權ハ却テ宦官ノ手ニ歸シタリ。此ク内ニ在リテ政務ニ干預セル宦官ヲ兼筆太監ト云ヘリ。内閣天子ノ命ヲ出納スト云フト雖モ、其實ハ兼筆太監之ヲ出納シタリ。明ノ政治日ニ非ナリシハ、宦官ノ跋扈ガ其一原因ヲナシタルハ疑ヲ容レズ。明中葉以降、宦官跋扈ノ状態ハ、次ノ文ニ徴シテモ明カナリ。即チ嘉靖中楊廷和ヲ内閣ニ在リシ時ニ、職方主事霍韜上書シテ、

閣臣職參機務、今止稟擬、而裁決歸近習、輔臣失參贊之權、

近習啓干政之漸、自今章奏、請召大臣、面決施行、講官臺諫

班列左右、衆議而公駁(明史霍韜傳)

ト云ヘリ。又同ジ時ニ、御史曹嘉ガ楊廷和ヲ彈劾シ、内閣ノ權

重キニ過グルヲ言ヒシニ、給事中鄭一鵬ハ之ヲ駁シテ曰ク、太宗始立内閣、簡解縉等商政事、至漏下數十刻始退、自陛下即位、大臣宣召有幾、張銳魏彬之獄、獻帝追崇之議、未嘗召廷和等面諭、所擬旨内多更定、未可謂專也(明史鄭一鵬傳)

此二文以テ當時ノ寔情ヲ見ルニ足ルベシ。

内閣ガ條旨ヲ擬撰スルニ、當初ハ必ズ内閣ノ首領タル人ニ於テ之ヲ專ラニシ、他ノ大學士ハ之ヲ贊スルニ止マリ、首領ノ權甚ダ重カリキ。其後崇禎中、御史倪元璐ノ議ニ從リ、始メテ大學士ヲシテ分擔擬撰セシムルコト、ナリ。首領ノ權稍ヤ輕クナリ、又條旨ヲ繕寫スル爲ニ、別ニ寫票中書若干人ヲ置ケリ。凡ソ批答上諭ハ之ヲ内閣ニ交附シ、其明宣セラルベキモノハ、内閣ヨリ之ヲ六科給事中ニ下シテ發抄セシメタ

リ内閣ハ批答上諭ヲ擬撰シ又之ヲ奉ズルノ外ニ宮中國家ノ大典等ハ皆ナ預リ聞ケリ。以上ヲ明朝ニ於ケル内閣ノ由來沿革ノ大要トス。清朝ノ初メニ内三院(内國史院内秘書院及内弘文院)ヲ設ケ大學士學士等ノ官ヲ置キシガ康熙九年改メテ内閣ト稱シ(其前一二回ノ變革アリ)議政王大臣ハアレドモ政務一ニ内閣ニ歸シ王命ヲ出納スルハ内閣ノ職ナリキ又大學士ノ品秩ヲ高メテ正一品トシ名實相合セシメ大學士ハ六部尙書等ノ年久功多ノ者ヲ以テ之ニ補セリ然ルニ軍機處ヲ設ケラレシ以來王命出納ノ事ハ軍機處ニ歸シ内閣ハ復機務ニ參預スルコト無ク止ダ内外臣工ノ章奏ノ批答及上諭ヲ軍機處ヨリ受ケテ之ヲ公布スルノ事務ヲ掌ルノミ其外ニ時ニ文學ノ事務アルモ其ハ殆

ド政務ト云フベキホドノモノニアラズ故ニ大學士ハ品秩高ク名譽ノ官ナルモ何等ノ實權無ク久シク尙書等ノ任ニ在リテ功多キ老臣ノ榮遷ノ地タルノミ。

内閣ノ設官ハ大學士協辦大學士學士侍讀學士中書中書舍人等アリ大學士ハ近時ハ文華殿武英殿體仁閣文淵閣及東閣ノ五種トシ其秩皆正一品(通稱中堂宰相又ハ相國ト云フ)協辦大學士ハ秩從一品(通稱中堂又ハ協揆ト云フ)内閣學士兼禮部侍郎銜ハ秩從二品(通稱閣學)侍讀學士ハ秩從四品又侍讀ハ正六品トス内閣中書及中書科中書舍人ハ各從七品トス抑モ中書トハ禁中書記ノ義ニテ其名ハ漢武帝ノ時ニ始マリ武帝ハ宦官ヲ以テ中書令トシ詔命ヲ傳宜スルコトヲ掌ラシメタリ其後魏晉ノ時ニ及ビ中書監中書令ハ職官ニ列シ機務ニ參預シ王命ヲ出

納スルコト(即チ制誥)ヲ掌リ、威權甚ダ盛ナリキ。唐ニ至ルマデ皆ナ然リ。而シテ制誥ヲ擬撰スルハ中書舍人ノ職ナリキ。其後制誥ノ事ハ翰林院ニ移リ、中書省ハ外ニ在リテ政務ヲ綜ブレトコロトナリ、中書ノ性質一變シタリ。明ノ初メ、中書省ヲ廢シ、六部尙書ヲシテ政務ヲ分掌セシメ、又其後制誥ノ事ハ翰林院ヨリ内閣ニ移ルニ及ビ、中書ハ内閣ニ隸屬シ、中書及中書舍人ハ大學士ノ屬僚トシテ、命ヲ承ケテ條旨ヲ繕寫スルコトヲ掌ルニ過ギズ、其官甚ダ卑キモノトナレリ。清朝亦此ニ因ル。其他内閣ニハ典籍筆帖式等ノ小官各若干アリ。

第三 六科給事中

前條軍機處ノ部ニテ、凡ソ中外章奏ノ批答及明發上諭ハ、已

ニ下レバ軍機處ヨリ之ヲ内閣ニ送り、内閣又之ヲ六科給事中ニ下シテ考查セシムルコトヲ云ヘリ。抑モ給事中ハ吏、戶、禮、兵、刑、工ノ六科ニ分隸シ、其長ヲ掌印給事中ト云フ。給事中ノ定員ハ、滿漢各十二人合計二十四人ニシテ、各科四人トス。各科各故參ノ者二人ヲ以テ掌印給事中トナス。而シテ秩ハ均シク正五品トス。而シテ給事中ノ職務ハ、清會典ニヨレバ傳達綸音ト稽察庶政トノ二項ナリ。歷代必ズシモ其官制及職制ヲ同ジクセザリシガ、清朝ニ至リ、雍正二年之ヲ都察院ニ隸シ、都御史ノ節制ヲ聽クコト、ナセリ。都察院ナルモノハ、察覈官常整飭綱紀ヲ以テ其職トナスモノナレバ給事中ガ稽察庶政ノ職務アル點ヨリ見レバ、其都察院ニ隸シ諸道監察御史ト伍ヲ爲スハ最モ適當ナルベシ。然ルニ給事中ハ、

又別ニ傳達給音ノ職務アリ。此職務ハ都察院トハ何等ノ關係無キモノナリ。又都察院ハ六部等ト同ジク外司ナレバ、其衙門ヲ禁外ニ設クルニ係ラズ、給事中ハ獨リ禁中門外ノ兩廡ニ、其宿直ノ房屋アリテ此ニ入直ス、此ハ其ノ傳達給音ノ職務アルニ因ルナリ。此ク給事中ハ外司ニ屬隸シナガラ仍ホ内官ノ性質ヲ帶ビ、純乎タル都察院ノ官ニアラザル所以ハ、其沿革ノ然ラシムルトコロナリ。今其沿革ヲ略述セバ、其職制モ亦同時ニ自ラ明カナルニ至ラン。故ニ以下職制ノ説明ヲ沿革ノ内ニ寓シテ之ヲ説カン。

給事中ナル名ハ殿中ニ給事スルノ義ニテ、本ト天子ノ左右ニ侍從シ顧問應對ヲ掌ルノ職ナリ。其名ノ始メテ官制ニ見エタルハ秦ノ時ナリ。蓋シ秦始メテ給事中ヲ置キタルモ、以

テ專官トナシタルニアラズ他官ノ加官タリシノミ。故ニ本ヨリ定員ノ制無ク、亦品秩ヲモ定メズ、位ハ皆ナ其本官ノ品秩ニ從ヘリ。西漢亦之ニ因リ、將軍大夫議郎博士等ノ官ニ居ル者ニテ、天子ノ特ニ親信セララル、者ニ與フル加官タリキ。但シ此時早ク已ニ給事中ヲシテ、中外ノ章奏ヲ看テ之ヲ平駁セシメタリ。漢ノ制ハ丞相ヲ置クモ、章奏ハ皆ナ尙書ニ歸シ、天子裁決ノ後尙書ヨリ之ヲ下スチ原則トナセリ。故ニ給事中ガ章奏ヲ看ルト云フハ、即チ尙書ノ掌ル章奏ヲ看ルノ謂ナリ。此レヲ給事中ノ職制ノ濫觴トナス。東漢ハ章帝以後ハ復給事中ヲ置カザリキ。魏ニ至リテ又加官トシテ之ヲ設ケ、晉ニ至リテ始メテ正員トナシ散騎省ニ隸シタリ。此レヲ給事中官制ノ濫觴トナス。南北朝ノ時ハ、或ハ以テ正員トナ

シ或ハ以テ加官トナス等一ナラザリシガ、梁ノ職制ト北齊ノ官制トハ、遂ニ隋唐ノ制ノ本ヲナセリ。蓋シ司馬晉已ニ給事中ヲ以テ正員トナシタルモ、未ダ定員ノ制無カリシニ、北齊始メテ其制ヲ定メ、又梁ハ給事中ヲ集書省ニ隸シ、常ニ天子ノ左右ニ侍シテ得失ヲ獻替シ、中外ノ章奏ヲ看其違失アルモノニ遇ヘバ之ヲ駁正スルヲ以テ其職責トナシタリ。此ニ於テ給事中ノ職制方メテ定マル。隋ハ以上ニ制ヲ併セ取リ、此ニ始メテ給事中ノ官制及職制共ニ定マレリ。唐ハ隋ノ制ヲ受ケ、多ク更改セルトコロ無シ。故ニ今左ニ唐ノ制ヲ詳述シ、以テ給事中ノ職務ヲ明カニセン。

唐ノ制、給事中ハ門下省ニ隸シ、秩正五品上、定員四人トス。其職務ハ、中外章奏ヲ讀ミテ之ヲ駁正シ、又上諭ヲ考查シ、又大

獄アルニ當リ、刑罰其當ヲ失スルモノハ法例ヲ引テ之ヲ駁シ、又使テ天下ニ派スルニ當リ、驛傳ヲ給スベキヤ否ヤヲ黃門侍郎ト合議シテ之ヲ決定シ、又文武官六品以下ノ任命ノ上奏ニ就テハ、其人ノ官途履歴及學問等ヲ考查シ、若シ以テ任ニ適セズト認ムル時ハ、之ヲ門下省侍中ニ告ゲ上奏ヲ却下スル等ノ事ヲ掌ルニアリ、蓋シ唐ノ制、凡ソ中外章奏ハ門下省侍中ノヲ審定シ、中書令ト合議シ其可否ヲ奏シ、天子ノ批答ヲ得テ之ヲ尙書省ニ下シテ奉行セシム。故ニ先ヅ給事中ヲシテ章奏ヲ讀マシメ、其中違失アルモノニ遇ヘバ之ヲ駁正セシメ、然ル後ニ侍中ノヲ審定スルモノトス。又上諭ハ章奏ノ批答ト同ジク、中書省ノ中書舍人又ハ翰林學士ニ於テ命ヲ奉ジテ起草スルモノナルガ、之ヲ發表スルニハ、必ズ

門下省ヲ經由スベキモノトス。此ニ於テ給事中ハ、上諭ノ案ヲ承ケテ之ヲ讀ミ、其時ニ便ナラザルヲ以テ奉行スルヲ得ズト認ムルモノハ、封ジテ之ヲ還シ、又其中ニ缺點違失アレバ之ヲ駁正ス。之ヲ封駁詔書ト云フ。或ハ詔書ノ末尾ニ直ニ駁文ヲ書シ、詔書ヲ塗竄シテ還ヘスアリ。之ヲ塗歸ト云ヘリ。而シテ上諭ノ以テ奉行スベシト認メタルモノハ、其事ノ大ナルモノハ更ニ覆奏シテ執行ヲ請ヒ、其事ノ小ナルモノハ直ニ署名シテ之ヲ所司ニ下スモノトス。然レバ給事中ハ、諫議大夫ナドノ如ク、政務ニ關シ意見ヲ上ルヲ得ルト同時ニ、又王命ノ出納ニ關係シ、頗ル重要ノ地ニ立テリ。五代ヲ經テ宋ニ及ビ、給事中ノ官制及職制ハ多ク更改スルトコロ無カリシガ、宋ノ時又多少ノ變更ヲ見タリ。即チ門下

省ニ六房ヲ設ケ、以テ尙書省ノ六部ニ對シ、凡ソ中外章奏ハ各其事ニ隨ヒ、分別シテ六房ニ歸スルコト、ナシタリ。此ニ於テ給事中四人ヲシテ六房ヲ分治セシメ、各其所掌ノ房ニ歸スル章奏ヲ平駁セシメタリ。是後世六科給事中ノ濫觴ナリ。且給事中ヲシテ起居注ヲ兼掌セシメタリ。蓋シ天子朝ニ臨ミ政ヲ視ル時、給事中ハ必ズ御前ニ侍スベキ者ユエ、別ニ起居郎ノ官アルニ係ラズ、仍ホ給事中ヲシテ起居注ヲ兼修セシメタルナラン。是亦職制ノ變更ナリ。官制ニ就テハ、元豐改制ノ時ニ、從來ノ門下省ノ外ニ門下後省ヲ増設シ、左散騎常侍、左諫議大夫、左司諫、左正言及給事中ヲ以テ其官ヲ兼ネ、其後建炎三年、又改メテ門下後省ハ專ラ給事中ヲ以テ其長官トナシタリ。是給事中官制變更ノ著シキモノニテ、後世

給事中ガ、他省ニ隸セズ獨立ノ一曹トナルノ端ハ、此改正ニヨリテ開カレタリ。
 金ノ初メ、門下省ヲ廢シタルモ、給事中ハ前記ノ如ク、宋ノ建炎以後別ニ一曹タルノ形アリシユエ、門下省ト共ニ當然廢セラル、ノ運ヲ免レタリ。然レドモ無所屬ニシテ何等ノ職務モ無カリキ。然ルニ承安四年ニ至リ、政務ノ得失ヲ論ジ上諭ノ封駁ヲ掌ルノ官ヲ必要ナリトシテ、審官院ヲ設ケ、給事中ヲ以テ之ヲ組織シタリ。此ニ於テ給事中ハ儼然タル獨立ノ一曹トナリ、專ラ封駁ヲ掌レリ。是給事中官制變更ノ大端ナリ。元ハ給事中ヲシテ起居注ヲ兼修セシメ、復以テ專ラ封駁ヲ掌ルノ官トナサ、リキ。但シ給事中ハ、別ニ所屬ノ省院無クシテ獨立ノ一曹タリキ。

明ニ至リテ給事中ノ官制ハ、元ノ舊ニヨリ無所屬ノ一曹トナシ、職制ハ專ラ宋ノ制ニ因レリ。即チ給事中ヲ吏、戶、禮、兵、刑、工ノ六科ニ分チ、各科若干人ヲ置キ、之ヲ統ブルニ六科都給事中一人ヲ以テシ、左給事中、右給事中各一人ヲ以テ之ガ副タラシメタリ。其職ハ内閣ヨリ受ケタル詔書ヲ封駁シ、又其奉行ノ手續ヲ爲シ、中外章奏ノ批答ヲ各部ニ交附シ奉行セシムル等ハ、唐以來ノ制ニ同ジ。又朝政ノ得失百官ノ賢佞等ハ、各科單獨ニ或ハ六科聯署シテ奏聞スルヲ得。天子朝ニ臨ミ政ヲ視ル時ハ、六科ヨリ一人輪流當直ヲ以テ筆ヲ持チテ侍シ、天子ノ言動ヲ記注ス。又凡ソ大事アリテ大臣ヲ召シテ廷議シ、或ハ大臣廷ニアリテ公議シ、輔弼ノ人ヲ薦舉シ、或ハ大獄アリ大臣集マリ廷鞠スル時ハ、給事中ハ九卿及翰林院

清國通考第一編

詹事府ノ諸官並ニ監察御史ト共ニ與リ聞クモノトス。明ハ此ク元制ニ因リ、給事中ヲ獨立ノ一曹トナシタルニ、其職務ノ一部ニ於テ御史ト共ニ言官タリ、又他部ニ於テハ王命ヲ出納スルノ職アリ。是ヲ以テ品秩僅ニ七品(都給事中ハハ均シク)ニ過ギザルモ、漸ク威ヲ振ヒ國政ヲ侵撓セントシ、弊害頗ル少カラザリキ。清朝モ、初メハ明制ニ因リ改ムルトコロ、無カリシガ、專横放恣ノ弊ヲ矯ムルニハ、節制ヲ聽クトコロ、無カルベカラズトシテ、雍正二年、遂ニ給事中ヲ都察院ニ隸シ、都御史ノ監督ヲ受ケシムルコト、ナセリ。然レドモ給事中ノ職ハ、獨リ庶政ノ得失ヲ稽察スルノミニ止マラズシテ、章奏ノ批答及上諭ノ發表公布ヲモ掌ルモノユエ、其職自ラ外司ト同ジカラズ。是レ都察院ニ屬シナガラ仍ホ禁中

清國通考第一編

ニ入直スル所以ナリ。但シ宋元以來、給事中ノ兼掌セシ起居注ノ一事ハ、別ニ翰林院ノ官ヲ以テ之ニ充ツルコト、ナシタリ。此クシテ清朝ニ至リ、給事中ノ官制職制共ニ又一變シタリ。清會典ニ定ムルトコロニヨレバ、給事中ハ禁中ノ直舍ニ入直シ、章奏ノ批答濟ミシモノ及上諭ヲ内閣ヨリ受ケテ之ヲ發表スルコトヲ掌リ、若シ其中ニ封駁スベキコトアラバ之ヲ封駁シ、又政治ノ得失民生ノ利害百官ノ賢佞ニ付キテハ、御史ト同ジク上奏スルコトヲ得、大事アラバ九卿翰詹道(即チ御史ト同ジク)意見ヲ上ルコトヲ得、又天子朝ニ臨ム等ノ時ニハ、御史ト同ジク其班ニ侍シ、稽察糾彈ノ責ニ任ズルモノトス。

會典ニ定メシトコロハ清朝ノ初メノ制度ニテ、其後制度ニ多少ノ變遷アリ。且凡テ法ハ空文ニ流レ易キ國ノコト、テ、現時ノ實際ハ、會典ノ規定トハ頗ル其趣ヲ異ニセリ。其最モ著シキコトハ、章奏ノ批答及上諭ノ發表ハ、內閣ニ於テ其手續ヲナシ、給事中ハ發表前ニ一タビ之ヲ內閣ヨリ受ケテ驗閱スルニ過ギズ。又天子朝ニ臨ムノ儀節モ頗ル簡略ニナリシユエ、給事中ガ之ニ列シ糾彈ヲ掌ルコトモ希覲ノ事トナリ又。

第四 翰林院附詹事府

清朝ノ制、翰林院ハ國史圖籍制誥文章ノ事ヲ掌ル儒臣ノ華選ト號ス。抑モ翰林ノ名ハ、西漢ノ時ヨリ已ニ之有リ。揚雄翰

林主人ノ稱アリ。其後李充翰林論ヲ著セリ。然レドモ此等ハ、何レモ文苑ナド、對スベキ語ニテ、止ダニ一個ノ標目ニ外ナラザリシナリ。唐ニ至リテ方メテ翰林院ノ名アリ。故ニ今ノ翰林院ハ、源ヲ唐代ニ發スト云フベシ。然レトモ其ハ止ダ名稱ノミニヨリテ云フコトニシテ、今事寔ニヨリテ之ヲ論ズレバ、一面唐ノ翰林院ト今ノ翰林院トハ、性質組織等ニ於テ異同アリ。又一面今ノ翰林院ノ職務ハ、唐ガ翰林院ヲ設ケザル時ニモ已ニ有リシナリ。此ニ於テ翰林院ノ性質組織等ヲ知ラント欲セバ、亦歷代沿革ヲ考フルノ必要ヲ生ズ。古ヨリ文學ニ關スル事ニテ、儒臣ノ掌ルモノハ之ヲ大別シテ四端トス。即チ一制誥、二國史、三撰輯、四圖籍是ナリ。其外ニ天子ノ左右ニ侍シ顧問ニ備ハルノ一事アルモ、此ハ以テ一

定ノ官職トナシ、他ノ四端ト同視スベキニアラズ。而シテ國史ニ關シテハ、周二左史アリ。漢ニ東觀アリ。唐宋歷代各史館アリ。撰輯ニ關シテハ、歷代多クハ著作郎等アリ。圖籍ニ關シテハ、周二柱下史アリ。漢魏以來祕書監令アリ。唐ニ弘文館、集賢殿等ノ學士アリ。宋ニ集賢院、昭文館等ノ學士アリ。金元各祕書監アリ。凡ソ以上三類皆ナ各省署ヲ開キ、官ニ定員アリ、一定ノ職務アリ、所謂職事官タリ。其天子ノ左右ニ侍シ、顧問ニ備ハル者ニ至リテハ、漢ニ待詔金馬門、諸吏文學アリ。劉宋ニ總明觀學士アリ。梁ニ壽光殿學士アリ。陳ニ西省學士アリ。北齊ニ文林館學士アリ。後周二麟趾殿學士アリ。凡ソ此等皆ナ他官ヲ以テ入テ、內廷ニ直シ、顧問ニ備ハルモノニシテ、固ヨリ定員無ク、又一定ノ職務無シ。所謂職事官ニアラズ。

制誥ノ一事ニ至リテハ、則チ周二內史、外史アリ。春官宗伯ニ屬ジ、王命ヲ書スルコトヲ掌ル。但シ內史ハ內命ヲ書シ、外史ハ外命ヲ書スルノ異アルモ、同ジク是職事官タリ。周禮春官內史ノ職ニ云ク、
凡命諸侯及孤卿大夫、則策命之、凡四方之事、書內史讀之、王制、祿則贊爲之、以方出之、內史掌書王之命、遂貳之、又外史ノ職ニ云ク、

掌書外令、掌四方之志、掌三皇五帝之書、掌達書名於四方、若以書使於四方、則書其令、

以テ内外史共ニ制誥ヲ掌ルノ官ナリシコトヲ知ルベシ。漢魏以來、制誥ノ事ハ尙書令、中書令ノ掌ルトコロトナレリ。蓋シ漢ノ制、尙書令ハ其秩僅ニ千石ニシテ、地位遙ニ三公丞相

御史大夫等ノ下ニアリシガ、後漢光武帝、前代三公等ガ政事ヲ總轄シ、權勢遂ニ人主ヲ傾クルニ至リシ弊ニ鑑ミ、其權ヲ奪ヒ、政事皆ナ之ヲ尙書(即チ所稱臺閣)ニ歸シタリ。即チ天下ノ政務ハ悉ク之ヲ尙書ニ入レ、裁決ノ後尙書ヨリ之ヲ三公ニ下シテ寔行セシム。尙書ハ禁中ニ在リ、常ニ天子ニ親近ス。必ズ天子ノ親信スル人ヲ以テ之ニ任ジ、號シテ天子ノ私人ト爲セリ。今日ノ寔例ヲ以テ比較ヲ取レバ、恰モ幕賓又幕友ノ如キモノナリ。但シ幕友ハ官ノ師友ニシテ純然タル私人ナルモ、尙書ハ官ナルノ異アルノミ。然レドモ號シテ天子ノ私人ト爲セバ、殆ド幕友ニ似タリ。蓋シ天子親ラ萬機ヲ決シ、政權ヲ下ニ假サ、ルノ主義ヨリ、三公ノ權ヲ奪ヒタルモ、寔際ニ於テ、天子親ラ萬機ヲ裁決スルハ、至難ノ事ニ屬スルヲ以テ、親信

ノ人ヲ以テ尙書ニ任ジ、機務ニ參預セシメタルナリ。故ニ尙書ハ其秩ハ三公等ノ下ニ在ルモ、其權勢ハ却テ其上ニ在リ。或ハ時ニ裁決ヲ經タル政務ヲ、三公ヲ經ズシテ直ニ九卿ニ下スコトアリ、三公ノ權益ス卑クシテ徒ニ虛器ヲ擁シ、尙書ハ却テ宰相ノ寔ヲ得ルニ至レリ。三公ニシテ或ハ特ニ錄尙書事ノ職ヲ加ヘラル、者ハ方メテ政務ニ參預スルコトヲ得タリ。是ヲ以テ帝位ヲ窺竒シ、篡奪ヲ計ルノ奸臣ハ、自ラ錄尙書事ヲ加ヘ、其親信ノ黨與ヲ以テ尙書ニ入レ、老病事ニ任ヘズ、或ハ依違權ヲ侵サ、ル者ヲ以テ三公ニ任ジ、以テ寔權ヲ己ニ收メテ篡奪ノ地ヲ爲セリ。

魏ハ中書監令ヲ置キ、漢ノ尙書ノ職ニ當ラシメタリ。中書ノ名ハ漢已ニ之有リ。即チ禁中書記ノ義ナリ。宋齊梁陳ハ尙書

令中書監令ヲ併セ置キ、又別ニ門下省侍中ヲ置ケリ。丞相ハ時ニ或ハ之ヲ缺キ常設セズ、或ハ之ヲ置クモ寔權無ク虛位ヲ擁セルノミ。唐亦三省ヲ併置シ、其長官尙書令、中書令、侍中ハ共ニ國政ヲ議セリ。但シ三省各其職ヲ異ニセリ。即チ尙書令ハ六曹尙書ヲ統ヘテ庶務ヲ會決ス。門下省侍中ハ帝命ヲ出納シ、禮儀ヲ相ケ、政務ハ中書令ト參決ス。中書令ハ天子ヲ佐ケ大政ヲ執リ、制誥詔勅ヲ掌ル。而シテ皇后、皇太子ヲ立テ諸王ヲ封ズル冊命、大賞罰赦宥、慮囚、大除授、褒勉、贊勞等ノ制書、廢置州縣、增減官吏、發兵、除免官爵、百官奏請ニ對スル批答、臣下ヲ戒約スル詔勅等ヲ書スルハ、中書舍人ノ職トス。漢ノ時尙書ハ制誥ヲ掌リシモ、其後尙書ハ尋常ノ政務官ト化シ、制誥ノ事ハ中書ニ移リシモノトス。然ルニ制誥ノ事本ト機

密ニ屬シ、自ラ他ノ事務ニ同ジカラザルモノアリ。故ニ天子ハ其意ニ隨ヒ、中書以外其親信スル人ヲシテ制誥ヲ草セシムルコトアリ。即チ太宗ハ、屢バ溫大雅、魏徵等ヲ召シテ制誥ヲ草セシメタリ。然レドモ此ハ止ダ時々ノ必要ニヨリシモノニテ、敢テ此等ノ人ヲ制誥起草ノ職ニ任ゼシニハアラス。是ヲ以テ未ダ別ニ何等特別ノ職名無カリキ。太宗崩ジ高宗位ヲ嗣グニ及ビ、初メハ仍ホ此例ニヨリシガ、乾封以後方メテ北門學士ノ名稱生ジタリ。學士ノ名ハ始メテ蜀志ニ見ユ。但シ當時ハ單ニ文學ノ士ト云フ意義ニシテ、官職ノ名號ニハアラザリキ。劉宋等ノ時亦學士ノ號アリシモ、仍ホ一種ノ稱號ニ止マレリ。唐太宗ノ景龍中、大學士、學士、直學士等ヲ置キ、始メテ定員ノ制ヲ設ケ、學士ガ官職トナルノ端ヲ開ケリ。

今禁中ニ召サレテ制誥ヲ草スル者ヲ北門學士ト云フハ、其
 禁中北門ニ入直セルニヨル。但シ北門學士ノ名モ仍ホ一ノ
 稱號ニシテ、定員職制アル職事官ニアラズ、其後玄宗ノ時、改
 メテ翰林待詔ト稱シ、張說、陸堅、張九齡等ヲ以テ之ニ任ジ、四
 方ノ表疏ニ對スル批答及應和文章ノ事ヲ掌ラシメタリ。故
 ニ其掌ルトコロハ制誥ノ一部ト文章トニシテ、内命ハ仍ホ
 專ラ中書ニ屬シタリ。既ニシテ又中書省事務煩劇ニシテ、中
 書舍人ノミニ制誥ヲ掌ラシメテハ滯滞ノ弊多キヨリ、文學
 ノ士ヲ撰ビ翰林供奉ト稱シ、集賢院學士ト共ニ制誥ヲ分掌
 セシメ、開元二十六年改メテ翰林學士ト稱シ、專ラ内命ヲ掌
 ラシメタリ。翰林院制誥ヲ掌ルノ端此ニ開カル。

抑モ翰林院ハ原來待詔ノ所ナリ。唐ノ制乘輿ノ在ル所、必ズ

文詞經學ノ士ヲ始メトシ以テト醫伎術ノ流ニ至ルマデ、皆
 ナ別院ニ在リテ伺候シテ、天子不時ノ召ヲ待ツ。宮中宴筵ノ
 時、或ハ召サレテ詩賦ヲ奏シ或ハ其技ヲ呈ス、之ヲ翰林院待
 詔ト云フ。故ニ翰林院ハ、天子宴游ノ際娛樂ニ供スル爲メ各
 種ノ人ヲ居ラシムル所ニシテ、文人學者モ雜技者ト雜ハリ
 居リ、儒臣ノ此ニ入ルハ未ダ以テ清華ノ選トナスベカラザ
 リシナリ。然ルニ玄宗ノ時ヨリ、始メテ制誥ヲ掌ル者ヲ翰林
 院ニ入ラシムルコト、ナシ、翰林院ノ性質漸ク一變セント
 セリ。

開元二十六年翰林學士ト改稱シ、劉光謙、張洎ヲ以テ之ニ任
 ジタル時、禁中翰林院ノ南ニ別ニ學士院ヲ開キ、此ニ居ラシ
 メタリ。從來各種ノ觀館殿等ニハ學士ノ設アリシモ、翰林ニ

學士ヲ置ケルハ之ヲ以テ嚆矢トス。翰林學士ハ翰林ノ中ニテ特選ヲ以テ學士院ニ入り制誥ヲ掌ル者ノ義ナリ。而シテ翰林ハ待詔ノ所ナルモ翰林學士ハ他ノ翰林ノ人ノ如ク待詔ノ列ニ入ラズシテ專ラ學士院ノ職ニ當ル。其職務ハ中書下制誥ヲ分掌スルニアリ。即チ中書ハ外命ヲ掌リ翰林學士ハ内命ヲ掌ル。凡ソ將相ノ任免號令征伐ニ關スル命ハ皆ナ翰林學士ノ任トス。故ニ當初中書ノ本職タリシ内命擬撰ハ今翰林學士ノ手ニ歸シ中書ハ止ダ外命ヲ掌ルニ至リシナリ。而シテ翰林學士ハ内命ヲ草スル外ニ他ノ職務無ク又專官ニアラズシテ皆ナ他官ヨリ入りテ之ヲ兼ヌ上ハ諸曹尙書ヨリ下ハ校書郎ニ至ルマデ皆ナ特選ヲ以テ入ルコトヲ得。學士院ニ入レバ初メ一年間ハ見習トシテ未ダ文書ヲ草

セズ一年ヲ經テ知制誥トナルニ及ビテ方メテ文書ヲ作ルコトナル。學士亦品秩定員無シ秩ハ皆ナ本官ノ秩ニ從ル。宮中ノ内宴ニハ宰相ノ下一品ノ上ニ居ル。其天子親近ノ人ナルヲ以テナリ。已ニ職制無ク品秩定員無ク亦省署無シ。故ニ職事官ニアラズ。是ヲ以テ唐書百官志杜佑ノ通典均シク翰林學士ヲ擧ゲズ。宰相以下奏事アレバ天子朝ヲ視ルノ時ニ内ニ入り謁見スルヲ得ルモ翰林學士ハ内官ノ宣召ヲ待タザレバ内ニ入ルコトヲ得ズ。蓋シ學士院ノ深ク禁中ニ在ルヲ以テノ故ナリ。學士院ノ門ハ複門ヲ設ケ出入ヲ甚ダ嚴密ニ監守セリ。順宗永貞元年始メテ翰林學士承旨一人ヲ置キ翰林學士院ノ長ヲ以テ之ニ任ジ凡ソ大誥令大廢置丞相ノ密畫中外ノ密奏等事ノ重大機密ニ涉ルモノハ承旨獨リ

天子ノ前ニ出テ旨ヲ承ケ又ハ顧問ニ備ハレリ。唐ノ時翰林學士ハ内命ヲ掌ルノミニテ他ノ職司無シ。國史撰輯圖籍ノ事ハ別ニ弘文館集賢殿史館祕書省著作局等アリテ之ヲ掌レリ。宋ノ末ニ至ルマデ皆ナ然リ。但シ宋ニ至リテ翰林院ノ性質組織稍ヤ變化スルトコロアリキ。其ハ翰林學士院ヲ職官ニ列シタルコト、及侍讀學士侍講學士ヲ始メテ置キシコト等ナリ。職官ニ列シタルハ其定員ヲ制シ正缺トナシタルニヨル。但シ當時仍ホ翰林院ト學士院トヲ區別シ、一ハ專ラ制誥ヲ掌リ一ハ單ニ應和文章ヲ掌ルモノトセリ。故ニ單ニ翰林ト云ヒテ學士ヲ稱セザルモノハ制誥ヲ掌ルノ職ニ在ラザルモノトス。然レバ翰林學士院ニ翰林權直ト學士院權直トノ官名ノ別アリ。權直トハ學士ノ皆ナ缺ケ

タル場合ニ他官ヨリ一時權ニ院ノ事務ヲ掌ルノ義ニテ翰林權直ハ專ラ詩文ノ應和ヲ掌リ學士院權直ハ制誥ヲ掌ル南宋孝宗淳熙五年ニ崔敦詩ガ翰林權直トナリ制誥ヲ掌リシ時、名實相副ハズトノ議起リ、改メテ學士院權直トナシタルハ翰林院ト學士院トヲ別ケタル明證ナリ。侍讀學士侍講學士ハ名ノ示スガ如ク入りテ經筵ニ侍スル者ユエ、學士ノ名アリテ憲ハ學士院ニ關係無キモノトス。故ニ初メハ單ニ侍讀又ハ侍講ト云ヒシニ、眞宗ノ時其班秩ノ低キヲ嫌ヒ翰林侍讀學士等ト改メ翰林學士ノ下ニ位セシムルコト、ナシタリ。但シ宋ノ時學士ト稱スルモノハ樞密院及殿閣皆ナ之アルモ、樞密直學士ハ樞密院ニ隸シ、自ラ他ノ學士ト同ジカラズ。殿閣學士ハ何レモ一定ノ職司無ク、惟ダ出入顧問

二備ハルノミニテ、或ハ舊老元勳ヲ以テ之ニ任ジ(即チ資政
殿大學士
ノ如キ是ナリ)、或ハ他官ノ兼銜タリ、是亦翰林學士トハ其性
質大ニ同ジカラザルトコロナリ。
遼ハ翰林學士院ノ名ヲ改メ單ニ翰林院ト稱シタリ。金ニ至
リ再ビ舊稱ニ復シ、又此時改メテ各官ノ品級(即チ
官等)ヲ定メダ
リ。唐以來、翰林學士ハ他官ヨリ入リテ兼ヌルモノユエ、品級
ヲ定メズ本官ノ品級ニ從リシニ、今始メテ專官トナシ、又其
品級ヲ定メ益ス職官ノ實ヲ舉グルニ至レリ。是亦一ノ變化
ナリ。其品級ハ翰林學士承旨從二品、翰林學士正三品、翰林侍
讀學士翰林侍講學士各從三品、翰林直學士從四品、翰林待制
正五品、翰林修撰從六品、應奉翰林文字從七品ト次第セリ。修
撰ナル官ハ、原來史館ニ屬シ國史撰述ノ官ナリ。金ハ別ニ史

館ヲ置ケルニモ係ラズ、翰林ニモ修撰ヲ置キタリ。是後二元
明ニ至リ、史館ヲ翰林ニ合スルノ端ヲ開キシモノト云フベ
ク、亦一ノ變化ナリ。元ハ金ノ例ニヨリ、翰林ヲ專職トナシ、加
之史館ヲ之ニ合ハセ翰林國史院ト稱シ、別ニ史館ヲ置カズ。
翰林修撰ノ外ニ別ニ編修十人ヲ置ケリ、是亦一ノ變化ナリ。
唐ヨリ元ニ至ル間、翰林ノ性質組織漸ク變化シ、初メハ止ダ
ニ内命ヲ掌ルノミニテ他ノ職司無カリシモノガ、今ハ國史
ノ事業ヲモ掌ルコト、ナリテ、職制一變シ、又初メハ内命ヲ
掌ルノ故ヲ以テ深ク禁中ニ在リシガ、今既ニ國史ヲモ掌ル
コト、ナリシユエ、復昔日ノ如ク内廷ニ在ルヲ得ザルニ至
レリ。此ニ於テ明ニ至リテ翰林院ヲ外諸司トナシ、禁中ヨリ
外ニ移セリ。一旦外ニ移リシカラハ、機密ニ參預スルニハ不

便多ク其本職タル内命ヲ掌ルノ一事ハ勢其手ヲ離レザルヲ得ザラントセリ。是永樂年間内閣ヲ置キ制誥ノ一事ハ内閣ニ移ルニ至リシ所以ナリ。是亦變化ノ自然ノ勢ナリ。且翰林院既ニ國史ノ事ヲ領シ外諸司トナリシヨリ前代秘書著作等ノ職ニ屬セシ撰輯圖籍ノ事務ハ悉ク翰林ニ併セラレ翰林ハ益々機密ニ參預シ内命ヲ掌ルニ適セザルニ至レリ。職務此ク多端ニナリシヨリ官モ亦自ラ増加セラレ元代ノ修撰編修ノ外ニ別ニ檢討ヲ設ケタリ。從來制誥ヲ草スルト國史撰述トハ二ノ全ク相異ナル職務トシテ區別セラレタルニ元以來二者ヲ合シテ一トナシタルガ上ニ明ハ又撰輯圖籍ノ職務マデヲモ翰林ニ併セ加之永樂以後制誥ノ事内閣ニ歸シタレバ明ノ翰林院ハ翰林院本來ノ性質ト全ク相

異ナルモノトナリシナリ。是自然ノ勢ニ出ヅトハ云へ寔ニ著シキ變化ナリト云フベシ。又明ハ始メテ翰林院ニ庶吉士ヲ置キ定員ヲ制セズ進士中特選ヲ以テ之ニ任ズ此ハ選舉法ノ結果ニ外ナラズ。蓋シ明太祖最モ科擧ヲ重ジ人材ハ悉ク科擧ニヨリテ之ヲ擧ゲントシタリ。此ニ於テ進士及第者ハ凡テ庶吉士トシテ六科ニ入レ事務ヲ學習セシムルコトトナシタリ。永樂二年始メテ翰林院庶吉士ヲ置キ進士中文學優等ノ者及書ニ巧ナル者ヲ特選シテ之ニ任ジ其他ハ仍ホ六科ニ入ラシム。翰林院庶吉士ハ三年間翰林院ニ在リテ學習シ三年期滿ツレバ考試ヲ行ヒ館ニ留ムル者ト然ラザル者トヲ別チ館ニ留ムル者ハ分別シテ修撰編修檢討ニ任ジ館ニ留メザル者ハ給事中御史又ハ州縣官トナス。宣德五

清國通考 第三篇

年始メテ翰林學士二人ヲ以テ庶吉士ヲ教ヘシメ、萬曆以後ハ專ラ吏禮二部ノ侍郎二人ヲ以テ教習トナセリ。庶吉士ノ制ハ翰林制度上一大變化トス。

清ハ初メ明制ヲ受ケテ翰林院ヲシテ國史・圖籍・制誥及文章ノ四端ヲ掌ラシメタリ。清會典ニ定ムルトコロ即チ是ナリ。但シ制誥ノ一事ハ明ノ時已ニ內閣ニ歸シ復翰林ノ職ニアラズ。然ルニ仍ホ之ヲ翰林ノ職トナセルハ其寔翰林中所謂南書房翰林(職名ヲ南書房行走ト云フ)ナル者ハ時ニ制誥ヲ繕寫スルコトアルニヨルナリ。故ニ制誥ト云フモ其擬撰ヲ云フニアラズト知ルベシ。又圖籍ハ清初之ヲ文淵閣ニ移シタレバ圖籍ノ事亦翰林ノ職ニアラズ翰林ハ止ダ仍ホ編纂ノ事ヲ掌ルノミ。文章ニ關シテモ現在ハ會典ノ規定トハ異ニシテ祝文

清國通考 第一篇

徽號・冊文及文武官ノ碑文・祭文ノ一部ハ禮部又ハ內閣ニ歸シ翰林ハ僅ニ碑文・祭文ノ一部ヲ掌リ且禮部又ハ內閣ニテ撰ビシ祝文等ヲ繕寫スルコトハ南書房翰林之ヲ掌ル。御製詩文ノ應和モ現今殆ド其事無ク唯ダ南書房翰林ハ西太后ノ畫ニ贊ヲ題シ或ハ代筆ヲ命ゼラル、ニ止マル。國史ニ關シテハ院內ニ國史館アリ。又諸書ヲ撰輯スルコトアレバ掌院學士以下各官ヲ以テ總裁以下ノ官ニ充ツ。其他翰林官ノ預ル職務ハ鄉會試ノ考官・提督學政官ニ任ゼラル、コト及鄉會試試卷ノ磨勘ニ預ルコト等トス。其設官左ノ如シ。

翰林院掌院學士從二品滿漢各一人

翰林院侍讀學士從四品滿二人漢三人

翰林院侍講學士從四品滿二人漢三人

翰林院侍讀 從五品滿二人漢三人

翰林院侍講 從五品滿二人漢三人

翰林院修撰 從六品定員無シ

翰林院編修 正七品定員無シ

翰林院檢討 從七品定員無シ

翰林院典簿待詔及孔目各從八品從九品及未入流トス、典

簿ハ滿漢各一人待詔ハ滿漢各二人孔目ハ滿漢各一人

別ニ筆帖式四十人アリ、共ニ雜務文牒ニ從事ス。

又翰林院ニ庶吉士アルコト明ニ同ジ、定員ヲ制セズ、進士中

特選ヲ以テ庶常館ニ入り肄業スルモノトス。庶常館ニ入ラ

ザルモノハ各部ニ屬シ或ハ外官トナル。庶吉士ヲ教フル爲

ニ教習大臣滿漢各一人アリ。館ニ在ル滿三年ノ後、考試ヲ施

シ留館ト否トヲ定メ、留館ノ者ハ一甲第一名即チ狀元ハ修撰ニ任ジ、一甲第二三名及二甲ハ編修ニ任ジ、三甲ハ檢討ニ任ズ、館ニ留メザル者ハ出シテ御史又ハ外官トナス。

翰林院ハ又館閣或ハ館職ノ稱アリ、此名ハ明ノ時ニ始マル。

原來館閣ノ名ハ宋ニ始マリシモ、宋ノ館閣ハ國史圖籍ヲ掌

ルトコロニシテ、翰林院ノ内命ヲ掌ルモノトハ自ラ別アリ。

明ニ至リ、國史圖籍ヲ翰林院ニ併セテヨリ、翰林始メテ館閣

ノ目アリ、然レドモ明ハ館閣ノ目アリテ館閣無シ、故ニ名寔

相副ハザリキ、清朝ハ翰林院ニ庶常館、國史館ヲ設ケタレバ、

方メテ館職ノ名ニ合ス。

翰林院ニ司屬無シ、陳奏文牒ハ皆ナ典簿筆帖式ヲシテ之ヲ

掌ラシム。

別ニ起居注館アリ。翰林院掌院學士侍讀學士以下侍講ノ兼
銜トス。

以上説クトコロノ翰林院ノ職制規模ハ、近時又大ニ變化ヲ
來セリ。其ハ我が明治三十三年北清事變後、翰林院ハ英國公
使館ニ歸併シ、該院ハ西城ノ民屋ヲ租シテ假ニ編修處トナ
シ、今夏更ニ舊通政使司衙門ヲ改修シテ此ニ移レリ。然レド
モ規模復舊日ニ同ジカラズ、又今春翰林院ノ外ニ新ニ進士
館ヲ設ケ、新進士ハ庶吉士タルト否トヲ問ハズ、此ニ入りテ
學バシムルコト、ナシタルヨリ、庶常館ハ無用ノ長物トナ
レリ。

前記ノ如ク、翰林院ハ政務ニ關係無キ閑職ナルモ、之ニ入ル
モノハ進士中ノ特選ニ係ルノ故ヲ以テ、人我均シク名譽ノ

地下ナス。支那ニテハ名譽ノアル所ハ又寔利ノ之ニ伴フヲ
常トシ、支那人ノ名ヲ好ムハ寔ハ此利ノ爲メナリ。然ルニ翰
林ハ閑職ニシテ政務ニ預ラザレバ、寔利ヲ得ルノ途無シ。然
ラバ六歲學ニ入ルノ時ヨリ、已ニ功名富貴ヲ目的トナセル
支那人ガ、何故ニ敢テ此虛譽ニ甘ンジ館職ニ在ルカト云フ
ニ、館職ニアル者ハ、數年蟄伏ノ後ニハ雄飛ノ望アルト、又
院外ニ別ニ自ラ寔利ヲ得ルノ途アレバナリ。院外ニテ利ヲ
得ルノ途トハ、即チ前文ニ云ヘルガ如ク、各省ノ學政使、鄉試
(即チ舉人ノ試)ノ正副考官、會試(即チ進士ノ預備試驗トモ云フベキモノ)ノ同考官ハ、多ク翰
林中ヨリ之ヲ命ゼラル。此ハ一方ニハ金錢上ノ利益アリ、又
一方ニハ試験ニ及第シタル者ハ、皆ナ試験官ノ門生トナル
ヲ以テ、將來自己ノ勢力上ニモ偉大ノ利益アリ。此利益アル

ヲ以テ敢テ此閑職ニ甘ンズルナリ。但シ學政使ハ十八人ノ定員ニテ、毎三年ニ交迭シ、鄉會試亦各毎三年ニ行ハル、ニ過ギズ。是ヲ以テ多數ノ翰林諸官ヲシテ、必ズ均シク此利益ニ露ハシメンコトハ、勢爲シ得ベカラズ。故ニ翰林ノ諸官ハ、他ニ兼職ヲ求メ或ハ字ヲ賣リナドシテ口ヲ糊スルノ助トナスモ少ナカラズ。

詹事府ハ本ト太后、皇后、皇太子ノ爲ニ之ヲ設ケタルモノニテ、詹事ノ官ハ秦始メテ其名アリ。歷代其官制、職制共ニ多少ノ變更アリシモ、概ネ皇太子ノ爲ニ詹事府諸官ヲ設ケザルハナカリキ。清朝ハ政權爭奪ノ害ヲ醸サンコトヲ恐レテ、皇太子ヲ建テズ(詳ニ儲貳金)。然レドモ仍ホ詹事府ヲ設ケ、詹事以下ノ諸官ヲ置キ、皆ナ翰林院ノ銜ヲ兼ネ職務モ亦翰林ト

大差ナシ。朝審、秋審及特ニ旨アリ九卿、翰林、六科、給事中並ニ御史ニ命ジ會議セシメラル、時ハ詹事ト少詹事トハ必ズ之ニ與カル。所謂九卿、翰詹、科道ノ詹ハ即チ此ニ官ヲ指シテ云ヘルナリ。然ルニ北清事變ノ爲ニ詹事府ハ廢セラレタリ。其ハ詹事府ノ所在地ニ原因シタルモノニシテ、原來該府ハ我が帝國公使館ノ後方肅王府ノ前方ニアリシガ、北清事變後、我が公使館ト肅王府トノ間ニ介セル官地及民地ハ、肅王府ノ一部分ト共ニ均シク我が公使館ニ歸シタル時、詹事府モ亦我が公使館ニ歸シタリ。然ルニ原來無用ノ官府ナリシユエ、別ニ之ヲ他ニ移スノ必要モ無ク、其マ、遂ニ廢セラレ、詹事以下ノ官皆ナ廢官トナレリ。故ニ今此ニハ其沿革、職制等ヲ詳説セズ。

第五 學校ト科擧

從來支那ニハ選舉ノ法四端アリ。即チ學校科目薦擧及詮選
 是ナリ。學校ニテ教育シタル者ヲ科目又科擧即チ試験ニヨ
 リテ拔擢シ、以テ國家ノ用ニ供ス。薦擧トハ、科目ニヨラズ汎
 タ天下ノ人材ヲ招致スルノ法ニシテ、古來臨時特別ノ必要
 アルニ際シ用フルモノニシテ常用ノ法ニアラズ。詮選トハ、
 科目又ハ薦擧ニヨリ登進セラレシ人物ヲ、其材器閱歷ニ隨
 ヒ分別任用スルノ法ヲ云フ。明太祖、人材ハ必ず科擧ニヨリ
 之ヲ得、而シテ科擧ハ必ず之ヲ學校ニ本ヅクコト、ナシ
 タルモ、當時已ニ學校ハ甚ダ輕ク、殆ド名アリテ寔無キニ近
 カリキ。今日亦然リ。然レドモ理論上又資格上、科目ハ仍ホ學

校ヲ以テ本トナスナリ。光緒二十九年、張之洞が管學大臣ト
 會同シテ、清國學制ノ改正案ヲ草スルニ當リ、學堂教育（從來
校ニアラズ、近時新ニ開カレシ學堂ヲ云フ、即チ
支那人ノ所謂外國ノ新學ヲ主トスルモノナリ）ト科擧トヲ融會シテ
 一トナサントセリ。予ハ屢バ其清國教育行政ノ大勢上ニ不
 利ナル所以ヲ説キシモ、張之洞ハ此法ニヨルニアラザレバ
 科擧ヲ廢スルヲ得ズト思ヒ、頑トシテ動カズ。遂ニ其意見ヲ
 上奏シ、裁可ヲ得テ之ヲ發布セリ。即チ現今ノ奏定學堂章程
 ナルモノ是ナリ。是ヲ以テ清國ノ新教育制度ヲ解セント欲
 スル者ハ、先ヅ從來ニ於ケル學校ト科擧トノ關係ヲ知ラザ
 ルベカラズ。是予ガ今此ニ學校ト科擧トノ關係ヲ述ベント
 スル所以ニシテ、徒ラニ溫故ノ意ニ出ヅルニアラズ。
 科擧甚ダ重ク、學校甚ダ輕キコト前述ノ如シト雖モ、學校仍

ホ科擧ノ根本ヲナスヲ以テ、先ヅ學校ヲ説キ、然ル後ニ科擧ニ及バントス。

學校系統ヲ別ケテ本系及旁系トス。本系ハ國學及府州縣學ヲ云ヒ、旁系ハ北京及奉天ニ設クルトコロノ宗室覺羅學、八旗官學、八旗義學並ニ各省各地ニ設クルトコロノ書院、社學、義學等ヲ云フ。

國學トハ天子ノ學即チ古ノ太學ノ遺制ニシテ、之ヲ京師ニ置ク。學校系統中最高ノモノトス。稱シテ國子監ト云フモノ即チ是ナリ。府州縣學トハ古ノ小學ノ遺制ニシテ、府ニ設クルモノヲ府學ト稱シ、州縣ニ設クルモノヲ各州學又ハ縣學ト稱ス。行政上ヨリ云ヘバ、府ハ其區域内ニ屬スル州縣ノ治ヲ統ブルモノナルモ、(但シ所謂直隸州ヲ除ク)學校系統ニ於テハ、府州縣

學ノ間ニハ、行政上ニ於ケルガ如キ關係ヲ存セズ、學校ノ資格ニハ稍ヤ上下ノ別アルモ、其他ニ於テハ何等ノ差異無シ。而シテ凡ソ府州縣學ノ學生トナル者ハ、制規ノ試験ヲ受ケテ合格録取セラレタル者ニ限ル。國子監ノ學生ハ、府州縣學ノ學生中ヨリ特ニ試験ニヨリ選抜セラレタル者及其他二三特例ニヨリ入學ヲ許サレタル者ニ限ル。而シテ府州縣學ノ學生トナラント欲スル者ハ、如何ニシテ試験ニ應ズルノ準備ヲナスカト問フニ、其法ハ社學、義學ニ於テ學ブカ、或ハ私塾ニ於テ學ブカ、或ハ家ニ師ヲ延キ之ニ就キテ學ブカニアリ。社學トハ、社即チ主トシテ經濟上ノ目的ヲ以テ組織セラレシ地方團體ノ公費ヲ以テ設ケタル學校ヲ云ヒ、義學トハ、有志者ノ義捐金ニヨリテ設立シタル學校ヲ云フ。義學ハ

清國通考第二篇

上記義捐金ヲ以テ基本トナスモ、亦或ハ其所在府州縣ノ公費ヨリ補助ヲ受クルモノアリ。社學義學共ニ授業料ヲ徵收セズ。但シ學校ノ設備限有ルヲ以テ、無限ニ生徒ヲ收容スルコト能ハズ。此ニ於テ又私塾ノ要アリ。私塾ハ隨意ニ若干ノ授業料ヲ徵收スルモノトス。而シテ此等諸學塾ハ、何レモ試験ニ應ゼンガ爲ノ準備ヲ以テ庄トナシ、其教科目ハ讀書作文、習字等ヲ課スルニ止マル。何レモ衆多ノ兒童ヲ集メ、單級の教授ヲ行フモノナルガ、將來高級ノ試験ヲ受ケシト欲スル者ノ爲ニハ、必ズシモ適當ナルモノニアラズ。且此等學塾ニ入ル子弟ハ、多クハ貧家ノ子弟或ハ貧家ナラザルモ仍ホ中流以下ニ位スル家ノ子弟多キヲ以テ、中流以上ノ人士ハ、其子弟ヲ此ニ送ルコトヲ好マズ。此ニ於テ中流以上ノ人士

清國通考第二篇

ハ特ニ家庭教師ヲ聘シ其子弟ヲ教育セシム。時ニハ親族數家共ニ贖金シテ一人ノ師ヲ聘シ、其何レカ一家ノ邸内ノ一部ヲ以テ教場ニ充テ、數家ノ子弟ヲ集メテ教育スルコトアリ。家庭教師ハ其聘セラレタル家ノ邸内ニ住シ、食住ハ其家ヨリ之ヲ給シ、別ニ毎月若干ノ手當ヲ受クルモノトス。此等各種ノ法ニヨリ、學修スルコト若干年、制規ノ試験ヲ受ケ合格録取セラレタル時、方メテ府州縣學ノ學生トナルモノトス。府州縣學ノ學生トナルニハ、必ズ學政使又提督學政(通例學臺又學院ト稱ス)ニヨリテ試験セラルベキモノトス。學政使ハ名義上ハ一省ノ學務ヲ統理シ實際ハ學生試験ヲ主トスルモノニシテ、總督巡撫布政按察二使ト共ニ全省ニ關係アル官ナリ。現制ニヨレバ、學政使ハ直隸山東山西河南江蘇安徽江西福建浙

清國通考第一編

江、湖、北、湖、南、陝、西、甘、肅、四、川、廣、東、廣、西、雲、南、貴、州、ノ、十、八、省、ニ、各
 一、人、ヲ、置、ク。直、隸、省、内、順、天、府、所、屬、ノ、州、縣、ハ、學、事、ノ、一、部、分、ハ
 直、隸、學、政、使、ノ、管、轄、ニ、屬、セ、ズ、別、ニ、獨、立、シ、テ、順、天、府、府、丞、ノ、管
 理、ニ、歸、ス。盛、京、省、ハ、學、政、使、ヲ、置、カ、ズ、奉、天、府、府、丞、ヲ、シ、テ、其、事
 ヲ、兼、掌、セ、シ、ム。學、政、使、ハ、知、府、等、ト、同、ジ、ク、三、年、ヲ、以、テ、任、期、ト
 ス。學、政、使、ノ、職、ハ、試、驗、ノ、爲、メ、地、方、ヲ、巡、廻、ス、ル、ニ、當、リ、地、方、政
 治、メ、得、失、人、民、ノ、狀、態、風、俗、ノ、良、否、等、ヲ、視、察、ス、ル、ノ、務、ア、ル、モ、
 其、本、務、ハ、一、ノ、童、生、及、府、州、縣、學、ノ、學、生、ノ、試、驗、ヲ、行、フ、ニ、ア、リ。
 童、生、ト、ハ、未、ダ、府、州、縣、學、ニ、入、ラ、ザ、ル、者、ヲ、云、フ。即、チ、未、ダ、何、等
 ノ、學、位、ヲ、モ、有、セ、ザ、ル、學、生、ノ、謂、ナ、リ。學、政、使、ハ、每、三、年、ニ、一、回
 更、迭、シ、童、生、ノ、試、驗、モ、亦、每、三、年、ニ、一、回、之、ヲ、行、フ。
 學、政、使、ガ、童、生、ノ、試、驗、ヲ、行、フ、時、之、ニ、應、ズ、ル、ヲ、得、ル、者、ハ、或、狹

清國通考第一編

キ、制、限、ヲ、除、ク、ノ、外、殆、ト、何、人、ニ、テ、モ、皆、ナ、之、ニ、應、ズ、ル、ヲ、得、又
 年、齡、ヲ、限、ラ、ズ。所、謂、或、狹、キ、制、限、ト、ハ、俳、優、娼、妓、ノ、子、各、官、廳、ノ
 書、吏、各、官、廳、ノ、隸、卒、他、人、ニ、金、錢、ヲ、以、テ、身、ヲ、賣、リ、テ、奴、婢、ト、ナ
 リ、シ、者、剃、頭、業、者(即、チ、理、髮、業、者)及、廣、東、地、方、ニ、テ、客、家、ト、稱、ス、ル、種、族、ハ
 試、驗、ニ、應、ズ、ル、ヲ、許、サ、ズ。此、等、ノ、者、ヲ、稱、シ、テ、身、家、不、清、白、ナ、ル
 者、ト、云、フ。但、シ、此、等、ノ、者、モ、其、職、業、ヲ、廢、シ、他、ノ、業、ニ、就、テ、ヨ、リ
 三、代、ヲ、經、タル、時、ハ、應、試、ノ、資、格、ア、ル、者、ト、ス。即、チ、高、祖、父、ガ、上
 記、ノ、業、ヲ、執、リ、シ、モ、曾、祖、父、ノ、時、已、ニ、他、業、ニ、改、メ、タル、場、合、ニ
 ハ、身、家、清、白、ノ、列、ニ、入、リ、試、驗、ニ、應、ズ、ル、コ、ト、ヲ、得、ル、モ、ノ、ト、ス。
 現、時、各、學、堂、ニ、テ、モ、入、學、志、願、者、ヲ、シ、テ、必、ズ、父、祖、三、代、ノ、姓、名
 身、分、ヲ、記、サ、シ、ム、ル、ハ、即、チ、此、意、ナ、リ。年、齡、ニ、就、テ、別、ニ、何、等、ノ
 制、限、ヲ、設、ケ、ザ、ル、ヲ、以、テ、半、白、ノ、老、人、ガ、其、孫、ト、共、ニ、童、生、ト、シ

テ試験ニ應ズルガ如キハ、決シテ希觀ノ事ニアラズ。且戸籍法行ハレザルユエ、年齢ヲ詐ルハ最モ容易ノコトナレバ、四五十歳ノ者ガ二十歳或ハ三十歳ト偽稱スルコト屢バアリ。學政使更迭シ新學政使任マ到ルノ後ニ、時ヲ定メテ省内ノ各府ヲ巡廻シ、府城ニ於テ該府所屬各地ノ童生ヲ召集シ、テテ試験ヲ行フ。此試験ヲ院試又院考ト云又、必ズ院又字ヲ冠スル所以ハ、學政使ヲ學院ト稱スルニヨルナル。而シテ學生ハ院試又院考ニ應ゼントスルニハ、其前先ツ二回ノ預備試験ニ及第セザルベカラズ。即チ先ツ第一ニハ、學生所屬ノ州又ハ縣ニ於テ試験ヲ受ク、通例之ヲ縣考ト云フ。即チ院考ニ先ダテ、各府ニテハ其府ニ屬スル各州縣ヲシテ、同日ニ各

其州縣内ノ學生ノ試験ヲ行ハシム。知州知縣各此ガ試験官タリ。試験問題ハ知州又ハ知縣自ラ之ヲ作ル。州縣學ノ教官ハ、試験場ニ在リテ監督ノ任ニ當ル。試験了レバ考卷即チ答案ヲ一應教官ノ手ニテ査閲シ、誤字多キモノ或ハ文理ノ通ゼザルモノ或ハ未完ノモノ等ハ悉ク之ヲ棄テ、其他ノ考卷ニ就キテ甲乙ヲ評定シ、之ヲ知州又ハ知縣ニ呈ス。知州又ハ知縣親シク之ヲ査閲シテ合格不合格ヲ區別シ、且合格者中ノ優劣ヲ定メ、一面ハ合格者ノ姓名ヲ揭示シ、一面ハ其姓名年齢等ヲ書シタル公文ヲ考卷ト共ニ州縣所屬ノ知府衙門ニ送ル。此ニ於テ府ハ更ニ日ヲ期シ第二回ノ試験ヲ行フ。之ヲ府考ト云フ。即チ該府ニ屬スル州縣ノ縣考合格者ヲ悉ク一場ニ集メ、知府自ラ試験官トナリテ之ヲ試ム。試験了レバ、

知府ハ合格者ノ姓名ヲ揭示シ、又其姓名、年齢等ヲ記シタル公文及考卷ヲ學政使ニ錄送ス。此ニ於テ學政使ハ日ヲ期シテ各府ニ出張シ、府考合格者ヲ試ム。試験ノ程度ハ縣考、府考、院考一回毎ニ高シ。但シ應試者ノ多少ニヨリ、程度ヲ斟酌スルヲ常トス。試験ノ時間ハ、均シク黎明ヲ以テ場ニ入り、天黒カラントスル時マデニ、考卷ヲ出ダシ、場ヲ去ルモノトス。試験場ハ地方衙門(即チ府又ハ州縣)ノ構内ニ席ヲ以テ假屋ヲ造リテ之ニ充ツ、之ヲ紅棚ト云フ。常設ノ試験場無シ。紅棚内ニ長キ机即チ所謂案ヲ列ネ、席次ヲ定メテ受験者ヲ坐セシム。此ク案ニ坐シテ試験ヲ受クルヨリ、同時ニ院考ヲ受ケタル者ハ互ニ相稱シテ同案ト云ヒ、又院考合格者中成績第一等ノ者ヲ案首ト云フ。

院府縣考ニ關シ、猶ホ説明スベキコトアリ。凡テ考卷即チ答案ノ用紙ハ、應試者ノ自辨トス。府學及州縣學ニハ、門斗ト稱スル一種ノ小使アリテ考卷ヲ賣捌クユエ、應試者ハ之ニ就テ考卷ヲ買フ。又應試者ガ其身分ヲ詐リ身家不清白ナルニ之ヲ清白ト稱シ、或ハ原籍ヲ詐リ所屬地以外ノ地ニテ試験ニ應ジ、或ハ他人ノ姓名ヲ假リテ試験ニ應ジ、或ハ父母ノ喪ニ居リナガラ之ヲ隱蔽スル等ノ弊ヲ防ガンガ爲ニ、應試者ハ必ず其原籍身分等ニ對スル證明書ヲ提出スルヲ要ス。然ルニ戶籍法行ハレザル清國ノコトユエ、此證明モ亦官府ニ請フニ由無シ。此ニ於テ府州縣學學生ノ故參者即チ廩生ト稱スル者ヲシテ保證ノ責ニ任ゼシメ、廩生ヲシテ證明書ヲ作ラシム、之ヲ廩保ト云フ。廩保トハ廩生ニシテ保證ノ責

ニ任ズル者ノ義ヲ以テ。應試者ニシテ廩生ニ知己アル者ハ、直接ニ之ニ依頼スルヲ便アルモ、或ハ知人無キ時ハ門斗ヲ介シテ之ニ依頼ス。應試者ハ若干金ヲ門斗ニ與ヘ、其事ヲ依頼スレバ、門斗ハ其知ルトコロノ廩生ヲシテ證明書ヲ作ラシメ、其手數料トシテ例ノ金ノ中ヨリ若干ヲ送り、餘ハ門斗自身ノ手數料トスル。廩生ハ應試者ヲ見ダシテ其保證ノ責任ズ。應試者が直接ニ廩生ヨリ證明書ヲ得ルコトハ、門斗ノ悦ハザルトコロナリ。而シテ門斗ハ考卷用紙ヲ賣ルノ關係モアレバ、門斗ノ不興ヲ買フハ將來ニモ不利ナリ。加之直接ニ廩生ニ依頼シテ證明書ヲ得ルモ、亦若干ノ報酬ヲ送ラザルベカラザレバ、費ストコロハ少シク多クナルモ、門斗ニ託スル方便利ナルヨリ、今ハ廩保ヲ依頼スルニハ、必ズ門斗ヲ

手ヲ經ルコト、ナレリ。應試者ハ廩保ヲ老師ト呼ビ、自ラ稱シテ門生ト云フ。然レドモ師弟未ダ一回モ相見ザルヲ常トス。又此師弟ノ稱呼ハ一時限ノモノニテ、將來ニ何等ノ關係無シ。試験當日ニ至レバ、試験官ハ試験場入口ノ門ニ坐テ占メ、應試者姓名ヲ記シタル一冊ヲ卓上ニ置キ、下僚ヲシテ一人宛其姓名ヲ讀ミ出ゲシメ、順次試験場ニ入ラシム、之ヲ點名ト云フ。各學堂入學試験ニモ亦此法ヲ用フ。此時廩保ハ試験場門前ニ在リテ、其保證シタル者が果シテ自身ヨリ來ルヤ否ヤヲ驗スルノ責任アルモノトス。然レドモ現時廩保ト本人ト相識ラザルコト多キユエ、此驗查ハ有名無實ノミ。支那ニテハ試験ニ代人ヲ用フルコト多ク行ハル。代人ヲ稱シテ鎗手ト云フ。若シ其事露顯スレバ、本人代人共ニ罰セラ

レ、又情ヲ知りテ保證シタル廩生モ亦罰セラレ、且廩生ノ身分學位共ニ褫奪セララル、モノトス。又他人ノ名ヲ詐リテ試験ニ應ズルコト少ナカラズ、之ヲ冒名ト云フ。此時モ亦本人廩保共ニ罰セララル。但シ今日ニ於テハ、此等ノ事情露顯スルコト殆ド絶無ナリ。又前記鎗冒ノ弊アル者及身分ナドヲ詐リシ者ガ試験ニ合格シ府州縣學ニ入りシ後ニ其事露顯スレバ、學生ヲ免ゼラル、モノトス。

未ダ縣考ニ應ゼズ或ハ之ニ及第セザル者ハ、俗ニ之ヲ白丁ト云ヒ或ハ俊秀ト云フ。已ニ縣考ニ及第スレバ之ヲ童生ト云フ。院考ニ及第スレバ方メテ府州縣學ノ學生トナル。此時方メテ學ニ入ルト稱ス。此學生ヲ概シテ文生員ト云ヒ又俗ニ秀才ト云フ。秀才ノ目ハ始メテ漢ニ起リ、元明以來讀書人

ノ通稱ナリシニ、其後府州縣學學生ノ專稱トナリヌ。秀才學ニ入りテ、此ニ始メテ教官指導ノ下ニ立ツコト、ナル。教官トハ、府學ヲ司ドル者ヲ教授ト云ヒ、州學ヲ司ドル者ヲ學正ト云ヒ、縣學ヲ司ドル者ヲ教諭ト云ヒ、各其下ニ訓導アリテ其職ヲ助ケ、均シク學政使ノ下ニ屬ス。此等諸官皆ナ其品級定員ヲ制シ、儼然タル國家ノ官ナリ。但シ今ハ學校ノ名アリテ教育ノ實無ク、實際ニ於テハ何等ノ教授薰陶ヲモ爲サズ、止ダ時ヲ定メテ學生ヲ試ムルノミ。兎ニ角名義上又制度上、學生ハ此等教官ノ指導訓迪ヲ受クルモノトス。扱學政使ハ院考ニヨリ學生ヲ錄取スレバ、皆ナ之ヲ府學或ハ州學或ハ縣學ニ入レテ各其學ノ附生トナス。抑モ府州縣學ノ生員ノ制度ハ、明ノ時ヨリ定マレリ。明ノ太祖ハ、人材ハ悉ク之ヲ學

清國通考第一編

校ヨリ出ダサント欲シ、府州縣學ノ制ヲ定メテ各其生員ノ定員ヲ制シ、各人ニ毎月米六斗ヲ給シ、以テ其學費ニ充ツルコト、ナシタリ、其後益ス多ク人材ヲ收容センガ爲ニ、初メニ定メタル各學ノ生員ノ數ヲ增廣シタリ、宣德年中、此ク增廣シタル生員ノ定額ヲ制シ、亦各人ニ毎月米若干ヲ給スルコト、ナシタリ、此ニ於テ最初ノ規定ニヨリ米ヲ給セラル、生員ヲ廩膳生又ハ廩生ト云ヒ、當初ノ定員以外ニ入學ヲ許サレ仍ホ若干ノ米ヲ給セラル、者ヲ增廣生又ハ增生ト云フ、別チ立テタリ、正統中、再ビ上記二種ノ生員以外ニ生員ヲ取り、之ヲ諸生ノ後ニ附シテ學ニ入ラシメ、之ヲ附生ト稱セリ、但シ附生ニハ米ヲ給セズ、清朝ハ明ノ制ヲ受ケ、院考ニ及第シ始メテ學ニ入ル者ハ之ヲ附生トシ、其後更ニ試験

清國通考第一編

ヲ受ケ漸ク增生又ハ廩生トナレバ、此時ヨリ方メテ米肉ヲ給ス、但シ米肉ト云フハ名ノミニテ、其實ハ毎月一定ノ銀ヲ給スルノミ、之ヲ稱シテ膏火ト云フ。

學生已ニ學ニ入ルモ、未ダ直ニ舉人ノ試ニ應ズルコトヲ得ズ、其前先ヅ二回ノ試験ヲ受ケザルベカラズ、即チ歲考及科考是ナリ、歲考ハ院考ノ翌年施行ス、即チ生員學ニ入りテヨリ約一ケ年ニシテ、再ビ試験ヲ受クルモノトス、科考ハ郷試ノ前即チ歲考ノ翌々年ニ行フ、共ニ學政使親ラ試ムルモノトス、問題ハ科考ノ方稍ヤ高シ、歲考ノ結果ニヨリ、去年新ニ入學シタル府州縣學生員即チ附生ヲ三等ニ區別ス、即チ最優等者ヲ廩膳生ノ候補トシ、第二等ヲ增廣生ノ候補トシ、第三等ヲ優學生トシ、各若干ノ賞與ヲ給ス、廩膳生(又廩生ト)及

増廣生(又増生ト)ニ給スル膏火ハ、凡テ其學所屬ノ府州縣ノ公費ヨリ支出スルモノニテ、其年額ハ一定セリ。隨テ廩膳生増廣生モ各學各規定ノ員數アリ。故ニ舊生員ガ或ハ舉人トナリ或ハ其他ノ理由ニヨリ、學校ノ籍ヲ離レ缺員ヲ生ズルニアラザレバ、新生員ヲ此ニ進ムルコト能ハズ。是歲考ノ結果ニヨリ、先ヅ廩膳生又ハ増廣生ノ候補トナシ、缺員ノ生ズルヲ待ツ所以ナリ。而シテ此ニ類生員ノ定數ハ、府學ニアリテハ各四十名、州學縣學ハ漸ク各十ヲ減ズルモノトス。科考ニ於テハ、各學ノ各類生員ヲ悉ク試テ、其成績優等ナル者ニハ郷考即チ舉人ノ試験ニ應ズルコトヲ許ス。故ニ科考ハ科擧ニ應ズルノ資格ヲ定ムルガ爲ノ試験ナリ。是科考ノ稱アル所以ナルベシ。且此時成績優等ナル者ニテ、未ダ廩膳生

若クハ増廣生タラザル者ニハ、併セテ此資格ヲモ與フルモノトス。凡ソ生員ハ科考ヲ經テ、然ル後ニ方メテ郷試ニ應ズルヲ得ルモノトス。此ヲ以テ科考ハ最モ重要ノモノトシ、生員ニシテ三回引續キ科考ニ缺席シタル者ハ、其特別不得已ノ理由アルモノ、外ハ、永久郷試ニ應ズルヲ許サルモノトス。又生員學校ノ籍ニ在ル間ハ、十年ニテモ二十年ニテモ必ズ歲考及科考ヲ受クベキモノトス。生員ハ科考ヲ經テ郷試ニ應ズルノ外ニ、又選拔セラレテ國學即チ國子監ニ入り其學生トナルコトアリ。此學生ヲ稱シテ貢生ト云フ。而シテ貢生ノ類甚ダ多シ。今先ヅ拔貢ヨリ説カン。拔貢トハ、每十二年國子監ヨリ上奏シ、裁可ヲ經テ各省學政使ニ旨ヲ下シ、科考ノ後ニ於テ、歲考科考ノ優等生員ノ

清國通考第一篇

ミヲ集メテ更ニ選抜試験ヲ行ヒ、文章品行共ニ優レタル者ヲ拔擢シテ之ヲ國子監ニ送ル。是即チ拔貢生ニシテ貢生中最モ名譽ノモノトス。拔貢ノ數ハ、府學ヨリ二人、州縣學ヨリ各一人トス。選抜試験ノ問題ハ、四書義二篇、經解一篇、策一道、論一篇、判一條トシ、之ヲ二場(即チ二日)ニ別ケテ試ムルモノトス。拔貢ノ外ニ、別ニ又副貢、歲貢、恩貢、優貢、功貢、附貢ノ目アリ。副貢生トハ、副榜ノ中ヨリ選抜セラレテ監ニ入ル、者ヲ云フ。副榜トハ、鄉試ニ應ジタル生員ニシテ成績優等ニシテ、合格ノ資格アルモ、舉人ノ員數ニ制限アルヲ以テ、舉人ノ資格ヲ與ヘラレザリシ者ヲ、特ニ鄉試成績發表ノ時ニ、新舉人ノ後ニ附記シテ公示セルモノヲ云フナリ。鄉試ノ成績ヲ發表スル時、其新舉人ノ姓名ヲ記シタル表ヲ龍虎榜ト云ヒ、之ヲ發表

清國通考第一篇

揭示スルコトヲ發榜ト云フ。新舉人ハ正合格者ナルユエ、其後ニ附記セラル、者ヲ副榜ト云フナリ。副榜モ亦一種ノ學位ト見做スベシ、但シ副貢生タルヲ得ルノ外、別ニ何等ノ特權無シ。副貢生ノ選抜試験問題ハ、拔貢ヨリモ易シ。歲貢トハ、府州縣學ノ廩膳生タルコト多年ナルモ、不幸ニシテ未ダ鄉試ニ合格セザル者ノ中ヨリ順次選抜シテ監ニ入ル、者ヲ云フ。其試験ハ四書義、經義及詩トス。歲貢生ノ數ハ、各省ノ各府學生員中ヨリ毎年一人、各州學生員中ヨリ毎三年ニ二人、各縣學生員中ヨリ毎二年ニ一人、或ハ二人、縣學生員中ヨリ隔年ニ一學一人等ノ定メアリ。恩貢生トハ、朝廷ニ慶事アル時(譬ヘバ皇太后七旬ノ賀典ヲ行フ等)其年ノ歲貢生ヲ恩貢生トナシ、翌年ハ定規ニヨレバ歲貢生ヲ出サ、ル年ナルモ、仍ホ貢生ヲ出スコ

トテ許シ之ヲ以テ歲貢生トス。或ハ明年朝廷ニ慶事アルベク今年正ニ歲貢生ヲ出スノ期ナル時ハ、今年ノ歲貢生ヲ恩貢生トシ、明年特ニ又歲貢生ヲ出スコトヲ許サル。恩貢生ノ選拔試験ハ、拔貢生ヨリハ易ク歲貢生ニ比スレバ稍ヤ難キモノトス。優貢生トハ、原來廩膳生若シクハ増廣生タリシ者ニテ、試験優等ヲ以テ選拔セラレ、再ビ禮部ノ試ヲ經テ監ニ入ル者ヲ云フ。但シ其最初ノ試験問題ハ歲貢生ニ準ズ功貢生トハ、府州縣學ノ生員ニシテ軍ニ從ヒ功ヲ立テシニヨリ、特ニ選バレテ監ニ入ル者ヲ云フ。其試験モ亦歲貢ニ準ズ。附貢生トハ、府州縣學ノ附生ニシテ、金又ハ粟ヲ納メテ監ニ入ルコトヲ許サレシ者ヲ云フ。

此等各種ノ貢生中、拔貢及優貢ノ二種貢生ハ、北京ニ來リシ

上、朝廷ヨリ特ニ試験官ヲ派シテ之ヲ試ム。之ヲ朝考又廷試ト云フ。試験問題ハ四書義一篇、詩一首トス。試験成績優等ニシテ一等若シクハ二等ニ列シタル者ハ、其中ヨリ特ニ簡選シテ知縣若シクハ小京官又ハ教職等ニ任用セラル。成績優等ナルモ此選ニ入ラザリシ者及成績三等ニ列シタル者ハ、均シク國子監ニ入りテ肄業セシム。官學等ニテ教職ヲ要スルコトアル時ハ、此等貢生中ヨリ試験ニヨリテ之ヲ採用ス。而シテ滿三年教職ニ在リテ教育ノ效著シキ者ハ、特ニ知縣又ハ府州縣等ノ教職ヲ以テ之ヲ用フ。朝考ノ成績劣等ナリシ者ハ、再ビ之ヲ原學ニ回シ仍ホ肄業セシム。而シテ此ク國子監ニ在リ肄業スル者ト原學ニ回サレタル者トハ、三年ヲ經ルノ後、再ビ朝考ニ應ズルヲ得。又拔貢優貢以外ノ貢生ハ、貢生

タルノ名譽ヲ荷フノ外、何等ノ特權無ク、舉人タラント欲スル者ハ、普通ノ生員ト同ジク郷試ニ應ズベキモノトス。但シ已ニ府州縣學ノ生員ニアラザルユエ、復學校ト關係無ク且學政使ノ監督ヲ受ケズ。

國子監ハ古ノ太學ノ遺制ナルモ、久シク太學ノ實ヲ有セズ。其構内ニ辟雍ハ巍然トシテ聳エ、其周圍ニハ崇志率性等ノ名アル堂アルモ、學生ヲ住スベキ所ニアラズ、又學校トシテ學生ヲ教授スベキ堂ニモアラズ。止ダ古ノ遺制ヲ存スルノミ。祭酒司業博士助教學正等ノ諸官ヲ設ケアルモ、教導訓迪ノ實無シ。然レバ監ニ入り肄業スト云フモ、畢竟虛名ニ止マルノミ。貢生モ亦必ズシモ北京ニ居ルニアラズ。清朝ノ始メ、國子監ニ南學ヲ附設シ、學生ヲ住セシメ圖書ヲ貯藏シ其肄

業ニ便ニシタリ。今仍ホ存ス、而シテ其學生ハ、舉人アリ生員アリ、國子監ノ制トハ多ク關係無キモノトス。南學モ亦時々問題ヲ與ヘ學生ヲシテ文ヲ作ラシメ、又隨意書ヲ讀ミ其讀ムトコロニ付キ割記ヲ爲シ、教官時々之ヲ査閱スルニ止マル。學生ニハ多少ノ膏火ヲ給ス。蓋シ南學ハ、寒士ノ修學ニ便ニスルノ趣意ニテ設ケラレシモノニテ、學校制度ノ全體ニ關係スルトコロハ甚ダ少ナキモノトス。

國子監ニハ、貢生ノ外仍ホ各種ノ監生アリ。監生トハ國子監學生ノ義ナリ。故ニ貢生ニシテ監ニ入り肄業スル者亦固ヨリ一ノ監生ナリ、但シ之ヲ他ノ監生ニ區別センガ爲ニ、貢監生ト稱ス。此ニ於テ監生中ニ、貢監生ト純然ノ監生トノ別アリ。後者中ニ又優監生、蔭監生及監生ヲ別ツ。優監生トハ、府州

清國通考第一篇

縣學ノ附生ニシテ歲考科考共ニ優等ナル者、更ニ國子監ニ於テ試験ヲ受ケ入學ヲ許サレシ者ヲ云フ。蔭監生トハ、其父祖ガ官職ニ居リ、國難ニ殉ジ又ハ公務ノ爲メ死亡シタルニヨリ、特旨ヲ以テ其子或ハ其孫一人ノ監ニ入り肄業スルヲ許サレタル者ヲ云フ。又朝廷ニ慶事アル時、特旨ヲ以テ文官(京官四品以上)武官(京官外官共ニ二品以上)ノ子或ハ孫一人ノ國子監ニ入り肄業スルコトヲ許サル。此亦蔭監生ト云フ。蔭監生ハ、各其種別ニ隨テ若干ノ年月間監ニ在リテ肄業シタル上、其父祖ノ官職ニ從リ分別シテ官ヲ授ケラル。普通ノ監生ハ、金又ハ粟ヲ納メテ監ニ入ルコトヲ許サル。之ヲ捐監生ト稱ス。凡テ金粟ヲ獻納スルコトヲ稱シテ捐納ト云フヨリ此名アリ。捐監生ハ、少ナクモ鄉試ニ合格スルニアラザレバ官トナルヲ

清國通考第一篇

得ズ。其鄉試ニ應ズルニハ、生員ト同ジク先ヅ科考ニ合格スルコトヲ要ス。但シ捐監生中ニハ、鄉試ニ應ズルヲ得ル者ト否トノ別アリ。其ハ當初捐納ノ多少ニヨリテ同ジカラズ。各種ノ生員及監生ハ、均シク九品ニ準ジ、銀頂戴(即チ禮帽ノ頂ヲ用)ヲ許サル。但シ現時ハ、何人モ銀頂戴ヲ用フル者無ク、皆ナ八品ノ金頂戴ヲ用フ。貢監生ハ八品ニ準ズ。抑モ貢生、監生及生員ハ二三ノ特權アリ。而シテ此特權ハ、清國ノ如キ法律政治ノ實行上弊害多キ國ニアリテハ、甚ダ重要ナルモノナリ。今其特權ナルモノヲ擧ゲンニ、先ヅ第一ニハ身體ニ關スル保護ノ特權アリ。即チ貢生以下生員ハ、裁判事件ニ於テ原告又ハ被告トシテ法廷(地方官衙門ハ又同時ニ法廷ナリ)ニ出ヅルモ、審問ノ際笞又ハ杖ヲ以テ之ヲ打ツコトヲ得ズ。抑モ支那ニテハ、裁判事

件ハ、必ズ兩造ノ口供相符合スルヲ以テ其事ヲ決ス。故ニ何レカ一方ノ口供ガ他ト符合セザル時ハ、官ハ笞杖ヲ加ヘ又其他隨意ノ拷問ヲ施スコトヲ得。然ルニ貢生等ニ對シテハ、笞杖共ニ加フルヲ得ズ。況ヤ拷問ヲヤ。是蓋シ一ハ、聖賢ノ書ヲ讀ミ聖賢ノ道ヲ講ズル者ヲ尊重スルノ意ニ出ヅ。人一度笞杖ヲ加ヘラルレバ、其廉恥心ヲ害スルコト少ナカラズ。人ニシテ廉恥心薄キトキハ、或ハ流レテ放僻邪侈爲サル所無キニ至ラン。此故ニ讀書人ノ廉恥心ヲ養ハンガ爲ニ、笞杖等ヲ加ヘザルモノトス。二ハ、頂戴ハ朝廷ヨリ許サレシモノニテ、之ヲ戴ク者ハ朝廷ノ命官ナルヲ以テ、縱ニ笞杖等ヲ加フルヲ得ザルナリ。支那ノ如ク、理非曲直ハ大半錢財ニヨリテ暗中ニ決シ、笞杖等ハ、審問ノ際ニ官任意ニ之ヲ用フルヲ得

ル國ニテハ、笞杖等ヲ加ヘラレザルノ一事ハ、非常ノ特權ト云フベシ。然ラバ貢生等ハ如何ナル場合ニモ、之ヲ打ツコトヲ得ザルカト云フニ、官ガ必ズ之ヲ打ツノ要ヲ認メタル時ハ、先ヅ一應朝廷ニ告ゲ、其許可ヲ得テ彼等ノ戴ケル帽ノ頂戴ヲ奪ヒ、平人ト爲シタル上ニテ之ヲ打ツモノトス。而シテ朝廷ニ告グルト云フコトハ、極メテ簡單ノ手續ニ過ギズ。即チ知府知縣等衙門ノ正堂(即チ公事ヲ辨ズル堂)ニ聖旨ト記セル額アリ。官ハ之ニ向テ事由ヲ告グルヲ以テ、朝廷ノ許可ヲ得ルノ法トス。之ニ告ゲ了レバ、則チ聖旨下レリト云ヒテ、頂戴ヲ褫奪ス。然レドモ習慣上容易ニ頂戴ヲ褫グコトヲ爲サズ。蓋シ屢バ之ヲ爲セバ、生員ヲ凌辱スト云フコトニナリテ、自然地方人士ノ感情ヲ害シ、延テ官ノ名聲ヲ損シ且治績ニ影響スルヲ

以テナリ。此ニ於テ生員中ニハ、往々此特權ヲ利用シ、種々ノ惡事ヲ爲ス者アリ。若シ平人が事ニヨリテ生員ト爭テ生ジタル時、生員ヲ毆打スルコトアレバ、生員ハ生員ヲ凌辱シタルノ理由ヲ以テ訴訟ヲ起スヲ得。是生員ガ惡ヲ爲スヲ助クル所以ナリ。生員ニシテ資産多ク地方ニ勢力有ル者ハ、勢ヲ恃シテ郷曲ニ武斷スルモ、地方官ハ之ヲ處分スルコトヲ得ザルコト多シ。此弊ハ武生員ニ最モ多シ。地方官ノ最モ怖ル、トコロノモノハ、此種ノ惡劣郷紳ナリ。貢生等ノ特權ノ二ハ、徭役ヲ免ゼラル、コト是ナリ。徭役トハ地方ニ事アル時ニ、或ハ民間ノ車馬ヲ徵發シテ官用ニ供シ、或ハ毎戸ヨリ壯丁若干人ヲ出シテ若干日間役ニ就カシムル等ヲ云フ。而シテ家ニ車馬無ク或ハ壯丁無キ場合ニハ、金ヲ以テ之ニ代フ。

徭役ハ、地租其他規定ノ租稅ト異ニシテ、法定ノ標準無ク、地方官ノ臨時任意ニ定ムルモノトス。租稅ノ徵收ニスラ文ヲ舞シ私ヲ營ムトコロノ地方官及其下僚ノコトナレバ、徭役ニハ、此種ノ弊最モ多カラシコトハ想像スルニ難カラズ。朝廷ハ最初讀書人ニシテ貧窮ナル者ヲ體恤スルノ趣意ニテ、貢生等ノ貧困ナル者ハ、特ニ徭役ヲ免ジタルガ、其後此恩典ハ、遂ニ一般貢生等ノ特權トナリ、皆ナ徭役ヲ免ゼラル、コトナレリ。此亦貢生等ニ取りテハ實利ノ大ナルモノナリ。曩ニ金又ハ粟ヲ納レテ監生又ハ貢生トナルコトヲ云ヘルガ、彼等ガ金粟ヲ投ジテ此學位身分ヲ買フハ、實ハ上記二件ノ特權ヲ買フナリ。支那人ハ一般ニ名譽ヲ尙ヒ體面ヲ飾ルノ風アレドモ、深ク之ヲ探ルニ、名ノ有ルトコロニハ實利亦

必ズ之ニ件フ。而シテ支那人ノ名ヲ好ムハ、實ハ此利ヲ愛スルナリ。實利無キ虛名ハ、彼等ノ悅ブトコロニアラザルナリ。此ハ支那ノ事情ヲ考究スルノ一鍵鑰ナリ。

以上説クトコロノモノハ、專ラ漢人ニ就テ云ヘルナリ。旗人(滿洲蒙古漢軍各八旗ニ分ツ)ニ至リテハ情形頗ル異ナリ。旗人ハ原來知縣ノ管轄ニ屬スルモノニアラズ。故ニ生員トナルノ試験ニ應ズルニモ、縣考ヲ要セズシテ直ニ府考ニ應ズ。但シ旗人ハ本來武ヲ以テ本領トナスモノナレバ、武ヲ棄テ文ニ走ルヲ得ズ。必ズ或ル程度マデノ武藝アル者ニアラザレバ、文藝ヲ以テ身ヲ立ツルヲ許サズ。是故ニ府考ニ應ズル前ニ、必ズ馬步箭(即チ騎射ト步射)ノ試験ニ合格セザルベカラズ。又合格シテ生員トナレバ、縣學ニ入ラズシテ府學若シクハ八旗學ニ入ル。即チ

順天府學、奉天府學、八旗官學、八旗義學ニ入ル。而シテ宗室ニ至リテハ、則チ生員ヲ經ズシテ一躍舉人ノ試ニ應ズルモノトシ、其試験ノ程度ハ、一般旗人又ハ漢人ニ比シテ甚ダ低シ。生員、學ニ入リテ以來三十年ヲ經テ、仍ホ鄉試ニ合格セザル者、及學ニ入リテ以來未ダ三十年ニ達セザルモ、年齢已ニ七十二達シタル者ハ、均シク歲考科考ヲ受クルヲ免ジ、生員ノ冠帶即チ九品冠帶ヲ以テ其身ヲ終ヘシメ、又生員タラントシテ屢バ考試ニ應ジ、毎回落第シ、年齢六十二及ビシ者ハ、特ニ佾生ノ稱ヲ許シ、其身ヲ終ヘシム。

以上云フトコロノ事ハ、皆ナ學校ノ範圍ニ屬スルモノニシテ、未ダ科擧ノ範圍ニ入ラズ。蓋シ府州縣學ノ各種生員及國子監ノ監生ハ、名義上又理論上、各均シク教官ノ教導訓迪ノ

下ニ在リテ業ヲ肄ヒ、科擧ニ應ズルノ準備ヲ爲スモノニテ、科擧ニ應ズルヲ得ル者ハ、此等諸生以外ニハ復之有ラザルナリ。是即チ學校ヲ以テ科擧ノ本トナスノ意ナリ。科擧ヲ別ケテ三層トス。即チ郷試、會試及殿試是ナリ。郷試ニ合格シテ擧人トナリ、再ビ會試及殿試ニ合格シテ進士トナル。何レモ毎三年一回之ヲ舉行ス。即チ子卯午酉ノ年ノ八月ヲ以テ郷試ノ期トシ、丑辰未戌ノ年ノ三月ヲ以テ會試ノ期トス。殿試ハ會試後約一ヶ月ヲ經テ、四月二十六日ヲ以テ之ヲ行フ。郷試共ニ三場ニ分チ、每場三日トス。殿試ハ一場一日トス。郷試ニハ八月八日ヲ以テ受験者試験場ニ入り、其夕問題(即チ所謂題目)出デ、第三日即チ八月十日ノ朝考卷ヲ差出シテ退場ス、之ヲ頭場ト云フ。八月十一日再ビ試験場ニ

入り、其夕題目出デ、十三日朝考卷ヲ差出シ退場ス、之ヲ二場ト云フ。八月十四日三たび入場シ、十六日朝出場ス、之ヲ三場ト云フ。前後三場ノ成績ニヨリ合格ト否トヲ決ス。會試ハ三月八日ニ始マリ、十六日ニ終ル。分テ三場トナスコト郷試ニ同ジ。殿試ハ當日ノ朝ニ始マリ、點燈前ニ終ル。試験場ハ、郷試ハ各省ノ省城ニ各常設ノモノアリ、之ヲ貢院ト云フ。但シ直隸省ノ省城ハ保定府ナルモ貢院ハ北京城内ニアリ。會試ハ全國ノ擧人ヲ北京ノ貢院ニ集メテ之ヲ行フ。殿試ハ本年ノ會試合格者ヲ宮中ニ召シ、天子親ク軒ニ臨ミテ之ヲ試ム。是殿試ノ名アル所以ナリ。但シ義和拳匪ノ亂後五年間、北京ニ於テ郷會試ヲ行フコトヲ禁ゼラレシユエ、現時ハ直隸省郷試及會試共ニ河南開封府ノ貢院ヲ借リテ之ヲ行ヘ

リ。殿試ノミハ依然宮中ニテ行ハル、モ、河南ニテ會試ニ應ジ其成蹟ノ發表ヲ見テ、然ル後ニ北京ニ來ルニハ、一ヶ月餘ニテハ時日到底不足ナルヲ以テ、昨年ノ恩科ニモ亦今年ノ正科ニモ、殿試ハ夏ノ末ニ行ハレタリ。又嘗テ張之洞及袁世凱ガ連署上奏シタルモノニ本ヅキ、昨年冬上諭ヲ發セラレ、自今以後三科(即チ仍三科擧)ヲ以テ、將來ハ科擧ヲ廢スコト、ナレリ。即チ今ヨリ十一年ヲ以テ期トシ、科擧ノ全廢ヲ見ントス。北清事變後ノ平和條件中ニ定メタル北京ニ於ケル鄉會試禁止ノ期滿ツルノ後ハ、科擧廢止セララル、迄ノ間、仍ホ北京ニ於テ會試及直隸鄉試ヲ行フベキ筈ナリ。然ルニ北京ノ貢院ハ、北清事變ノ際、某國兵ノ爲ニ全部破壊セラレタレバ、再ビ全部ヲ修蓋スルニアラザレバ用フルヲ得ズ。其費亦巨

大ナラン。知ラズ北京政府ハ之ヲ如何セントスルカ。貢院ノ規模ハ後ニ至リテ説明スベシ。

是ニ因ミ、鄉會試等ノ試験官其他關係諸官ノ事ヲ説カン。鄉試ヲ行ハル、年ニ至レバ、期ニ先ダチテ、一省毎ニ正副考官各一名ヲ任命シ各省ニ出張セシム。但シ直隸即チ所謂順天鄉試ノ副考官ハ三名トス。正副考官ハ主トシテ翰林院修撰編修侍讀侍講等ノ中ヨリ任ゼラレ、仍ホ御史其他京官中ヨリモ任ゼラル。但シ順天鄉試ノ正副考官ハ、尙書侍郎等ノ中ヨリ任ゼラル。又別ニ同考官アリ。順天鄉試ノ同考官ハ、勅命ヲ以テ特任セララル、モ、其他各省鄉試同考官ハ、鄉試監臨官ヨリ該省所屬ノ府同知府通判知州知縣等ノ中ニ就キ、選拔シテ之ヲ命ズ。鄉試監臨官ハ、直隸ニテハ順天府府尹ヲ以テ之

ニ充テ、其他各省ニテハ、總督又ハ巡撫ヲ以テ之ニ充ツ。別ニ提調官アリ。直隸ニテハ順天府府丞ヲ以テ之ニ充テ、其他各省ニテハ該省ノ道臺中ニ就キ之ヲ命ズ、又監試官アリ。貢院内外ノ彈壓ヲ司ドル。直隸ニテハ御史中ヨリ、其他各省ニテハ該省ノ道臺又ハ府ノ佐官中ヨリ之ヲ選任ス。會試ノ官ハ正副考官各二名及同考官十八名トス。正副考官ハ尙書侍郎等ノ中ヨリ任ゼラル。別ニ知貢舉ノ官アリ、禮部侍郎ノ中ヨリ任ゼラル。又提調官ハ禮部儀制司（學校貢舉等ノ事ヲ司ドル局）ニ屬スル。司官中ヨリ、監試官ハ御史中ヨリ任ゼラル。殿試ハ理論上天子親ラ舉士ヲ試ムルモノユエ考官ヲ任ゼズ。止ダ讀卷官ヲ置キ、大學士、學士等ノ中ヨリ之ヲ任ズ。提調官ハ禮部尙書侍郎中ヨリ、監試官ハ御史中ヨリ任ゼラル。右諸官ノ外仍ホ事務

官アリ。即チ鄉會試ニハ、各受卷、彌封、謄錄、對讀、收掌、試卷ノ五官アリ。各官ノ員數ハ定限無シ。受卷官先ツ應試者ノ差出ス考卷ヲ受ケテ分別取舍ヲナシ、其取ルトコロノモノハ之ヲ彌封官ニ送ル。彌封官ハ之ヲ受ケテ、考卷ノ上ニ記セル應試者ノ姓名ヲ封ジテ、人ヲシテ之ヲ知ルコト能ハザラシム。凡テ應試者ハ、其考卷ノ上ニ自己ノ坐セル貢院ノ室ノ番號ヲモ記スモノトス。今該番號ヲモ姓名ト共ニ封ジ、每考卷別ニ番號ヲ附ス、之ヲ内號ト云フ。彌封終レバ之ヲ謄錄官ニ送ル。該官則チ朱筆ヲ用ヒテ考卷ヲ別紙ニ謄寫ス。謄本ヲ朱卷ト云ヒ、原考卷ヲ墨卷ト云フ。考官ノ應試者ト通ジテ弊ヲ爲サシコトヲ恐ル、ユエ考官ニ應試者ノ筆蹟ヲ知ラザラメシンガ爲ニ、此ク別ニ謄本ヲ作り、考官ニハ謄本ニヨリテ查閱

清國通考第一編

セシムルナリ。謄録終レバ朱卷ヲ墨卷ト共ニ對讀官ニ送ル。該官朱墨二卷ヲ對讀シ、朱卷ニ誤寫又ハ脫字アレバ、紫筆ヲ以テ之ヲ補正ス。對讀終レバ朱墨二卷ヲ收掌官ニ送ル。該官之ヲ受ケテ内號ヲ朱卷ニ記注シ、朱卷ハ外監試官ヲ經テ之ヲ考官ニ送り、墨卷ハ之ヲ管理ス。凡ソ此等諸官ハ、順天鄉試及會試ニテハ各部主事等ニ就キ之ヲ任ジ、其他各省ノ鄉試ニテハ知縣等ニ就キ之ヲ任ズ。殿試ニハ及落第ノ事無ク、止ダ甲乙ヲ定ムルノミ。故ヲ以テ考卷ノ查閱稍ヤ寬ナリ。讀卷大臣ハ直ニ墨卷ニ就テ查閱ス。故ニ此時謄録及對讀ノ官ヲ任ゼズ、僅ニ受卷、彌封及收掌ノ三官アルノミ。此等皆ナ翰林及内閣ノ諸官中ニ就テ任ゼラル。鄉會試ニハ其他仍ホ諸雜務官アリ。今之ヲ略ス。

清國通考第一編

前ニ、鄉試ニ先チ學政使ニ於テ生員ヲ試驗シ、鄉試ニ應ズルヲ許スト否トヲ別ツト云ヘリ。學政使ハ科考ノ成績ニヨリ此區別ヲ爲シタル上ハ、鄉試ニ應ズルコトヲ許シタル生員ノ姓名、學籍等ヲ詳記シ、之ヲ本省ノ布政使ニ送ル。布政使ヨリ更ニ之ヲ禮部ニ送ル。但シ在京小官及監生ニシテ鄉試ニ應ゼントスル者ハ、學政使ノ手ヲ經ズ國子監ヨリ直ニ禮部ニ錄送ス。又旗人ニシテ鄉試ニ應ズル者ハ、其所屬ノ旗ノ都統ヨリ禮部ニ錄送ス。而シテ此錄送ニ就テ人員ニ制限アリ。蓋シ將來任用スベキ官ノ數ニ限アレバ、漫然多數ノ士子ヲ取ルモ、將來其處分ニ窮スベシ。此故ニ鄉試ニ於テ合格錄取セラレ、舉人トナル者ノ數ヲ各省別ニ制限シ、然ル後又各省ガ舉人一名ニ對シ、若干名ノ應試者ヲ錄送スルヲ得ト定

清國通考第二篇

メタルナリ。各省舉人ノ員數ハ、本省人口ノ多少、租稅ノ多寡、士子ノ多少（即チ文化程度）等ヲ以テ標準トシテ之ヲ定メタリ。但シ余日ノ定數ハ、清朝ノ始メニ定メタルモノヲ漸次擴張シタルモノニテ、當初ニ比スレバ、現時ハ各省各約十名ヲ増廣シタル割合ナリ。此事ハ學者ヲ獎勵優待スルノ盛意ニ出ツトシテ、朝廷ノ大ニ誇ルトコロナリ。現時各省舉人ノ定數左ノ如シ。

直隸	一百八十名	山西	七十名
江南 <small>江蘇安徽</small>	一百四十六名	陝西	五十二名
江西	一百〇四名	四川	九十八名
浙江	一百〇四名	廣東	八十八名
福建	一百名	廣西	五十一名

清國通考第一篇

湖北	六十一名	雲南	六十五名
湖南	七十二名	貴州	五十名
河南	八十二名	甘肅	四十二名
山東	七十四名	合計	一千四百三十九名

舉人一名ニ付キ錄送セラルベキ應試者ノ數ハ、省ノ大中小ニヨリテ一ナラズ。直隸江南浙江江西湖北湖南及福建ハ大省トシテ、各舉人一名ニ付テ八十人、山東河南山西廣東陝西及四川ハ中省トシテ各六十人、廣西雲南貴州及甘肅ハ小省トシテ各五十人トス。今之ヲ合計スレバ、大省合計五萬一千三百六十人、中省合計二萬七千八百四十人、小省合計一萬〇四百人、總計八萬九千六百人ノ應試者ハ、鄉試毎ニ錄送セラ

人ヲ錄送スルヲ得。甘肅ハ最モ少數ナルガ、仍ホ二千一百人ヲ錄送スルヲ得。今全國錄送ノ數ヲ全國擧人ノ數ニテ除スレバ、平均六十二人強毎ニ擧人一名ヲ取ルモノトス。旗人及宗室ハ、其及第錄取ノ率ニ特典アリ。即チ旗人ハ旗人應試者總數四十分、一ヲ以テ及第者ノ數トシ、宗室ハ宗室應試者總數五分、一ヲ以テ及第者ノ數トス。副榜ハ凡テ正榜ノ五分、一ヲ以テ率トス。譬ヘバ直隸ハ正榜一百八十名ナルユエ、副榜ハ三十六名ヲ取ルコトヲ得ルガ如シ。

各省ノ貢院ハ、各本省ノ應試者全員ヲ容ル、ニ足ルダケノ規模ヲ具フベキモノトス。貢院ノ制ハ、各應制者ヲシテ各一室ニ坐セシメ、以テ其相互ニ氣脈ヲ通ジ弊ヲ爲スヲ防グテ目的トス。故ニ直隸ノ貢院即チ北京貢院ノ如キハ、一萬四千

四百室ヲ有セザルベカラズ。之ニ加フルニ考官其他關係官ノ室ヲ以テスレバ、室ノ數ハ更ニ多キヲ加フベシ。然レバ應試者各人ノ室ヲ尋常ノ室ノ制ニヨリ作ルモノトセバ、貢院ノ規模ハ非常ノ大ニ至ルベシ。每三年僅ニ數日間ノ用ノ爲ニ、此カル大規模ノ常設貢院ヲ置クハ、頗ル不經濟ノコトニ屬ス。此故ニ貢院ノ設備ハ、頗ル經濟的ニ考察セラレ、應試者ノ坐スベキ室ハ、極メテ狹小ニ作ラレタリ。今北京貢院ニ就テ之ヲ云ヘバ、室ハ間口約三尺、奥行亦約三尺、高サ約一丈ノ一小室ニ過ギズ。此クノ如キ小室五六十ヲ一列ニ聯ネテ一棟ノ建物トシ、各室ノ間隔ハ何レモ煉瓦壁トス。各室ノ入口ニハ戸ヲ作ラズ開放ノ儘ナリ。故ニ應試者各自簾ヲ用意シテ其入口ニ懸クルモノトス。北京、南京ナドノ如ク、一萬人以

上ノ應試者ヲ容ルベキ貢院ニテハ、上記ノ狹クシテ長キ建物ガ、二三百棟ホド棟ヲ比ベテ建チ居ルモノトス。亦一種ノ奇觀ナリ。北京貢院ニテハ、此二三百棟ノ建物ガ院内四所ニ分レ居リ、每所約五六十棟宛アリ。各棟ノ間隔ハ僅ニ數尺ニ過ギズ。應試者一タビ其各自ノ室ニ入ルヤ、入口ニ簾ヲ下シテ、僅ニ膝ヲ容ル、ニ足ルダケノ此室内ニ、約三日間蟄居シ、大小便ノ外ハ寸歩モ室外ニ出ヅルヲ許サレズ。此内ニ在リテ論策ヲ製シ詩文ヲ作ル、其苦亦想フベシ。一回ノ試験毎ニ此苦ヲ三回繰リ返スニ至リテハ、其苦亦決シテ尋常ニアラザルナリ。況ヤ室小ナルガ上ニ、此ニ机ヲ置カザルベカラズ。此ニ於テ室内ノ餘地ハ、眞ニ如字的ニ膝ヲ容ル、ニ足ルノミ。到底横臥眠ヲ取ルノ地無シ。故ニ應試者ハ三日二夜(實ハ

一晝二夜)ヲ此ニ明カスノ間、身心困乏スルニ遇ヘバ、則チ机ニ憑リテ假眠スルノ外無シ。是鴻篇鉅作ヲ製シ、淨寫已ニ終リ提出スルヲ得ルバカリニナシタルモ、時仍ホ早クシテ提出スルヲ得ザルユエ、机ニ憑リテ假眠シ、第三日ノ朝ノ來ルヲ待ツ間ニ、机上ノ燭ヲ倒シ考卷ヲ損ジ、遂ニ汚損ノ故ヲ以テ考卷ハ棄却セラレ、應試者ハ憾ヲ吞デ退場スルモノ往々之有ル所以ナリ。又鄉試ノ期ハ八月ニシテ、此時天候未ダ甚ダ冷カナラズ。此際數日間、此カル小室内ニ閉ヂ込メラル。其時ニ急ニ病ヲ發シ、室内ニテ死亡スル者アルモ亦怪シムベキニアラズ。

貢院ノ四圍ハ高キ煉瓦牆ヲ廻ラシ、其上ニ棘ヲ植ウ。故ニ又棘圍ノ稱アリ。棘ヲ植ウルノ意ハ、今人皆ナ以テ内外ノ交通

ヲ杜グガ爲ト爲ス。然レドモ本來自ラ別ニ意義アリ。詳ニ趙翼ノ陔餘叢考ニ見ユ。

郷試ハ之ヲ三場二分チ、每場三日トナスコトハ、前已ニ之ヲ云ヘリ。每場第一日黎明頃ヨリ、應試者ハ貢院ノ門前ニ群集ス。順次ニヨリ一人宛院内ニ入ラントスルヤ、其處ニハ應試者ガ書籍、詩文草稿等禁制品ヲ携帶シ居ラザルヤヲ檢スル官アリテ、各人ノ携帶品ヲ點檢シ、且衣服ノ内部ヲモ搜索スルモノトス。但シ現時ハ十分嚴重ナラズ。前ニ云ヒシ如ク、應試者ハ自室ノ入口ニ懸クル簾マデナモ用意スル位ユエ、筆墨紙及食品、茶蠟燭等ハ、勿論自ラ用意セザルベカラズ。此等ハ皆ナ公ニ許サレタル物品ナリ。通例手提ノ竹籠ニ此等ノ物品ヲ收メ、之ヲ僕ニ持タセ來リ、貢院ノ門前ニテ僕ヨリ之

ヲ請取り、自ラ提ゲテ院内ニ入ル。食品中饅頭及蠟燭ハ試験用ノ爲ニ特ニ製シタルモノアリ。應試者ハ又試験期日前ニ、本省省城ノ府衙門（直隸ニテハ順天府）ニ就テ、卷票ト稱スルモノヲ買ハザルベカラズ（其價約一弗トス）。此ハ貢院ニ於テ考卷ヲ受領スル爲ノ切符ナリ。卷票ニ本人自ラ姓名原籍等ヲ記入シテ持參ス。携帶品ノ點檢了リ、入院ヲ許サルレバ、卷票ヲ掛官ニ渡シテ考卷ヲ受領ス。考卷ニハ、掛官預メ各人ノ姓名及其坐スベキ室ノ番號ヲ記入シ置ケルユエ、應試者ハ此番號ニ從テ室ニ入ルモノトス。貢院ノ建物數十乃至數百棟アリ。周興嗣ノ千字文ニヨリテ一棟毎ニ字號ヲ附シ、又一棟内ニ數十室ヲ別ツユエ、一字號毎ニ一二三等ノ號ヲ附ス。即チ地一號、支十號ナド云フガ如シ。各人其室ヲ認メテ之ニ入ルヤ、先ツ

机上ニ筆墨等ヲ排シ、又食料品及茶ハ之ヲ小使ニ渡シ、以テ時ニ臨ミテ用フルニ便ニス。小使ハ之ヲ號軍ト稱シ、應試者十人毎ニ一人ヲ附ス、應試者ハ、問題ヲ請取りテヨリ答案ヲ提出スル迄ノ間ハ、室内ヲ出ヅルヲ得ザル規定ユエ、食品茶水等ノ事ハ、皆ナ號軍ヲシテ之ヲ辨ゼシムルナリ。多數ノ應試者ニ就キ、一人毎ニ携帶品ヲ検査シ考卷ヲ與フル等ノ手續ヲ爲スユエ、之ガ爲ニ時ヲ要スルコト甚ダ多ク、漸ク夕方ニ至リテ、方メテ皆ナ其室ニ入ル。其迄ノ間ハ、各自隨意休息シ室外ニ散歩スルヲ得。衆人皆ナ其室ニ入り貢院ノ門閉チラレタル後、夜半頃ニ、始メテ預メ印刷シ置キタル問題ヲ配附ス。此時ヲ以テ正式ニ試験ノ始メトシ、第三日ノ朝ニ至リテ終ル。即チ第三日ノ朝ニ至レバ、考卷已ニ完成セルト否ト

ヲ問ハズ、之ヲ差出シテ退場スベキモノトス。或ハ第二日中ニ考卷ヲ完成セル者アリトモ、第三日ノ朝ニ至ラザレバ、之ヲ提出スルヲ得ザルノ定メナリ。試験場内外ノ監督ハ甚ダ嚴密ナリ。應試者悉ク院ニ入り了レバ、貢院ノ門ハ之ヲ封鎖シ、第三日ノ朝ニ至ラザレバ之ヲ開クコトヲ得ズ。又應試者ガ自己ノ室ヲ離レ、他棟内ノ室ニ居ル者ト交通スルヲ防ガン爲ニ、各棟ノ入口ハ木柵ヲ以テ之ヲ締切り、内外氣息ヲ通ズルノ弊ヲ防ガン爲ニ、監試官ハ内外ヲ嚴重ニ彈壓ス。院内中央ニハ明遠樓アリ、四隅ニモ亦各小樓アリ。監試官ハ此ニ登リテ院内ヲ視察シ、違法ノ舉動ヲ爲ス者アレバ、則チ其ノ字號ヲ調べ事ノ輕重大小ニ應ジ之ヲ處分ス。

應試者ガ考官ニ結托シテ弊ヲ爲ス(所謂關節ヲ)ヲ防ガンガ爲ニ、考官ニ關シ嚴重ノ規定アリ。即チ考官ハ任ゼラレタル日ヨリ、其門ニ廻避ノ札ヲ貼リ、又妾ニ外人ト往來スルヲ得ズ。廻避トハ、考官ノ子弟、宗族及喪服ノ關係アル姻族ハ、均シク本科ノ試験ニ應ズルヲ得ザルヲ云フ。而シテ考官ハ頭場ノ前日ヲ以テ貢院ニ入り、成績發表マデハ院内ニ止マルベキモノトス。

此ク凡テノ方面ヨリ弊ヲ防グノ途ヲ講ジ、一見甚ダ嚴密ナルモ、仍ホ弊ヲ爲スノ餘地少ナカラズ。人ヲ傭フテ代理セシメテ試ニ應ズルアリ。平生専ラ試験ノ準備ノミニ力ヲ用ヒ居リ、文章ノ如キハ試験問題ニ擬シテ之ヲ作り、師ノ添削ヲ得タルモノアレバ、之ヲ薄紙ニ蠅頭細字ニテ書シ、紙ヲ小

ク卷キテ筆管中ニ收メテ持チ來ルアリ。或ハ考官ニ結托シ預メ字眼ヲ通ジ置クアリ。字眼ヲ通ズトハ、詩若シクハ文ノ何句、何字ノ所ニ、何字ヲ用フルコトヲ預メ約束シ置クコトヲ云フ。又別棟ニ在ル者ト交通スルコトハ難ケレドモ、隣室ノ者ト坐シナガラ相語ルハ易シ。故ニ文ヲ作ルニ速カナル者ハ、自己ノ文ヲ草シ終リテ後、隣室ノ人ノ爲ニ、更ニ一文ヲ代作スルコトナド往々ニシテ有リ。其他弊ハ實際少シトセズ、第三日ノ朝、考卷ヲ受卷官ニ提出シ各自退出ス。凡ソ考卷ハ、違式ノモノハ皆ナ棄却セラル。即チ塗抹ノ個所多キモノ、誤字多キモノ、文中清朝ノ廟諱ヲ避ケザルモノ、考卷ノ上ニ漫ニ圖畫又ハ無用ノ文字ヲ記シタルモノ、考卷ヲ汚損シタルモノ、文ノ式ニ合セザルモノ等ハ、皆ナ棄却セラル。之ヲ檢スル

ハ受卷官ノ任トス。受卷官ハ逐一検査シ、上記ノ弊アル考卷ハ之ヲ棄却シ、其他ノモノヲ彌封官ニ送ル。其ヨリ前節ニ説明シタルガ如ク、彌封・騰録・對讀ノ手續ヲ經テ、朱墨兩卷ヲ收掌官ニ送ル。收掌官ハ墨卷ヲ已ニ留メ、朱卷ヲ外監試官ニ送ル。外監試官ハ之ヲ内監試官ニ送ル。之ヲ稱シテ内簾ニ送ルト云フ。内簾トハ考官ノ居ル所ヲ云フ。監臨官提調官等凡テ考試事務ヲ掌ル者ヲ外簾ト云ヒ、考卷檢閱官即チ考官ヲ内簾ト云フナリ。但シ監試官ハ全體ノ彈壓ヲ掌ルモノユエ、分レテ内外ニ屬スルモノトス。内監試官朱卷ヲ受ケテ之ヲ同考官ニ配附ス。同考官ノ數ハ直隸ト江南トハ十八人、其他ハ十六人ヨリ八人ニ至リ均シカラズ。同考官ハ朱卷總數ヲ字號ニヨリ區別シ分擔檢閱ス。合格ト認メタル好卷ニハ、藍

筆ヲ以テ紙片ニ批評ヲ書シテ之ヲ貼付シ、又句讀・圈點ナドヲ施ス。取捨ノ標準ハ、三場共ニ佳ナルモノヲ首トシ、頭場佳ニシテ二三場無疵ナルモノ、又ハ頭場無疵ニシテ二三場佳ナルモノヲ其次トス。此標準ニヨリ、同考官ハ各其擔任ノ朱卷中ノ好卷ヲ拔キ、優劣ノ次第ヲ定メテ之ヲ正副考官ニ呈ス。正副考官ハ各再ビ之ヲ査閱シ、副考官ガ以テ選ニ入ルベキモノト認メタルモノニハ、自ラ墨筆ヲ以テ正取ト書シ、正考官ノ所見モ亦同ジキ時ハ、正考官ハ更ニ中ノ字ヲ書シ以テ合格ト定ム。此クシテ合格ト決セラレタル卷數ガ、錄取スベキ擧人ノ定員ヲ超過スル時ハ、超過シタル分ダケヲ備取トナシ、以テ正取ニ分ツ。同考官ガ佳トナシタルモノニテ、正副考官ニ於テ缺點ヲ發見スルコトアレバ、之ヲ斥ク。又一旦

已ニ正取ト備取トヲ分ケタル上ニテ、正取ノ卷中ニ就キ新ニ缺點ヲ發見スルコトアレバ、之ヲ斥ケテ備取ノ中ヨリ取リテ之ヲ補フ、故ニ愈ヨ成蹟發表即チ所謂揭曉ノ時マデハ、正取必ズシモ正ナラズ備取必ズシモ備ナラズト知ルベシ。成蹟發表ハ三場結了後約四週間トス。其當日ハ貢院内ノ内簾外簾ノ別ヲ去リ、即チ内外交通ノ遮斷ヲ撤シ、院内ノ正堂ニ考官其他掛官及書記等皆ナ會シ、考卷ハ朱墨兩卷共ニ皆ナ之ヲ持チ來リ、朱卷ハ之ヲ正取ト備取トニ區別シテ、又各其優劣甲乙ヲ次第シ之ヲ案上ニ置キ、墨考ハ之ヲ別案ニ置ク。正考官ハ正取第一等ノ朱卷ヲ取り、其上ニ記シアル内號ニ照シテ墨卷ヲ取り、彌封シタル姓名ヲ拆開ス。掛官則チ其姓名ヲ讀ミ上ゲ、書記ハ之ヲ榜ニ記入ス。以下一々此クノ如ク

ス。正取終レバ、規定ニヨリ備取中ヨリ若干ノ副榜ヲ取り、其姓名亦一々正榜ノ後ニ記ス。此龍虎榜ハ直隸ニテハ順天府他省ニテハ本省ノ布政使司衙門ノ門前ニ、三日間之ヲ懸ク。揭曉ノ時、貢院門前ニハ多數ノ報喜人(即チ官位區進試驗合格等ノ喜事ヲ本人ノ家ニ報ズルヲ業トスル者)集マリ、院内ノ小吏ヨリ榜ニ記サレタル舉人及副榜ノ姓名ト其第何名ナルカヲ聞キ、馳セテ之ヲ本人ニ報知ス。即チ預メ黃紙ニ文句ヲ印刷シ置キ、之ニ姓名及其榜次ヲ記入シテ、本人ノ家ニ送り門ニ貼ス。此ニヨリ本人ハ發榜前ニ早ク已ニ其成蹟ヲ知ルヲ得ルナリ。舉人ノ第一名ヲ解元ト云ヒ、第二名ヨリ第五名マデヲ經魁ト云ヒ、第六名ヨリ第十八名マデヲ魁又ハ鄉魁ト云フ。官人ノ邸宅ノ大門ニ、解元ノ額ヲ掲グルハ常ニ見ルトコロナリ。

清國通考第一篇

擧人ハ已ニ學校ノ縁ヲ離レタル者ユエ、隨テ學政使トハ何等ノ關係無ク、又其學業ニ就テ何人ノ監督ヲ受クルコト無シ。發榜ノ後ニ、自己ノ考卷ハ何レノ考官ガ評定錄取シタルカヲ聞合セ、該考官ヲ訪ヒ師弟ノ禮ヲ行フ。即チ自ラ門生ト稱シ、該考官ヲ老師ト呼ブ。而シテ此師弟ノ關係ハ、終身繼續スルモノトス。自己ノ考卷ヲ錄取シタル考官ヲ通常房師ト稱ス。其ハ同考官ヲ幾房(即チ同考官十八人ナレバ)ト稱スルニヨルナリ。擧人會試ニ應ジテ落第スルコト三回ニ及ブ時ハ、特別ノ試験ヲ行ヒ、知縣・直隸州同知・教職等ニ任用ス。之ヲ大挑ト稱ス。但シ遠省即チ福建・湖南・四川・廣東・廣西・雲南・貴州・甘肅各省ノ擧人ハ、會試ニ落第スルコト一回ニテモ、仍ホ特ニ此典ニ與ルコトヲ得。滿洲擧人ハ、大挑ニヨリ小京官ニ任ズルコ

清國通考第一篇

トヲ得。

生員ニシテ屢バ鄉試ニ落第シ、年八十以上ニ及ビテ仍ホ鄉試ニ應ズル時ハ、其成績不合格ナルモ、考官ヨリ特ニ上奏シテ擧人ヲ賞授セラル。鄉試毎ニ、此種ノ老生員數名ヲ見ザルコト無ク、往々九十歳以上ノ老生員ヲ見ルコトアリ。概シテ支那人ハ、年ノ老耄ヲ以テ試験ニ應ズルニ躊躇スルコト無シ。蓋シ此輩ハ、生前ノ名利ヨリハ寧ロ死後ノ名ト子孫ノ利ヲ思フナルベシ。而シテ彼等ハ、所謂子孫ノ利ナルモノハ又結局死後ノ我ガ利ヲナスモノト信ズレバナリ。其事ハ別ニ之ヲ論ズベシ。

新擧人ハ考官ト同ジク燕ヲ賜フ。之ヲ鹿鳴燕ト云フ。擧人ニシテ未ダ進士トナラザル者、其鄉試ニ合格シタル時ヨリ滿

清國通考第一編

六十年ニ達スレバ、朝廷ヨリ特ニ恩賜アリ。之ヲ重ネテ鹿鳴ノ燕ニ赴クヲ許スト稱ス。大官三品以上ノ者ハ、其本省ノ督撫ヨリ特ニ上奏シ、此恩賜ヲ得ンコトヲ請フモノトス。

鄉試ノ翌年三月、北京ニテ會試ヲ行フ。前年ノ新擧人ハ、期ニ先ダチ北京ニ來リ、覆試ヲ受ク。若シ特別ノ理由(父母ノ與自己ノ疾病等不得己モ)無クシテ試ニ應ゼザル者ハ、永ク會試ニ應ズルコトヲ許サズ。先ニ云ヒシ院考ニモ亦覆試アリ。支那ニテ學生ナドヲ取ル時ニハ、試験終リシ後ニ、更ニ一回覆試ヲ行フヲ例トス。

現時各學堂ノ入學試験モ亦此クノ如シ。但シ學堂ノ入學試験ニテハ、覆試ニヨリテ多少ノ淘汰ヲナスモ、新擧人ノ覆試ニ於テハ、勿論淘汰ノ事アルベキヤウ無ク、止ダ覆試ノ成績甚ダ劣等ナル者ハ、會試ニ應ズルヲ許サ、ルノ制裁アルノ

清國通考第一編

會試一切ノ情形ハ、鄉試ニ同ジ。但シ卷票ハ、禮部ニ就テ之ヲ購フ。又問題ハ凡テ欽定トス。考卷ノ査閲ヲ終リ、正考官ヨリ正取備取及不及格ヲ區別シ、知貢擧官ヨリ其卷數ヲ各省別ニ記載シテ、上奏シ勅裁ヲ乞フ。天子ヨリ應ニ取ルベキノ人數(即チ所謂中式人數ナルモノ)ヲ定メ旨ヲ下ス。此ニ於テ方メテ成績ヲ發表ス。中式ノ人數ハ三百名以上トス。會試ノ第一名ヲ會元ト云ヒ、第二名ヨリ第五名マデヲ經魁ト云ヒ、第六名ヨリ第十八名マデヲ會魁ト云フ。會試及第者ヲ總テ貢士ト稱ス。

殿試ハ、本年ノ新貢士ヲ宮中ニ召シ、天子軒ニ臨ミテ之ヲ試ム。天子ノ親試ナルヲ以テ考官ヲ任ゼズ、止ダ讀卷官ヲ置クノミ、讀卷官トハ、原來天子ノ御前ニ在リテ考卷ヲ讀ムノ官

ニシテ、天子ハ該官ノ讀ムヲ聽キテ、甲乙ヲ評定スルモノトス。但シ今日ニテハ、讀卷ノ事無ク、讀卷官ハ實ハ考官ナリ。故ニ通例之ヲ閱卷大臣ト云フ。此通稱ノ方却テ事實ニ近シ。讀卷官ハ大學、學士、九卿等ノ中ヨリ勅命ニヨリ任ゼラル。其他提調官、監試等ノ事ハ已ニ前ニ見エタリ、殿試ノ當日早朝、貢士ハ宮城午門(即チ正門)外ニ集マリ、掛官ヨリ考卷ヲ受領シ、時ニ至レバ掛官ノ指揮ニ從ヒ、午門ノ左右掖門ヨリ入り、太和殿東西丹墀ニ順序ニ從テ立ツ。大學士一人、欽定ノ問題即チ制策(前日內閣ニテ印刷ニ附シ置ケルモノ)ヲ捧ジテ出テ來リ、之ヲ禮部尙書ニ授ク。尙書之ヲ受ケテ丹墀ノ中央ニ置カレタル案ノ上ニ置キ、跪キテ三叩ノ禮(即チ一跪三叩頭ノ禮)ヲ爲ス。禮部儀制司ノ司員案ヲ舉ゲテ御道ノ中央ニ安ンズ。讀卷官以下ノ

掛官ハ三跪九叩頭ノ禮ヲ爲シ、貢士モ亦次デ同ジク禮ヲ行フ。禮終レバ儀制司ノ司員ハ制策ヲ各貢士ニ授ク。貢士跪テ之ヲ受ケ、三叩ノ禮ヲ行ヒテ立チ、各丹墀ノ東西ニ列セラレタル試案ニ就ク。讀卷官ハ退テ內閣ニ入り考卷ヲ俟ツ。貢士ハ夕方マデニ考卷ヲ出シ退クベキモノトシ、繼燭ヲ許サズ。

受卷官ハ考卷ヲ請取り、之ヲ彌封官ニ渡ス。彌封官ハ考卷ノ姓名ヲ密封シテ收掌官一渡シ、收掌官ハ之ヲ內閣ニ送り讀卷官ニ渡ス。讀卷官ハ數日間內閣ニ宿シ、考卷ヲ閱シ其優劣ヲ定メ、優等者中ノ前十名ノ考卷ヲ天子ノ御覽ニ呈ス。原來ハ天子親ラ再ビ之ニ就テ、其優劣ノ次第ヲ定ムルモノトス。清朝ノ初メニハ仍ホ其事アリシガ、今ハ讀卷官ノ定メタル

マ、二次第定マルモノ、如シ。然レドモ仍ホ舊例ニヨリ、大學士一人筆ヲ乘リテ御前ニ侍シ、欽定ノ次第ヲ承ケテ一ヨリ十マデノ番號ヲ各卷ニ記注ス。大學士ハ右十名ノ考卷ヲ奉ジテ退キ、内閣ニ至リ門ヲ閉ヂテ、右十卷ヲ始メ考卷ノ姓名ヲ拆開シ、一甲三人二甲若干人三甲若干人、各分別シテ其姓名等級ヲ黃榜ニ記入ス。記入シ終レバ之ヲ御覽ニ供ス。然レバ天子モ此時マデハ、自ラ評定シタル考卷ノ何人ノ作ナルカヲ知ラザルナリ。

此ニ於テ翌日傳臚ノ事アリ。此日天子ハ禮服ヲ召シテ太和殿ニ出御アリ。王公百官侍ス。貢士亦皆ナ禮服シテ丹墀ノ東西ニ北面シテ立ツ。讀卷官以下ノ掛官ハ、各其位ニ就キ三跪九叩頭ノ禮ヲ行フ。大學士ハ例ノ黃榜ヲ捧ジテ之ヲ禮部尙書

ニ授ク。尙書受ケテ之ヲ丹陛ノ案ニ置キ禮ヲ爲ス。此ニ於テ鳴贊官ハ有制ト高唱ス。貢士皆ナ跪キテ制ヲ俟ツ。宣制官ハ制旨ヲ奉ジ丹陛ノ南ニ至リ、貢士ニ對シ制旨ヲ宣讀ス。宣制訖リテ廻チ一甲第一名某ト唱フ。傳唱官之ヲ承ケテ三タビ傳唱ス。第二名第三名モ亦此クノ如シ。一甲三名ノ傳唱終レバ、鴻臚官ハ此三名ヲ引キテ貢士ノ班位ヲ出デ、御道ノ東西ニ至リ、順次ニヨリ北面シテ跪ク。此時又二甲第一名某等若干名三甲第一名某等若干名ト傳唱ス。此ニ於テ二三甲ノ者ハ、各其班位ニ在リテ跪ク。鳴贊官ノ贊聲ニ從ヒ、貢士皆ナ三跪九叩頭ノ禮ヲ爲ス。禮行ハレバ鳴贊官ハ舉榜ト唱フ。此ニ於テ禮部尙書進ンデ丹陛ノ案ノ前ニ至リ、跪キテ黃榜ヲ取ル。此時天子ハ入御セラル。禮部尙書黃榜ヲ奉ジ、禮部ノ諸官及一

甲三名之二隨ヒ、太和門ノ中央正門ヲ出デ遂ニ午門ノ外ニ出ヅ。二甲三甲ノ者ハ、別門ヨリ此ニ來リ會シ、榜ニ隨ヒ長安門ノ左門ヲ出デ、此ニ榜ヲ懸クルコト三日。傳臚終リテ、貢士方メテ進士トナル。最優等三名ヲ一甲トシ、各進士及第ヲ賜フ。之ニ次グ者ヲ二甲トス、定數無シ。各進士出身ヲ賜フ。又之ニ次グ者ヲ三甲トシ、同進士出身ヲ賜フ。此亦定員無シ。一甲ノ第一名ヲ狀元ト云ヒ、第二名ヲ榜眼ト云ヒ、第三名ヲ探花ト云フ。二甲ノ第一名ヲ傳臚ト云フ。狀元ノ名ハ唐ニ始マル。則天武后初メテ貢士ヲ殿前ニ試ム。其成績ノ次第ヲ分ツテ門下省ヨリ上奏ス。之ヲ奏狀ト云フ。奏狀ノ第一ニ書セラル、者ヲ狀頭又ハ狀元ト云ヘリ。此ニヨリ今仍ホ狀元ノ名ヲ襲用ス。榜眼ノ名ハ、北宋ノ時ヨリ有リ。趙

翼ノ說ニ、眼ハ必ズ二個ノモノユエ、始メハ狀元ノ次ナル第二名第三名ノ二人ヲ榜眼ト稱シタルニ、元ノ時ヨリ第三名ニハ別ニ探花ノ號ヲ與ヘ、榜眼ハ遂ニ第二名ノ稱トナレリト。探花トハ、唐ノ時、曲江宴ニ貢士及第中ノ最年少者ヲ以テ探花郎トナシ、遍ク名園ニ游ビ名花ヲ求メシム。若シ他人ノ爲ニ先ヅ名花ヲ得ラル、コトアレバ、探花郎ハ罰セラル。亦文苑風流ノ樂事ナリ。後遂ニ一甲第三名ヲ探花ト稱スルニ至リシナリ。又一甲ハ、宋ノ時ニ在リテハ三名ニ止マラザリシモ、前列三名ハ最モ重ゼラレ、將來ノ出身ハ前列三名最モ早シ。後遂ニ三名ヲ定メテ一甲トナスニ至レリ。

一甲進士三人ハ、傳臚終レバ特ニ開カレタル宮城南面ノ正門ヲ出デ、馬ニ跨リ宮城前ナル正陽門(通例前門ト稱ス、本邦ノ二重橋正門ニ當ル)

ナモリノ中門ヨリ直ニ城外ニ出デ、市中ヲ遊觀スルヲ許サル。抑モ正陽門ノ中門ハ、平日堅ク鎖シテ開カズ、天子天壇等ニ臨幸ノ時ニ方メテ之ヲ開ク。今此門ヨリ馬ニ跨リ出ヅルコトハ非常ノ榮譽トス。滿城ノ士女眼ヲ聳テ、將來ノ宰相タルベキ新狀元ヲ視ル。新狀元若シ年仍ホ壯ニシテ妻室無キモノナル時ハ、結婚ノ申込ハ四方ヨリ來リ、我先ニ此人ヲ婿トシ以テ家門ヲ耀カサントス。傳臚ノ日、一甲三人ニ順天府ニテ燕ヲ賜フ。燕訖レバ、順天府府尹及府丞之ヲ送リテ各其邸ニ至ル。此亦特別ノ榮譽トス。翌日讀卷官以下ノ掛官及新進士一同ニ禮部ニテ燕ヲ賜フ。之ヲ恩燕ト云フ。傳臚ノ後、更ニ保和殿ニ於テ覆試アリ。其成績ニヨリ、翰林院ニ入ル、者ト六部内閣或ハ外官トナス者トヲ區別ス。其翰

林院ニ入ル者ハ、專ラ書ニ巧ミナル者ヲ取ル。覆試ハ學術ノ優劣ニ重キヲ置カズ、但ダ將來ノ出身ノ遲速優劣ハ此時ニ定マルモノトス。而シテ撰拔セラレテ翰林院ニ入ル者ハ、皆ナ庶吉士トシテ教習庶常館ニ入り、肄業三年更ニ考試ヲ經テ方メテ職ヲ授ケラル。六部等ニ入ル者ハ、別ニ一定ノ職務ヲ授ケズ、止ダ專ラ事務ヲ學習セシムルノミ。然ルニ昨年上諭アリ、將來新進士ハ、其庶吉士タルト否トヲ問ハズ、皆ナ學ニ入り業ヲ修ムルコト三年、然ル後ニ方メテ職ヲ授クルコトトナシ、教習庶常館ノ外ニ別ニ進士館ヲ設ケ、政治、法律等ノ諸學ヲ授クルコト、ナシ、一昨年來北京大學堂内ニ設ケアリシ仕學館ヲ進士館ニ併セ、本年四月ヨリ開校セリ。然ルニ新進士中ニハ、三年間再ビ學ニ入ルヲ好マザル者多キヨリ、

遂ニ各種ノ除外例ヲ設ケタレバ、實際進士館ニ入リシ者ハ、新進士ノ四分ノ一位ニ過ギザリキ。進士ノ姓名及原籍ヲ記シ、之ヲ石ニ刻シテ國子監ニ建ツ。之ヲ題名錄ト云フ。此事ハ元ノ仁宗ノ時ヨリ始マレリ。現ニ北京國子監内ナル大成殿ノ大成門外ニ、元以來ノ題名碑ハ今仍ホ依然トシテ存ス。

第六 科舉餘聞

前節學校ト科舉ノ關係ヲ説明スルニ當リ、專ラ現時ノ情況ヲ説キ、未ダ其沿革ニ論及セザリシガ、科舉ノ起源亦古ク、支那諸制度中重要ノ一制度トシテ、官制上又社會諸般ノ事情上ニ影響ノ存スルモノ少カラズ。且支那讀書人ノ心理上ニ

於ケル影響ハ更ニ大ナルモノアリ。今科舉ト官制トノ關係ヲ云ヘバ、現制ニヨルニ、翰林院ハ科舉ト多大ノ利益關係ヲ有セリ。翰林院ノ諸官ハ、古來儒臣ノ華選ト稱セラレ、甚ダ名譽アル官ナルモ、明初以來、政務ニ預ラズ、寔權ヲ有セズ。寔權ノ無キ所ハ寔利モ亦存セズ。抑モ支那人ノ名譽ヲ悦ブハ、名ノ有ル所ハ即チ寔利ノ存スルトコロナルヲ以テナリ。然ラバ獨リ虚名有リテ寔利無キ翰林ハ、何ヲ以テ人之ヲ尊ブカト問フニ、翰林ハ科舉ノ關係上能ク寔利ヲ收ムルヲ得ルモノアルニヨル。即チ學政使及鄉會試ノ正副考官、同考官ハ、主トシテ翰林諸官ノ中ヨリ任ゼラル。彼等ハ此ニヨリテ直接ニ幾多ノ寔權寔利ヲ得ルノ外ニ、仍ホ副所得トシテ間接ニ得ルトコロノ利モ亦少カラズ。其ハ學政使ニヨリテ錄取セラレ

シ學生ハ終生學政使ト師弟ノ關係ヲ有シ、又鄉會試ニ及第シタル舉人進士ハ、考官ト終生師弟ノ關係ヲ有ス、而シテ其師弟ノ關係ナルモノハ、單ニ個人交誼上ノ關係ヲ繼續スルニ止マラズシテ、將來宦場裡ニ於ル關係ヲモ生ズベシ。即チ師ハ其門生ヲ保護庇助シ、門生亦師ノ利益ヲ圖ル故ニ、屢バ考官ニ任セラレ多數ノ門生ヲ得タル者ハ、自己ノ將來ノ爲ニ寔利多キコト明カナリ。況ヤ今日ノ門生ハ、他日ノ尙書總督等タルベキ者アルニ於テチヤ。加之又門生ハ、歲時其師ニ禮物ヲ贈ルノ習アレバ、師ハ又物質上ノ寔利ヲモ收ムルヲ得ベシ。翰林諸官ガ新學ヲ悅バズ、科舉廢止問題ニ關シ熱心ニ反對スルハ、皆ナ此寔利ヲ保護センガ爲ナリ。又科舉ト社會的事情トノ關係ノ一例ヲ舉ゲン。鄉會試ノ時ニ至レバ、金

錢ヲ賭シテ及第者ヲ猜スルハ、一般ノ風習ナリ。其狀未ダ外國ニテ競馬短艇競争又ハ自動車競争等ニ於ケルガ如ク盛ナラザルモノアリト雖モ、亦甚ダ之ニ髣髴タリ。廣東ノ如キハ則チ此事最モ盛ニシテ、已ニ一種ノ彩票(即チ富籤)行ハル。即チ所謂闈姓ナル者是ナリ。闈トハ貢院ノ義ナルコトハ、前節ニ於テ已ニ之ヲ云ヘリ。闈姓トハ、鄉會試其他院考等ノ各考試ヲ行ハル、時ニ受驗者ノ姓名ヲ記入シタル富籤ノ札ヲ作りテ之ヲ發賣ス。人各何人ガ及第スベキヤヲ猜シ、其姓名ヲ記セラル彩票ヲ買フ。若シ其買ヒシ數枚若シクハ數十枚ノ彩票ガ、及第者ヲ有スルコト最モ多キモノヲ以テ頭票(即チ第一當籤)トシ、以下順次ニ等級ヲ定メ、各若干金ヲ得ルモノトス。此風甚ダ盛ナリシヨリ、官屢バ之ヲ禁ジタレドモ其效無シ。此ニ於テ官

清國通考第二篇

ハ之ニ稅ヲ課シタリ。之ヲ闡捐ト云フ(捐ハ政府ノ費用ヲ助クルガ場合ニハ一種ノ稅ト見ルヲ得ベシ)。一旦稅ヲ納メシ上ハ、官許營業ノ性質ヲ有スルコト、ナリシカバ、更ニ公然之ヲ行フコト、ナリ、以テ今日ニ至レリ。清曆去、冬自今三科ヲ限リテ(即チ次回ノ鄉會試ヲ行フノ後仍ホ二回ノ鄉會試ヲ限)科擧ヲ廢スルコト、ナリシカバ、廣東ノ闡姓ハ頓ニ衰へ、官ニ納ムルトコロノ税金モ亦著シク減少シタリト云フ。又科擧ト文學トノ關係ノ一例ヲ擧ゲン。小説戲曲等ノ佳人才子ノ情事等ヲ叙スルモノ、科擧ノ關係ヲ有セザルモノ殆ド少シ。讀書人ニシテ科擧ヲ以テ目的トセザル者無ケレバ。小説戲曲等ノ主人公タル才子ノ經歷ハ、必ズ一半ハ科擧ニ關係スルヲ以テナリ。又遊戲中骨牌ヲ弄スルモノニ、奪狀元ノ戲アリ。更ニ科擧ト宗教トノ關係ニ就キ一端ヲ示サン。讀

清國通考第一篇

書人ノ最モ尊崇スル文昌帝君ハ、文學ノ神トシテ專ラ科擧ノ事ヲ掌ルモノナリ。以上擧グルトコロハ、各事ニ就キ其一端ヲ示スニ過ギザルモ、亦以テ科擧ノ影響甚ダ深ク且多方ナルヲ知ルニ足ラン。今更ニ端ヲ改メテ、科擧ニ關スル支那人ノ心理ヲ説カン。抑モ科擧ハ其本旨此ニ因リテ國家ノ要スル人材ヲ取ルニアリ。故ニ及第者ノ數ハ、國家ノ要スル大小官員ノ數ニヨリテ參酌セザルベカラズ。而シテ大小官員ノ數ニ限アレバ、及第者ノ數亦一定ノ限ヲ立テザルベカラズ。今國家ノ安寧ヲ保タント欲スルニハ、民心ヲ得ルヲ要シ、民心ヲ得ント欲スルニハ、讀書人ノ心ヲ上ニ結び付クルヲ以テ最モ行ヒ易キノ法トス。科擧ハ正ニ天下讀書人ノ心ヲ收ムル所以ノ法ナリ。

蓋シ支那ニテハ、學問ト政治トヲ殆ト相即不二ノモノト見做シ、政治ニ應用スル以外ニ、學問ノ目的無ク、學問ノ效用無シト思ヘリ。然レバ、讀書人ヲシテ必ズ科擧ニヨリ官ヲ得ント思ハシムルハ、決シテ至難又不自然ノ事ニアラズ。否、寧口至易又自然ノ事ナリ。故ニ科擧以外ニ仕進出身ノ途ヲ塞ギ、天下ノ讀書人ヲシテ必ズ此途ニ由ラシムルコト、ナシタルハ、民心ヲ上ニ收メ以テ統一無キ支那ノ天下ノ統一ヲ保ツ所以ノ法トシテハ、決シテ良法ナラズトナスベカラズ。已一科擧ニ因リテ天下讀書人ノ心ヲ收メントセバ、及第セシムベキ員數ガ多カラザレバトテ、各種ノ制限ヲ設ケテ應試ヲ難カラシムルハ得策ニアラズ。寧口試験ノ門戸ヲ開放シテ、何人ニモ仕進出身ノ機會ヲ與フルノ勝レルニ如カズ。是

前節ニ説明セルガ如ク、或ル狭小ノ範圍ヲ除クノ外ニハ、試験ニ應ズルニ付テ、何等ノ制限ヲ存セザル所以ナリ。此事ハ亦支那ガ古來埃及印度等ト異ニシテ、階級制度ヲ有セザルニモ因ルモノトス。其ハ別ニ説明スルコト、シ今ハ敢テ詳説セズ。上來説クトコロノ理ニヨリ、鄉會試ニ應ズル人數ハ、及第スベキ人數ニ比シテ、數十倍又ハ數百倍ノ多キニ上ル。然レバ及第ノ月桂冠ヲ戴ク者ハ甚ダ少ク、落第ノ不名譽ヲ荷フ者甚ダ多シ。及第セル者ハ得意洋洋タレバ、落第者ハ必ズ不平ノ氣鬱勃タルヲ免レザルベシ。之ヲ歴史ニ徴スルニ、弟子又ハ友人ノ下第ヲ慰ムルノ文、往々古人ノ集中ニ見エ、又落第秀才ノ不平ノ餘ニ事ヲ釀シ亂ヲ起シタルモ少カラズ。然レバ士子ハ本來仕進出身ヲ唯一ノ目的トシテ、多年

勞苦修學シ來リシ者ナルニ、今門戶開放人心收攬ノ爲ニ、漫ニ多クノ士子ヲ集メテ其多數ヲ下第セシムルハ、却テ人心ヲ失フ所以ニアラズト云フベカラズ然ルニ此法大體ニ於テ、能ク善良ノ結果ヲ收メ、人心收攬ノ目的ニ適スルハ何ゾ。蓋シ支那人ハ、其避クベカラズト思惟スルトコロノ害惡ニ安ンジ、之ニ慣レテ尋常ノ場合ニハ、敢テ不平ヲ訴ヘザルヲ常トス。政治上弊害甚ダ多キニ拘ハラズ、民ノ敢テ亂ヲ作サルハ、寔ニ此ニヨル考試ニ就テモ亦漸次思想感情ノ變化ヲ來タシ、其以テ避クベカラズト爲ストコロノ結果ニ安シズルニ至リシナリ。

今考試ニ關スル支那人ノ思想感情如何ト云フニ、考試ノ成績ハ、人事ト天運トニヨルトナスコト是ナリ。蓋シ儒教ノ本

義ハ、人事ヲ盡シ人力ヲ致スニアレドモ、支那人ハ早クヨリ天ニ頼ルノ思想感情ヲ生ジタリ。是一ハ支那人ノ知識發達ノ十分圓滿ナラザル點アルト、意志ノ強固ヲ缺ク點アルトニヨリテ然ルナリ。兎ニ角支那人ハ、概シテ天ニ頼ルノ思想感情多シ。考試ニ於テ必ズ天運ヲ認ムルモ、亦其結果ノミ。蓋シ天運アリトセバ、又以テ考試ノ結果ニ就テ、自ラ慰メ自ラ安ンズルヲ得ベシ。然レバ必ズ天運ヲ認ムルモノハ、避クベカラザルノ害惡ニ安ンズルノ便法ナリ。考試ニ於テ、應試人員ト及第人員トノ間ニ著シキ懸隔アレバ、假如ヘ學問文章共ニ佳ナルモ、及第者定員ニ限ラレテ及第ノ榮ヲ得ザルコトアルベキハ、本ヨリ預期セザルベカラズ。故ニ及第セザルモ、未ダ必ズシモ自己學問文章不佳ナルニ因ルト云フベカラ

ズ。是既ニ以テ自ラ慰ムルノ料トナスニ足ル。且文章詩歌ノ好悪ハ、本來人ノ見ルトコロニ從テ變ズ。明以來ハ、股ノ制ヲ定メ、文章必ズ一定ノ形式規矩ニヨリ、取捨ノ標準稍ヤ一定シ易キニ似タレドモ、仍ホ考官ノ好悪ニヨリテ評定決シテ一ナラズ。然レバ詩文ノ取捨本ト預期スベカラザルモノアリ。故ニ及第セザリシトテ、必ズシモ自己詩文ニ短ナリトナスニ足ラズ。不幸ニシテ好悪ノ趣味已ニ同ジカラザル考官ニ閱サレタルガ故トシテ、自ラ慰ムルヲ得ベシ。又考官ノ人數少ナク考卷ノ數ハ甚ダ多シ。一人ノ考官ニシテ多キハ數百千ノ考卷ヲ檢閱セザルベカラズ。然レバ考官ノ心ニ一點ノ偏私無キモ、猶ホ評定ノ時ニ誤無キヲ保スベカラズ。此亦免レ難キノ害悪ナリ。以上數事ハ、一部人事ニ屬シ一部ハ天

運ニ屬ス。然レバ考試ノ成績ハ、純ラ人事ニ屬スル自己學問文章ノ佳否ノ外ニ、仍ホ天運ノ其間ニ存スルヲ免レズトナスナリ。既ニ天運ト云ヘバ、全ク人事ニ因ルニアラザルニ似タリ。然レドモ天運決シテ偶然ニアラズ、必ズ其然ラザルヲ得ザルノ理アリ。但シ其理ハ人或ハ之ヲ知ルヲ得ザルモノアルニヨリ、人能ク之ヲ預期スルニ由無キノミ。故ニ天運ナルモノハ、人ヨリ之ヲ見レバ偶然ナルガ如キモ、天ヨリ之ヲ云ヘバ則チ必然ナリ。又個人ニ就テ之ヲ云ヘバ偶然ナルニ似テ、全局ニ就テ之ヲ云ヘバ則チ必然ナリ。然ラバ其必然ナルモノ果シテ如何。曰ク人事ノ善悪天ニ感じ天ヲ動カス、天其感ズルトコロニ從ヒ吉凶禍福ヲ下スコト是ナリ。即チ人平生心ヲ用フルノ正邪事ヲ爲スノ善悪、皆ナ逐一天ニ感

ジ、天之ニヨリテ遂ニ賞罰ヲ下ス、是天理ノ必然ナルモノナリトス。然ルニ個人ノ心術行爲ト其運ノ泰否トハ、未ダ必ズシモ一致セザルモノナリ。此ニ於テ支那人ハ、又父祖ノ餘慶餘孽ガ子孫ニ及ブノ理ヲ用ヒテ、其説ヲ通ゼントス。此クシテ所謂天運ナルモノハ、自己及父祖ノ心術ノ正邪行爲ノ善惡ニヨルモノトナセリ。然レバ學問文章共ニ佳ナルモ、平生心術邪ニシテ行爲惡多キ者、又ハ自己ニ格外ノ邪惡無キモ父祖ノ餘孽仍ホ未ダ盡キザル者ハ、考試ニ於テ好成績ヲ得ズ。之ニ反シテ平生心術正シク行爲善多キ者、又ハ平生ノ品行ニ少シク缺點アルモ、心術ニ格外ノ邪惡無ク且父祖ノ餘慶仍ホ存スル者ハ、學問文章未ダ必ズシモ優ナラザルモ、好成績ヲ得ベシ。而シテ所謂考試成績ノ良否トハ、文章制作ノ佳否

チ意味スルニアラズ、專ラ及落第ノコト即チ考官ノ評定如何ヲ意味スルナリ。此ニ於テ問題生ズ。即チ我心術行爲ノ正邪善惡ガ如何ニシテ考官ノ考卷評定ニ影響スルヲ得ルカト云フコト是ナリ。支那人ハ之ニ答ヘテ、我心術行爲如何ハ、天神殊ニ文昌帝君ノ心ヲ感動シ、文昌帝君ハ更ニ我父祖餘慶餘孽ノ關係ヲ調査シタル上ニテ、及第セシムベキト否トヲ決定ス。此決定ハ文昌帝君ニヨリテ、冥々裡ニ考官ノ心ニ啓沃默示セラル。考官ノ考卷評定ハ、此クシテ天神ノ默示(或場合ニハ)ニヨリテ左右セラル。考試ノ成績天運ニヨルトハ、寔ニ此クノ如キ意味ヲ有スルモノトス。但シ此ク天帝ノ干涉アルハ、必ズシモ一切ノ應試者ニ就テ然ルニアラズト雖モ、考試ノ成績半バ天運ニヨルコトハ、仍ホ一般ニ就テ云

ヒ得ベキナリ。然レバ落第セル者ハ、運氣不好トシテ自ラ慰マ、人ヲ怨ミズ亦天ヲ尤メズ、幾回ニテモ考試ニ應ジテ厭ハズ、又以テ愧トナサズ。又落第ハ必ず其平生ノ心術行爲ノ上ニ缺點アルガ爲ナリトシテ、自省スルコトヲモ爲サズ。蓋シ天運ニ、全局ヨリ見タル時ノ必然ト個人ヨリ見タル時ノ偶然トノ二義アルモノトシテ、自己ノ場合ヲ以テ偶然ノ場合ト見做スニヨリ、此カル結果アリ。

天運ハ必ず人事ノ正邪善惡ニヨルトセバ、何事ヲ善トシ如何ナル行爲ヲ惡トスルカハ、必ず次ニ起ルベキ問題ナリ。今善惡ノ類別多シト雖モ、科擧ノ關係ニ於テ最も重要視セラ、モノハ淫ト敬惜字紙トナリ、支那古來孝ヲ以テ百行ノ本トナスニ對シ、淫ヲ以テ諸惡ノ首トナセリ。必ず淫ヲ以テ

孝ニ對スルヨリ見テモ、淫ヲ以テ惡ノ大ナルモノトナスコトハ知ラルベシ。讀書以テ身ヲ立テントスル者ハ、多クハ是年壯氣銳ノ士、所謂之ヲ戒ムルコト色ニ在ル者ナレバ、淫ヲ戒ムルハ最も適當ナル教訓ナリト云フベシ。然レドモ必ず淫ヲ孝ニ對スルマデニ重ク視テ諸惡ノ首トナスニ至リテハ、其裡面ニ於テ支那人ニ淫行多キヲ察スルコトヲ得ベシ。古來男女七歲不同席ノ教アリ。又女ハ閨門ノ外ヲ窺ハザルヲ以テ原則トスルナド、男女間ノ關係ヲ防遏スルコト甚ダ嚴正ナルモ、實際ハ之ニ反スルモノアリ。消極的ニ女子ノ惡ヲ爲スヲ預防スルノミニテ、積極的ニ其知德ヲ啓發養長シ、以テ惡ヲ爲スヲ耻ヅルニ至ラシムルノ教無シ。故ニ女子ニ表面上男子ヲ見レバ羞ヅルノ形アリテ、其心ニ廉恥羞惡

ノ情薄キ者多キハ、亦教育否寧口教育無キノ自然ノ結果ノミ。而シテ男子ハ如何ト云フニ、此亦德操ノ養成ニ於テ、甚ダ缺クルトコロ多ク廉恥羞惡ノ情ハ十分發達セズ。蓋シ男子生レテ字ヲ知り書ヲ讀ムノ初メヨリ、目ニスルトコロノ書ハ聖經賢傳耳ニスルトコロノ語ハ道德仁義ノ教ナルモ、學問教育ノ目的ハ、一ニ功名富貴ニアリテ人物德操ノ養成ニアラズ、聖賢ノ書道德ノ教ハ、功名富貴ヲ博スルニ必要ノ具タル文章制藝ノ材料トシテ之ヲ學ブノミ。決シテ之ヲ以テ人物德操ヲ養成スルノ材料トナスニアラズ然レバ口筆能ク道德仁義ノ說ヲ述ブルモ、心ニハ功名富貴ノ外ニ又何ノ德操カ有ラン。德操無キノ男子ト廉恥無キノ女子トノコトナレバ、裡面ニ於テ淫心淫行多キハ、敢テ多ク怪ムニ足ラザ

ルナリ。戯曲小説等ハ良ク此間ノ消息ヲ漏スモノアリ。而シテ所謂風流才子ナル者ハ、好デ狹斜ノ巷ニ遊ビ聲色ノ樂ニ耽ルモ、此種ノ行ハ、其己ニ家ヲ成セル者ニ在ルト未ダ室ヲ有セザル者ニ在ルトヲ問ハズ、之ヲ以テ所謂淫トナサズ、少クモ之ヲ以テ科舉ノ成績ニ影響スベキ淫行トハ見做サルナリ。然ラバ諸惡ノ首タル淫トハ、如何ナルモノヲ云フカト問フニ、其ハ專ラ婦人ノ節操ヲ破ルトコロノ淫行ヲ指スナリ。即チ處女、他人ノ妻妾又ハ寡婦トノ關係ヲ意味スルナリ。淫ノ義ヲ解釋スルコト既ニ此ク寛大ナルト、必ズ淫ヲ以テ諸惡ノ首トナスト合セ見ル時ハ、支那讀書人ノ品行ハ思半ニ過ギン。敬惜字紙ハ事甚ダ小ナルニ似テ、然カモ讀書人ニ取リテ偉大ノ功ヲ收ムベキモノト信ゼラル。蓋シ

文字ハ聖人ノ創製スルトコロニシテ、又聖賢ノ教ヲ書スルノ具、且士子ガ功名富貴ヲ博スルノ要具ナレバ、讀書人ハ最モ之ヲ尊重セザルベカラズ。此ニ於テ文字ヲ書セシ紙ハ、假如ヘ片紙タリトモ、必ズ之ヲ道路ニモ委棄セズ、集メテ之ヲ特ニ設ケタル爐中ニ焚ク人、一生能ク字紙ヲ尊重スル時ハ、其身又ハ其子孫ニ當リ、科舉ニ於テ必ズ良成績ヲ得ベシトス。敬惜字紙ヲ目的トスル慈善社ノ類、到ル處ニ之ヲ見ルハ、實ニ此利益ヲ收メンガ爲ナリ。

郷會試ノ時ニ、試験場即チ貢院ニテ、急ニ病ヲ得テ死スル者、毎回二三人位アリ。應試者ニ與ヘラル、室甚ダ隘小ニシテ、横臥ノ餘地スラ存セザルニ、一日ニ夜其裡ニ在リテ詩文ヲ作ルコト前後三回、其肉體上及精神上ノ苦モ亦少カラズ。

然レバ身體虛弱ナル者ハ、急ニ病ヲ得テ死スルモ亦怪ムニ足ラザルナリ。然ルニ迷信ニ富メル支那人ノコト、テ、殊ニ考試ニ天運ヲ聯結シタルコト、テ、此種ノ人ヲ見テ、必ズ其平生陰惡多キガ爲ニ、鬼神ノ冥罰ヲ蒙リシモノト做ス。又試験ノ度毎ニ、完成シタル考卷ノ上ニ婦人ノ鞋ヲ畫キ、又ハ好色等ノ字樣ヲ書シ、又ハ急ニ平生ノ淫行ヲ想起シ心亂レテ詩文ヲ作り得ズ。且自ラ陰惡ヲ曰ニシ鄰室ノ人ニ聞カレナドシ、恥ヲ暴シテ退場スル者アリ。科場異聞録ノ一書、歷代ノ考試ニ於ケル此種ノ事實ヲ集録セリ。而シテ其所謂異聞ナルモノ、大半否殆ド全ク淫行ニ關セリ。是蓋シ前文已ニ説明セルガ如ク、淫ヲ以テ諸惡ノ首トシ、又考試ノ時、天ハ其人平生ノ心術行爲ニヨリ賞罰ヲ下ストノ信仰アルニヨリ、平生

9810
10
13759

清國通考第一篇

第六 科學餘聞

百六十六

淫行アル者一タビ貢院ニ入レバ、心理學ニ謂ユル自己暗示
(Auto-suggestion)ノ理ニヨリ、知ラズ識ラズ、忽チ平生ノ淫行ヲ
想起シ且天罰ヲ想フ。此思想感情全心ヲ支配シ、遂ニ不隨意
的ニ言語又ハ文字繪畫等ニヨリテ、其陰惡ヲ自白スルニ至
ラシムルナラン。所謂科場異聞ナルモノハ、科擧ニ關スル支
那人ノ心理ヲ窺フガ爲ニハ、最モ趣味アルモノトス。

清國通考第一篇畢

清國通考第一編終

定價金五拾錢

明治三十八年一月十九日印刷

明治三十八年一月廿三日發行

著 者 服 部 宇 之 吉

印 發 者 龜 井 忠 一

東京市神田區裏神保町一番地

印 刷 所 三 省 堂 印 刷 部

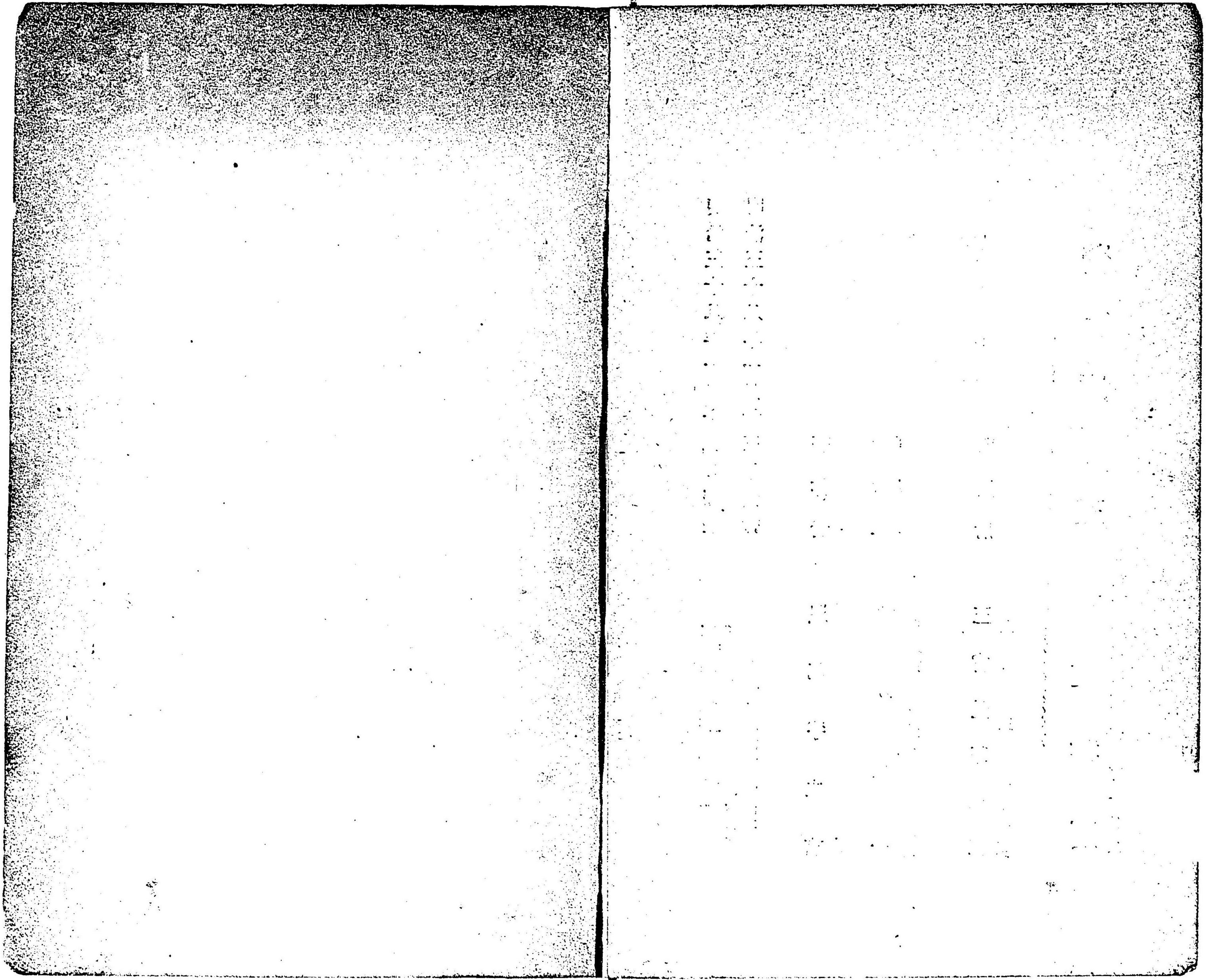
東京市神田區三崎河岸第十二號地

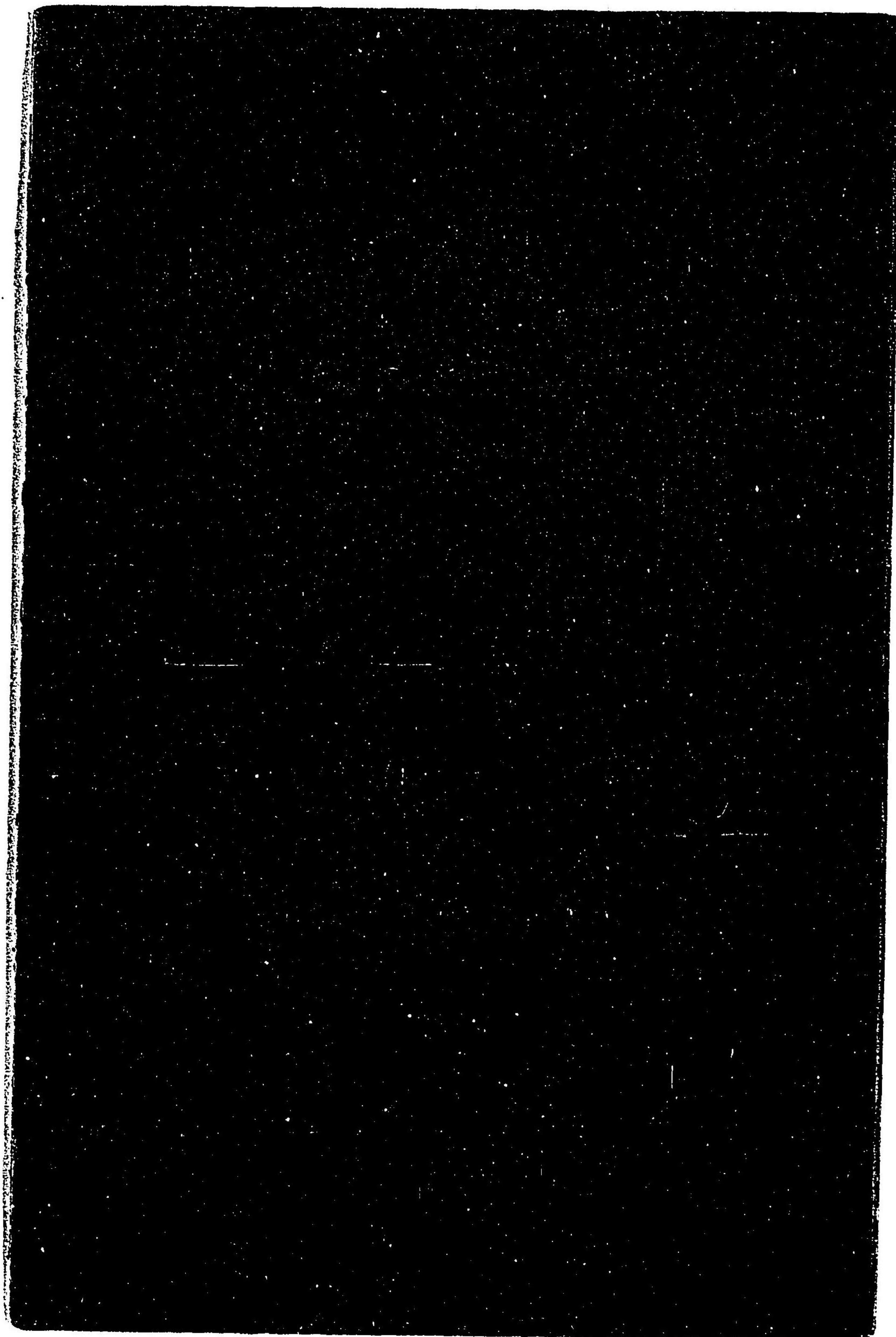


發 行 所 三 省 堂 書 店

東京市神田區

神保町一番地





特70

41

026561-000-6

特70-41

清国通考

服部 宇之吉/著

M38

ADD-0235



1870
41

文學博士服部宇之吉撰

清國通考 第一篇

東京

三省堂書店發行